

地域連携テクノセンター活動紹介誌

# JOINT2021

— 地域との連携をめざして —



## 「コロナ禍を越えて」



福井工業高等専門学校  
地域連携テクノセンター長

松 井 栄 樹

令和2年3月頃から全国的に未知の新型コロナウイルス感染症の感染拡大が見られ、令和2年度に入っても拡大傾向は収まらず、収束するかに見えても6月中旬頃から第2波、10月末頃から第3波、3月中旬頃から第4波の感染拡大が起こっています。本校では昨年度は8月末まではオンラインでの講義を実施、9月より前期の実験実習科目と面接授業での復習、10月下旬より面接での後期授業を行い、何とか令和2年度を終えることができましたが、現時点で令和3年度の先行きは不透明です。

新型コロナウイルス感染症により、昨年度当初、多くの学校が休校となり、気持ちを新たにスタートしたい新入生や在校生の出端を挫きました。学校が再開しても、マスクを着用の上、距離を保ち、大声でしゃべらず、向き合って飲食をしない等を厳守する必要があります。以前のように気楽には交流ができず、人との距離を縮めるのが少し難しい世の中となっています。また、不要不急の外出を避ける傾向が続き、これまでの消費行動が大きく変化し、また需要そのものも蒸発してしまった業種も多く見られています。企業も学校も個人も、社会全体が大きな打撃を受け、回復にはほど遠い状態であり、まずは日常生活を大過なく過ごせることを第一として、日々努めているのではないかと思います。

このような制約が絶えずつきまとうウィズコロナ時代に、地域連携テクノセンターは、どのように活動し、自らを活性化させ、地域のお役に立つことができるのでしょうか。私たちは自身の技術を発展させるだけでなく、地域に発信し、その技術により少しでも社会貢献できればと思っています。

「愛とはお互い見つめあうことではなく、共に同じ方向を見つめることである」星の王子さまで有名なアントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの言葉です。まず、共に道を歩み、一緒に同じ方向を見ていくこと。また、互いに話し合い、お互い行動することで、方向を一致させること。

この「JOINT2021」には、本校教職員が試行錯誤しながら取り組んでいる教育研究に関するシーズが詰まっています。さらに本校では「地域連携アカデミア」という外部組織を立ち上げており、会員になっていただいている学外の方々と、本校教職員や卒業生、学生を引き込んだ連携について模索しながら活動をしています。また、今年度より専門知識を有するリサーチアドミニストレーターを配置したFK-RA オフィスを開設し、研究プロジェクトの企画運営から研究成果の社会還元まで一貫した研究支援、産官学連携の推進に取り組んでいます。

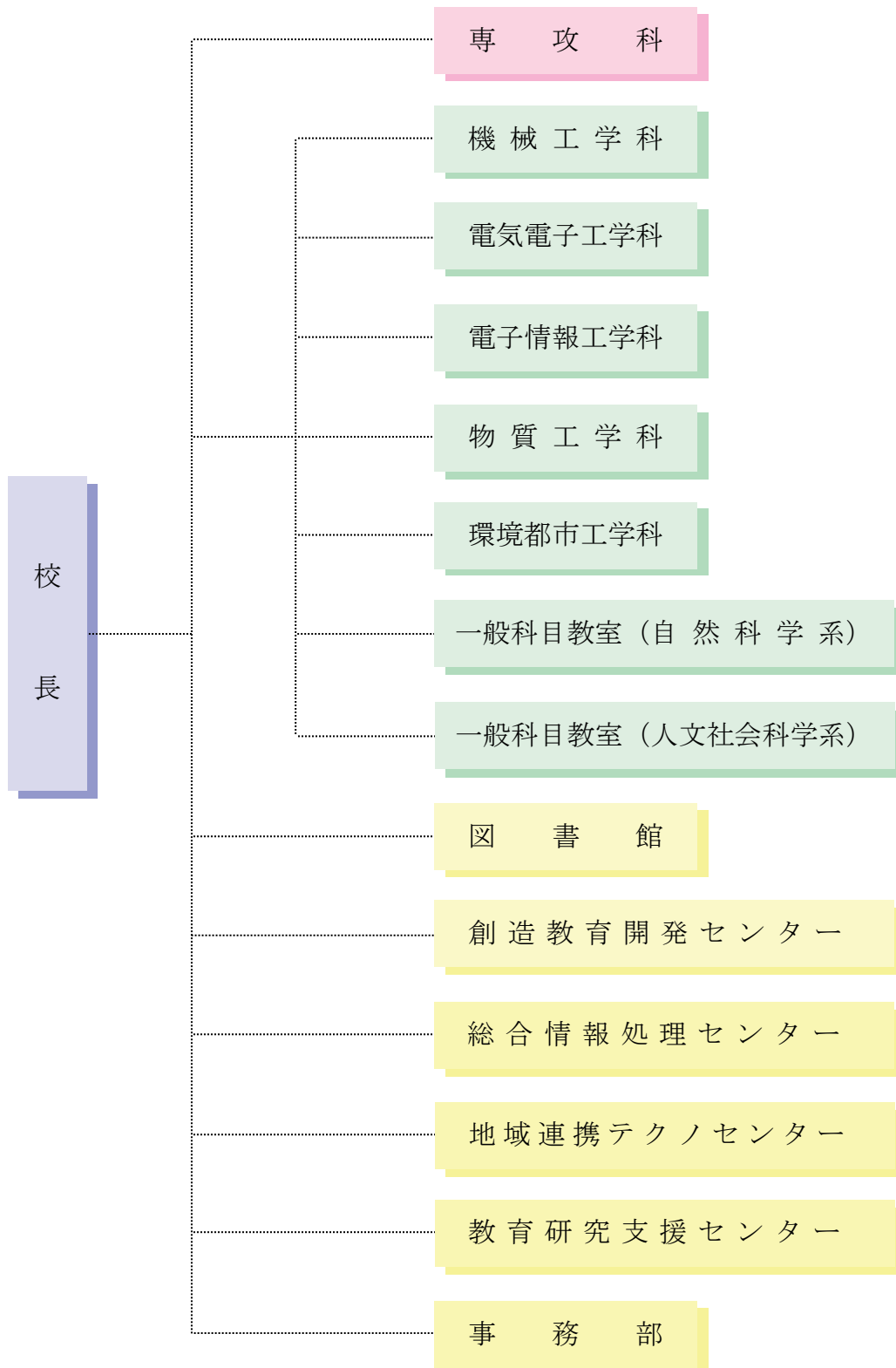
この冊子をご覧になり、興味がある事項についてお気軽にお問い合わせいただければ、本校教職員がお話を伺って問題、課題を共有し、ともに解決に向け取り組みます。

このような状況下だからこそ、私たちは皆様とともに歩み、成長していきたいのです。

# 目 次

1. 福井工業高等専門学校組織図	1
2. 地域連携テクノセンターの概要	2
沿革	2
組織	3
施設	4
2021年度活動予定	6
地域連携テクノセンターの保有機器	7
3. 地域社会との連携事業	
福井高専リサーチアドミニストレーター紹介	10
第15回越前市ロボットコンテストへの協力事業	12
「高専カフェ」開催	13
北陸技術交流テクノフェア2020の出展・参加	14
JOINTフォーラム2020開催	14
第26回マグネットコンテスト開催	15
「ふくい知財フォーラム」セミナーへの参加	15
高専ライブでの教養講座の実施	16
4. 技術相談	17
5. 共同研究	21
6. 受託研究	24
7. 寄 附 金	26
8. 福井高専地域連携アカデミア	28
9. 福井高専のシーズ	34

# 1. 福井工業高等専門学校組織図



## 2. 地域連携テクノセンターの概要

福井工業高等専門学校は、平成3年度に「先進技術教育研究センター」を設置し、校内の教育研究体制を充実させるとともに、地域企業との共同研究及び技術相談の促進を行なってきました。

平成16年4月に伝統産業支援室を開設し、翌17年4月に同センターを「地域連携テクノセンター」と改称した後も地場産業支援室やサテライトラボ（企業の方への貸し出し実験スペース）の設置など、地域に根ざした人材の育成と技術支援を目指し様々な取り組みを行っています。平成18年度には当センター内に「地域・文化」「環境・生態」「エネルギー」「安全・防災」「情報・通信」「素材・加工」「計測・制御」の7部門を設け、より分かりやすく、より相談しやすい受入れ体制を整えました。

また、平成19年度にはアントレプレナーサポートセンターを開設し、起業家育成と事業創出の支援を行なっています。

さらに、平成25年度及び令和元年度には地域連携テクノセンターの改修工事が完了し、令和2年度に地域支援室を設置、展示・交流ホールを整備し、より一層利用しやすくなりました。

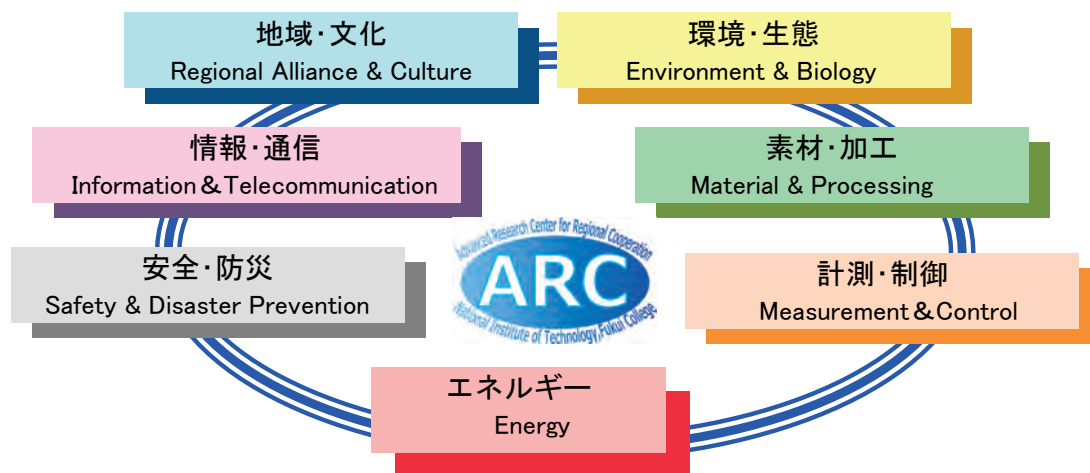
### 沿 革

平成3年度	「先進技術教育研究センター」設立 共同研究発表会開始
平成5年度	高度技術者研修開始
平成6年度	教育研究振興会結成
平成7年度	マグネットコンテスト開始
平成8年度	活動紹介誌「JOINT」発行開始
平成10年度	福井県地域研究開発促進拠点事業(RSP事業)開始
平成11年度	ラジオキャンパス開始
平成12年度	JOINTフォーラム開始 福井県地域結集型共同研究事業開始
平成15年度	福井県都市エリア型共同研究事業開始
平成16年度	伝統産業支援室の設置 さばえめがねワク waku コンテスト開始(~23年度)
平成17年度	「地域連携テクノセンター」に名称変更 地場産業支援室の設置 教育研究振興会を地域連携アカデミアに改組
平成19年度	「アントレプレナーサポートセンター」設置
平成22年度	ふくい防災マップコンテスト開始(~23年度)
平成25年度	地域連携テクノセンター リニューアル
平成26年度	鯖江市防災士養成講座開講
令和元年度	地域連携テクノセンター リニューアル
令和2年度	地域支援室の設置 展示・交流ホールの整備

## 組 織

Advanced Research Center for Regional Cooperation (ARC)

本センターには7つの研究部門があります。



職 名	氏 名	所 属	電話番号 (研究室直通)
センター長 (併任) 教 授	松井 栄樹	物 質 工 学 科	0778-62-8323
副センター長 (併任) 准教授	金田 直人	機 械 工 学 科	0778-62-8251
副センター長 (併任) 講 師	村田 知也	電子情報工学科	0778-62-8281
地域・文化部門長 (併任) 准教授	長谷川智晴	一般科目教室	0778-62-8246
同 副部門長 (併任) 助 教	川畑 弥生	一般科目教室	0778-62-8233
環境・生態部門長 (併任) 准教授	後反 克典	物 質 工 学 科	0778-62-8325
同 副部門長 (併任) 助 教	坂元 知里	物 質 工 学 科	0778-62-8327
エネルギー部門長 (併任) 教 授	芳賀 正和	機 械 工 学 科	0778-62-8255
同 副部門長 (併任) 准教授	高久 有一	電子情報工学科	0778-62-8279
安全・防災部門長 (併任) 准教授	田安 正茂	環境都市工学科	0778-62-8300
同 副部門長 (併任) 助 教	樋口 直也	環境都市工学科	0778-62-8275
情報・通信部門長 (併任) 准教授	小越 咲子	電子情報工学科	0778-62-8280
同 副部門長 (併任) 准教授	佐々 和洋	物 質 工 学 科	0778-62-8291
素材・加工部門長 (併任) 准教授	西野 純一	物 質 工 学 科	0778-62-8293
同 副部門長 (併任) 教 授	常光 幸美	物 質 工 学 科	0778-62-8287
計測・制御部門長 (併任) 准教授	亀山建太郎	機 械 工 学 科	0778-62-8315
同 副部門長 (併任) 講 師	村田 知也	電子情報工学科	0778-62-8281

## 施設

### 地域支援室

福井県の丹南地域は、眼鏡枠を始め、繊維・染色産業・セラミックスや自動車関連、化学工業などの生産地でもあり、これらの地場産業は福井の経済を支える大きな位置を占めています。また、古くから越前和紙、越前漆器、越前打ち刃物、越前焼き（陶芸）の4つの伝統産業が栄え、地場産業の基盤を支える大きな拠点となっています。

地域支援室では、原子力人材育成、農工連携、地域企業との共同研究、外部資金獲得のための教育研究スペースなど、地域のテクノサポートセンター拠点となるべく、令和2年度に設置されました。

地域からの技術支援要請に応え、地域基盤の活性化を図るため、技術相談や依頼をひとつの窓口で受け入れることによって、より親しみやすく相談しやすい体制を構築しています。



### デジタル造形室

3Dプリンタ、3Dプロッタ、レーザーカッター、基板加工機、3Dスキャナーなどのデジタル造形機器を備えた加工室です。

学生のモノづくり能力育成を目的として設置された施設であり、実験実習・卒業研究などのカリキュラムでの利用に限らず、ロボットコンテストやデザインコンテストなど課外活動での利用も推奨しています。また、学外の方の利用にも対応しています。

### 高度分析計測室

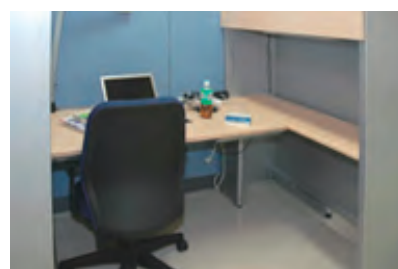
大型の分析・評価装置を備えて、本校の研究を支え、企業の方の依頼分析等に応える施設です。ICP、ESCA、TEM、SPM、SEM、XRD他多くの機器類を共同で運営しており、地域連携技術者研修を受けていただければどなたでも使用していただくことができます。

また、学内保有の各種機器についても事前に御連絡いただければ教育・研究に支障のない限り使用していただくことが可能です。

### アントレプレナーサポートセンター

平成19年4月、地元の起業、創業を促進し、地域産業の活性化を図る目的で、地域連携テクノセンターに開所しました。

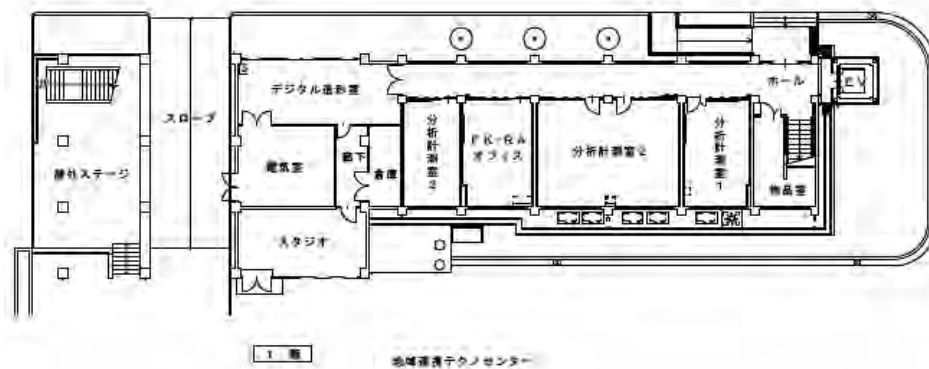
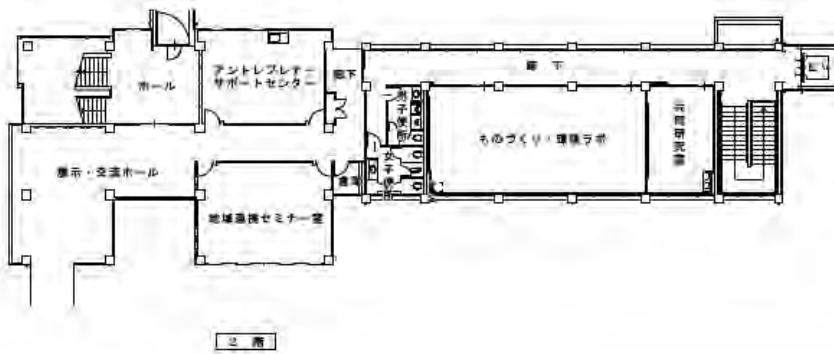
これは1～2年後の起業を志す、あるいは自らのアイデアを事業化したいと考える学生・地域の技術者を対象に、オフィススペースを一定期間（半年契約で最大1年間）提供しています。令和元年度に改修工事を行い、より利便性が向上されました。



# 地域連携テクノセンター外観



# 地域連携テクノセンターフロア図





## 2021年度活動予定

※以下に掲載の活動予定は、2021年4月に開催された地域連携テクノセンター運営委員会で承認されたものですが、新型コロナウイルス感染症への対策により中止になる可能性もございます。詳細については各主催者のホームページ等でご確認ください。

- 6 月 福井高専地域連携アカデミア役員会開催  
JOINT2021発行
- 7 月 福井高専地域連携アカデミア総会開催
- 8 月 防災グッズ工作教室を開催（共催事業）  
第16回越前市ロボットコンテスト競技会・表彰式を開催（共催事業）
- 9 月 第27回マグネットコンテスト作品募集開始（～9/30まで）  
越前モノづくりフェスタ2021に出展
- 10月 第1回高専カフェを開催  
さばえものづくり博覧会2021に出展  
北陸技術交流テクノフェア2021に出展
- 11月 第2回高専カフェを開催  
ふくい知財フォーラムに出展
- 12月 JOINTフォーラム2021を開催  
第3回高専カフェを開催  
防災グッズ工作教室を開催（共催事業）
- 1 月 第4回高専カフェを開催
- 2 月 第27回マグネットコンテスト表彰式を開催（主催事業）



## 地域連携テクノセンターの保有機器

### 1. 超高分解能電界放出形走査電子顕微鏡 (SEM) (元素分析システム付)

日本電子 JSM-7001F TTL S型

構成 サーマル電界放出形電子銃 (FE)

下方二次電子検出器・上方二次電子検出器・

半導体反射電子検出器

コンカル対物レンズ (磁場漏れのないアウトレンズ)

5軸コンピュータ制御モータ駆動試料ステージ

エネルギー分散形X線分析装置 (EDS)

性能 二次電子像分解能: 1.2nm (加速電圧 30kV)

観察倍率:  $\times 10 \sim \times 1,000,000$

加速電圧: 0.1kV (試料バイアス電圧負荷)  $\sim 30kV$

EDSエネルギー分解能: 133eV以下, 検出可能元素: Be $\sim$ U

用途 金属材料, 電気電子材料, 機能材料, 新素材などの材料表面をナノメートルオーダーの超高分解能で観察できます。また, SEMと組み合わせて広範囲の元素分析が可能で, 材料・機械・エレクトロニクス・情報・化学・バイオなどの分野に有用です。



### 2. 赤外吸収スペクトル測定装置

構成・性能

パーキンエルマー社

分解能 最高 0.4 $cm^{-1}$

測定波数範囲 8300 $\sim$ 350 $cm^{-1}$

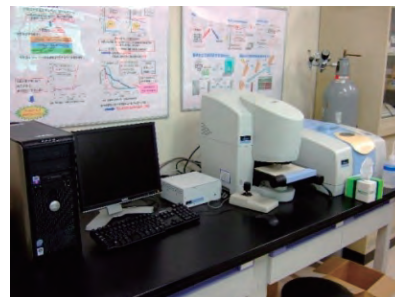
S/N比 55000:1

赤外顕微鏡 Spotlight200

測定波数範囲 透過・反射・ATR 測定時 7800 $\sim$ 600 $cm^{-1}$

測定モード 透過/反射/Ge-ATR マッピング及び透過/反射/ATR ポイント測定

用途 赤外分光法は特に分子の官能基や早い運動についての情報が容易に得られる特徴を持っており, 材料全般について測定可能です。また, ATR (全反射法), 顕微赤外法部分を持つことから, 特に水溶液の測定や微小部位の測定に有利です。



### 3. X線光電子分光分析装置 (ESCA)

日本電子 JPS-9010TR型

最小分析範囲 200 $\mu m \phi$

用途 X線モノクロメーターを内蔵し, 単色化したAlK $\alpha$ 線源が利用でき, 金属, 高分子やハイテク材料の表面分析に最適です。



### 4. 誘導結合型高周波プラズマ発光分光分析装置 (ICP-AES)

パーキンエルマー社 Optima8300

特徴 多元素同時定量が可能 (検出感度: ppb $\sim$ ppm)

波長範囲 160 $\sim$ 782nm 分解能 0.006nm

用途 試料に高温のエネルギーを与え, 放射された光をCCDで検出することで, 試料に含まれる元素 (約70種類) の定性および定量分析が可能です。化学試料, 生体試料中の微量成分分析, 鉄鋼, 非鉄金属中の微量金属の分析などに最適です。



## 5. 走査型プローブ顕微鏡 (SPM)

日本電子 JS PM-4200 型

原子分解能 AFM (原子間力顕微鏡) モード: マイカ原子像

STM (走査型トンネル顕微鏡) モード: HOPG原子像

特徴 SPMの画像情報は、走査電子顕微鏡 (SEM) 像に似ています。しかし、SPMの水平分解能は 0.14nm と高く、通常のSEMでは観察できない原子分解能領域での観察が可能です。またSPMの垂直分解能は0.01nm と非常に優れ、試料表面の凸凹形状を非接触もしくは低ダメージで正確にとらえることができます。さらに、SPMは表面の形態情報のみならず、摩擦・粘弾性・磁気・表面電位など様々な情報をも画像化でき、特にMFM (磁気力顕微鏡) モードでは、磁区観察に威力を発揮します。



## 6. 超高分解能電子顕微鏡システム (TEM)

日本電子 JEM-2010 (UHR) 型

性能 分解能: 粒子像 0.25nm, 格子像 0.14nm

微少プローブ径: 0.5nm, 加速電圧: 200kV

特徴 原子スケールでの固体材料の微細構造をとらえるための超高分解能観察と極微小領域分析 (電子線回析等) の両方の機能を有する最先端の透過型電子顕微鏡です。新材料等の材料研究をはじめ、バイオ・医療分野にも幅広く活用されます。



## 7. 試料水平型多目的X線回折装置 (XRD)

リガク UltimaIV

性能 最大定格出力: 3kW, ターゲット: Cu, スキャンモード:

$\theta$ s/ $\theta$ d 運動,  $\theta$ s,  $\theta$ d 単独, ゴニオメータ半径: 285mm,  $2\theta$  測角範囲:  $-3\sim 162^\circ$ , 最小ステップ角度: 0.0001°

特徴 X線を用いて薄膜応用材料である金属多層膜, 化合物半導体薄膜, 無機有機発光材料, LB薄膜, 鈳物などの回折パターン及び反射率を測定して, その組成分析や結晶性などを評価する装置です。また, ナノ粒子の構造評価として注目されているX線小角散乱測定が可能であり, 専用ソフトウェアを使用してナノ粒子サイズ分布を解析できます。さらに, 粉末X線回折測定を行って複雑な結晶構造を持つ材料の定性分析及び定量分析を行うことができます。



## 8. 核磁気共鳴装置 (NMR)

ブルカー・バイオスピン AVANCE III 400MHz

性能  $^1\text{H}$  共鳴周波数 400 MHz

$X$  核共鳴周波数 14~400 MHz

溶液用検出器 観測核  $^{15}\text{N}\sim^{31}\text{P}$ ,  $^{19}\text{F}$ ,  $^1\text{H}$  を自動で観測

特徴 化学や生物の研究分野で用いる分子の核スピンを観測し, 分子構造の決定を行う汎用性の高い非破壊検査法です。固体プローブを備え, 幅広い材料測定に利用できます。



## 9. MIT耐折度試験機

テスター産業 BE-201

性能 荷重：2.9～14.7Nスプリング式， 屈曲速度：175cpm  
 屈曲角度：左右135°

用途 紙，フィルム，金属箔やフレキシブルプリント配線板（FCL，  
FPC）等の耐折性を評価する装置で，耐折性試験機としては最も  
ポピュラーな装置のひとつです。



## 10. 次世代ものづくり教育用実験装置

### ① 3Dカラーキャナ

データ・デザイン Artec Eva

性能 3D解像度（最大）0.5[mm]， 3D精度（最大）0.1[mm]  
 撮影範囲 214×148[mm] - 536×371[mm]， 24bit Color

用途 24ビットカラーテクスチャを添付した3Dデータの作成。

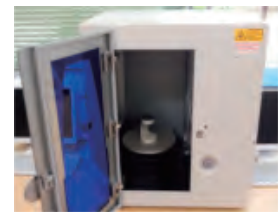


### ② 3Dスキャナ

ローランドディージー LPX-600

性能 スキャン領域（幅）254×（高さ）406.4[mm]  
 最小スキャンピッチ 0.2[mm]

用途 3Dデータの作成



### ③ 3Dプリンタ

KEYENCE AGILISTA-3100

性能 造形サイズ 297×210×200[mm]， 解像度 635×410[dpi]  
 Z分解能（高分解能）15/（標準）20[μm]

モデル/サポート材 ABSライク透明樹脂/水溶性樹脂



### ④ 3Dプロッタ

ローランドディージー MDX-540S

性能 加工可能材料 樹脂・軽金属， 最大ワーク質量 20[kg]  
 動作ストローク 500(X)×400(Y)×155(Z)[mm]

位置決め精度 ±0.1[mm]/300[mm]， 分解能 0.001[mm/step]



### ⑤ 基板加工機

Mits Auto Lab

性能 加工範囲 229[m]×300[mm]， 分解能 0.156[μm]

最小パターン幅 0.1[mm]， 自動工具交換機能あり

入力データ形式 ガーバーデータ， DXF形式



### ⑥ レーザーカーター

レーザーコネク ト Epilog Mini 18

性能 加工範囲 475×305[mm]， ワーク最大高さ 102[mm]

レーザー形式 炭酸ガスレーザー（1063[μm]） 出力 30[W]

Corel Drawdで読み込める形式に対応



### 3. 地域社会との連携事業

#### 福井高専リサーチアドミニストレーター紹介

##### 【リサーチアドミニストレーター（知的財産担当） 養輪泰造】

これから皆さんが研究を進めるときや企業において新製品の開発に携わるとき何かと知的財産に関わることになります。既存の知的財産との関係を調べたり、知的財産として権利化するときなどアドバイスをさせていただきます。

##### 1. 先行技術の調査

研究や開発を進める場合、先行する技術を確認することで他人の権利を侵害しないことや研究や開発が重複する無駄を省くことが可能です。また既存の技術や知見と比べて新規性や進歩性を主張する場合にも先行する特許などをベースにすれば説得力があります。

知的財産（特許・実用新案・意匠など）の先行技術調査は「特許情報プラットフォーム」から誰でも可能です。一度覗いてみてください。

(<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>)

##### 2. 知的財産の出願・登録

優れた研究や製品開発がなされた場合、論文発表と合わせて知的財産の出願・登録を考えましょう。他者にただ乗りされないためにも知的財産の登録は重要です。本校では知的財産の出願や権利化に伴う手続きや費用面でのお手伝いが可能です。出願の可能性や手続きなど総務・地域連携係を通して問い合わせください。



##### 【リサーチアドミニストレーター（産学連携担当） 南保幸男】

産業構造や働き方が大きく様変わりし、対面からリモートでの仕事に変換された社会の中で将来のあるべき姿を見据えた洞察（インサイト）力の育成が必要となります。

市場では少子高齢化（A I活用）、健康長寿（ヘルスケア）、生活の質向上（QOL）での課題を解決すべき新分野での新技術開発、新規な販路開拓が求められ、シーズを活かした革新的なテクノロジーの確立が急務とされています。技術開発の実施には様々な組織体で連携された共同開発体制での進行にて、独創的で筋の良いテーマを提案し、単発のテーマから脈絡のある継承テーマへシフトして、国の競争資金を獲得し、オープンイノベーション協業体制にて問題解決を効率的かつ知恵の結集をしていきます。今後は福井高専発信での新ビジネスモデル化を実施すべく「互助社会の形成」「新規テーマの提案」「産官学連携体制づくり」「先進・先端地区との情報交流」への支援を心がけた活動を皆さんと協力して一緒に創り上げたいと思います。



## 【リサーチアドミニストレーター（研究推進担当） 安丸尚樹】

### 「研究テーマとの出会い」

約 20 年前、私は地域連携テクノセンターの前身「先進技術教育研究センター」の担当でした。その当時、福井県地域結集型共同研究事業というレーザー技術に関する大型プロジェクトが始まり、産学連携担当として参加しました。フェムト秒レーザーによる精密加工研究を地元企業と始め、照射面を走査電子顕微鏡で観察すると、ナノレベルの周期構造（ナノ構造）が加工されることに気がきました。その写真をレーザーの専門家に見せると、光加工の限界（光の波長）以下の構造で、光を用いた初めてのナノ加工技術になることが判明しました。この技術は早速特許化し、新聞等で報道されました。産官学共同研究で偶然巡り会った研究テーマでしたが、その後定年まで研究を継続でき、科研費等の外部資金の連続獲得にも繋がりました。

高専は教育主体の高等教育機関ですが、課題探求・解決型の学生を育成するために、教員自らが研究活動を行う必要があります。そのために、良い研究テーマに出会い、外部資金を獲得するためのお手伝いができるよう努力したいと思っています。

ぜひ気軽に声をかけてください。



## 第15回越前市ロボットコンテストへの協力事業

(計測・制御部門 亀山建太郎, 西 仁司)

地域連携テクノセンターは『越前市ロボットコンテスト』に対し、平成22年度より様々な形で協力を行ってきており、今年で11年目となりました。

令和2年度はコロナ状況下で、高専では前期はオンライン授業、中学校では全く授業ができなかったという状況においてロボット大会を実施するという事は、色々な点で問題がありましたが、中学校の先生方のご尽力により、何とか開催することができました。

問題点としては、まず、開催日が取れないという点がありました。中学校としては、夏休みが殆ど無い状態で学事日程を消化しなければならなかったため、実施日の9/11日を除き、ほぼ候補日が無い状態だったと聞いています。

また、例年であれば、夏休み初めに小中学生に対して講習会を実施し、夏休みをかけてロボットを製作するという日程で作業を進めていましたが、今年は講習会も実施できず、また、授業が行われる中での製作であったということです。

開催場所についても、例年であれば、高専の体育館で実施していましたが、今年は、急遽応援合戦の日程が移動してきたため、中学校の体育館で実施していただくこととなりました。

運営サポートについても、例年であれば、ロボット部部員を設営・運営サポート・審判員として派遣していましたが、今年は会場が高専では無いことと、感染拡大を防ぐという観点から学生の派遣は無しとし、教員のみによる運営となりました。

競技種目についても、例年は3部門（小学生対象：チャレンジ部門、中学生対象：活用部門、応用部門）実施していたのに対し、今年は応用部門のみの実施となりました。

以上のように、今年の実施は例年に対して相違点だらけでしたが、中学生の製作してきたロボットは、難易度の高いルールに対して十分な機能を有するものであり、一体どのように指導されたのか不思議に思いましたが、今年の大会は午前中のみで終了し、反省会もなかったため、詳しいお話を聞くことはできませんでした（下図参照）。

今回のような事態はそうそう起こって欲しくはありませんが、今回のコロナの一件で遠隔就労・遠隔教育について機運が高まったことから、今後はリモートでのロボット教育についてのニーズが生まれることは予想されますので、今回限りの事とせず、本経験を次に繋げていきたいと思わせる年となりました。



## 「高専カフェ」開催

(地域・文化部門 長谷川智晴, 川畑弥生)

高専での教育や研究を紹介する機会として、オープンキャンパスや公開講座等が盛んですが、「ものづくり」や「実験」などが、キーワードになったものがほとんどです。一方、言語や歴史、文学、また科学であっても以上にあげたキーワードから遠い分野の教育や研究は、地域の皆様に紹介する場が多くありません。

「高専カフェ」とは、主に地域・文化部門に所属する教職員が行なっている教育や研究などを紹介するもので、肩の力を抜きながらゆっくりと話を聴いていただき、時には議論していただくという企画です。平成27年度から始め、6年目を迎えました。

令和2年度は以下のような内容でした。

日程	講師	テーマ
10月23日(金)	秋山 肇 教員 (電気電子工学科)	『福井の電気黎明期－維新前と明治を中心に－』
11月13日(金)	市村 葉子 教員(国語)	『会話資料からみる言葉の変化』
12月18日(金)	木村 美幸 教員(歴史)	『青少年はなぜ軍隊を目指したのか？－海軍の宣伝活動から考える－』
1月15日(金)	相場 大佑 教員(数学)	『身の回りにある数学』

「高専カフェ」の名の通り、気軽に参加していただき語り合うという趣旨のもと、事前申し込みなしで実施しています。令和2年度はコロナ禍のため開催が危ぶまれましたが、感染対策に留意しつつ実施することができました。回を追うごとに参加者も増え、後半には20名近い参加者にご聴講いただきました。教職員の他、一般の方にも多数ご参加いただき活発な質疑応答が行われました。

写真は第4回の様子です。美術における黄金比や、植物の葉っぱのつき方の法則性など、身近にある数学についてお話ししてもらいました。折り紙を使った作図の方法など、参加型の講演は大変好評でした。





## 北陸技術交流テクノフェア2020の出席

(地域連携テクノセンター，専攻科)

全国からものづくり企業が集う北陸最大規模の展示商談会である北陸技術交流テクノフェアが、11月1日～30日にWeb形式で開催されました。福井高専は、専攻科2年生が取り組んでいる特別研究の成果を掲載し、研究シーズ発信しました。



福井高専のページ

## JOINTフォーラム2020開催

(地域連携テクノセンター)

令和2年12月16日、鯖江市嚮陽会館において「JOINTフォーラム2020」を開催しました。

本フォーラムは、本校と福井県内の産官学金関係者との結びつきを深めることを目的として、地域連携テクノセンター主催で実施しているものです。「福井高専における産官学金連携の将来像」をメインテーマに掲げ、地元企業、本校の教育研究支援組織「地域連携アカデミア」会員企業、本校教職員など72名の参加がありました。

田村校長の開会挨拶に続き、福井県産業労働部副部長（産業技術）兼 福井県工業技術センター所長 ふくいオープンイノベーション推進機構ディレクター 山本 雅己 氏による特別講演が行われ、『福井県におけるオープンイノベーション戦略の現状と今後』について講演いただきました。

また、本校教職員による25件のポスターセッションのほか、地域連携アカデミア会員企業からJOINTフォーラム2020のために作成いただいた企業ポスター15件の紹介があり、活発な意見交換などが行われました。

閉会にあたって、地域連携テクノセンター長から挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。



開会挨拶する田村校長



特別講演 山本 雅己 氏

## 第26回マグネットコンテスト開催

(素材・加工部門 西野純一，常光幸美)

マグネットコンテストは、ものづくり教育の一環として、レア・アースマグネットの世界的生産拠点である信越化学工業（株）武生工場の協力を得て平成7年度から実施しているもので、第26回となる今回は、県内外の小中学生，高専生，高校生から総数796件のアイデア作品が寄せられました。

厳正なる審査の結果，最優秀賞から佳作まで21作品が選ばれ，そのうち最優秀賞を含めた受賞者6名が表彰式に参列しました。表彰ののち，審査員からアイデアに対する講評などがあり，将来ものづくりに関わっていく上でのアドバイスやエールが送られました。

表彰式で掲示されたパネルにされた応募作品の前では，アイデアを応募した経緯，苦勞した点などの質問が出席者から受賞者へ寄せられました。緊張しながらもしっかりと受け答えする受賞者の姿が微笑ましく，和やかな雰囲気の中無事終了しました。



表彰式の様子



受賞者記念撮影

## 「ふくい知財フォーラム」セミナーへの参加

(情報・通信部門 川上由紀)

知財を軸とした人的ネットワークを構築し，産学官連携を通じたイノベーションの創出を牽引することを目的とした第11回「ふくい知財フォーラム」セミナー（テーマ：地域知財を通じた知と技の融合・連携づくり）が11月24日にオンライン（Zoom）で開催されました。

本セミナーでは，宇宙ビジネスを軸とした大学・公設機関等と企業との連携の在り方や，知的財産の在り方について，「なぜ宇宙ビジネスが注目されるのか」という切り口から講演が実施されました。後半はZoomのブレイクアウトルーム機能を利用し参加者が2つのセッションに分けられ，講師と参加者との意見交換が行われました。

また，福井県内の大学・公設機関等の研究内容および知財支援内容等のリソースを紹介したスライドや，ふくい知財フォーラムの取り組みについての情報が参加者に共有されました。本校からはテクノセンターの紹介やJOINTフォーラムに関する案内を出展しました。

なお，本フォーラムは計79名（企業29名 関係機関（福井大学含）50名）の参加がありました。

## 高専ライブでの教養講座の実施

(地域・文化部門 長水壽寛、市村葉子、計測・制御部門 西 仁司)

福井高専では、地域の皆さんに高専をもっともっと活用していただくため、学生や教職員、また高専にかかわる様々な方とのインタビューを中心とした「高専ライブ」というラジオ番組を、毎週日曜日の11時から12時まで（再放送は毎週土曜日23時から24時まで）、たんなんFM79.1MHzにて放送しています。なお、たんなんFMの放送は、たんなんFMのホームページでも同時配信しておりますので、インターネットを利用することでどこでもお聞きになれます。



この番組の中のコーナーの一つで、本校教職員が自身の専門分野に関する「教養講座」を放送しております。これまでに放送した内容の一例を以下に示します。

担当教員	タイトル	内容・テーマ例
長水壽寛 教員（数学）	「数学の部屋Season2」	高専の数学教育について 「饅頭はあんこが重い」 「黄金比とフィボナッチ数列」 など
長谷川智晴 教員（物理）	「サイエンス共和国」 「科学のつまみ食い」	物理の話 「周期表の話」 「長さの話」 など
松井一洋 教員（体育）	「PESカフェ」	体育、スポーツの話 「日本起源のスポーツのお話」 「eスポーツのお話」 など

最新の学術動向から、事実の裏側になるエピソードなど、一般の方にもわかりやすくお話しておりますので、ぜひお聞きください。

なお、高専ライブではお聞きの皆様からのご意見、ご感想などをメールにて受け付けております。メールアドレスは、k@tannan.fmです。どしどしお寄せください。

## 4. 技術相談

本校には、地域・文化、環境・生態、エネルギー、安全・防災、情報・通信、素材・加工、計測・制御の7つの研究部門があり、多くの分野にわたって、多数の専門家が在職しています。

企業の現場などで解決を迫られている難問や疑問を解決できることも多く、これまでも技術相談等地域社会に協力してきました。下記以外にも様々なお話を伺いますので、お気軽に御相談下さい。

### ■県内企業等からの技術相談の例

共同研究に至らない、あるいは、共同研究の前段階として多数の技術相談が寄せられ、例として次のようなものがあります。

- (1) 浄水場で発生する汚泥の土構造物への転用策
- (2) レンズの分光光学特性測定
- (3) 廃液中の色度の軽減
- (4) 防災に関するガイドブック作成
- (5) 製材所から出るおがくずの有効利用策
- (6) 繊維機械内における糸の走行状態の把握

#### ※技術相談の申込み

17ページの「技術相談申込書」(別記様式1)により下記までお申し込みください。

福井工業高等専門学校総務課 〒916-8507 福井県鯖江市下司町

TEL(0778)62-1881 FAX(0778)62-2597 E-MAIL [techno@fukui-nct.ac.jp](mailto:techno@fukui-nct.ac.jp)

## 技術相談申込書

福井工業高等専門学校長 殿

下記のとおり技術相談を申し込みます。

記

申込者	企業名			
	役職		氏名	
	住所			
	TEL		E-mail	
共同研究等の申請を前提としていますか		<input type="checkbox"/> 前提としている <input type="checkbox"/> 前提としていない <input type="checkbox"/> 未定		
過去に同一の技術相談をされましたか		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
地域連携アカデミア会員ですか		<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員		
技術相談の予定時間数は何時間ですか		時間		
相談分野				
相談教職員名（できれば記入してください。）				
相談事項（具体的に書いてください。）				
相談料	<input type="checkbox"/> 有料（      円）	<input type="checkbox"/> 無料	※本校側で記入します。	
（受付番号）	（受付年月日）	（応談者）	※本校側で記入します。	

次の事項について、ご確認の上、同意いただける場合は、レをご記入願います。

秘密保持	<input type="checkbox"/> 技術相談の経過において、担当教職員よりノウハウ等の提供を受けた場合、秘密保持契約を締結することに同意する。 ※同意いただけない場合、技術相談を実施することができません。
知的財産の取扱い	<input type="checkbox"/> 技術相談の経過又は結果、担当教職員の寄与により知的財産が生じた場合、当校へ書面にて通知することに同意する。 ※同意いただけない場合、技術相談を実施することができません。

(注意)

- ・本申込書は、技術相談の都度ご提出願います。
- ・太線枠内を記入して下さい。
- ・技術相談予定時間数の最少時間は1時間単位です。
- ・相談料は、技術相談前に原則として本校が指定する所定の口座に振り込んで下さい。
- ・いったん納付された相談料は、学校の都合により受け入れを取り消した場合以外は返金しません。
- ・申請された技術相談予定時間数を超過した場合は、その時間に応じ追加料金が発生します。
- ・相談場所が学外である場合の交通費、技術相談の経過で分析等を実施した場合の費用等は、相談料とは別に徴収します。
- ・ご不明な点は総務課（TEL：0778-62-1881、E-mail：techno@fukui-nct.ac.jp）までお問い合わせ下さい。
- ・記載していただいた情報は技術相談にのみ使用させていただきます。

# 福井工業高等専門学校技術相談規則

平成 27 年 3 月 5 日規則第 6 号

改正 令和元年 5月29日規則第19号 令和 2年 3月26日規則第68号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構技術相談に関するガイドライン（平成 27 年理事長裁定）に基づき、福井工業高等専門学校において技術相談の取扱い等に関し必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 技術相談とは、企業等における技術的な問題解決を中心とした一時的な相談をいう。

(技術相談の申込)

第 3 条 技術相談の申込は、原則として「技術相談申込書」（別紙様式 1）に記入し、地域連携テクノセンター（以下「センター」という。）へ提出するものとする。

(技術相談の実施)

第 4 条 センターで技術相談申請書の内容を確認し判断の上、適切な担当教職員（以下「担当教職員」という。）を決めた後、担当教職員へその旨通知し、技術相談を実施する。

2 技術相談に際して、必要に応じて秘密保持契約を締結するものとする。

3 技術相談の過程で生じた発明の帰属に関しては、秘密保持契約書の中に規定するものとする。

4 技術相談の結果、共同研究又は受託研究を行うこととなった場合は、速やかに共同研究申請書又は受託研究申込書の提出を受け、共同研究契約又は受託研究契約を締結し、研究を行う。

(技術相談の報告)

第 5 条 技術相談を行った担当教職員は、「技術相談報告書」（別紙様式 2）を作成しセンターに提出する。

(技術相談料・費用)

第 6 条 原則として初回の技術相談料は無料とし、2 回目以降の技術相談料については、「技術相談料金表」（別表 1）に定めるものとする。

附 則

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和元年5月29日改正）

この規則は、令和元年5月29日から施行し、同年5月1日から適用する。

附 則（令和 2 年 3 月 26 日改正）

この規則は、令和 2 年 3 月 26 日から施行する。

別表 1

技術相談料金表

相談回数	金額	備 考
1 回目	無料	
2 回目以降	5,000 円/時間	同一の技術相談については、毎回技術相談料を徴収する。

(注意 1) 次の一に該当する場合、2 回目以降の技術相談料は無料とする。

- ・ 公的機関からの申込みの場合
- ・ 申込者が、申込み時において、共同研究等の申請を前提とする旨の意思表示をした場合
- ・ 申込者が本校における研究交流を通じて産学官協働による知的資源の創造と地域経済の活性化に資することを目的として賛同している企業（地域連携アカデミア会員）の場合
- ・ 上記に準じるものと校長が認めた場合

(注意 2) 技術相談における時間単位は、その最少時間を 1 時間とする。

(注意 3) 技術相談料は前納とする。

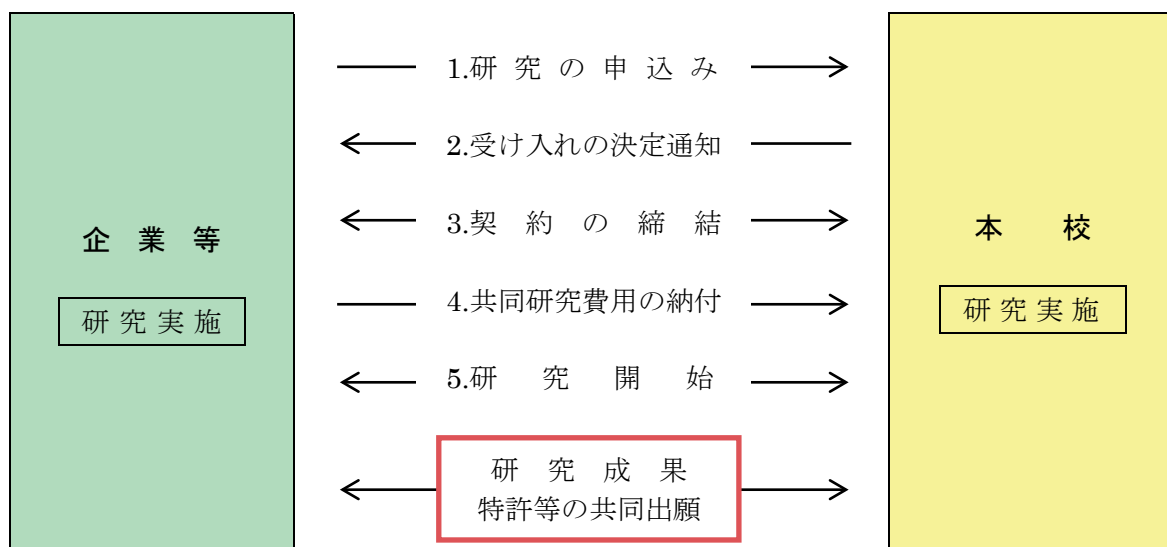
(注意 4) 一旦納付された技術相談料等は、学校の都合により受入れを取り消した場合  
 以外は返金しない。

(注意 5) 技術相談料 1 時間当たり単価は、消費税抜きの単価を示す。  
 (消費税計上後の技術相談料は、1 円未満を切り捨てる。)

## 5. 共同研究

科学技術がますます高度化・専門化し、急速に進展する中で、独創的な技術の開発を行なうため、組織的な産官学交流の強化が強く求められています。民間企業等との共同研究は、民間企業等の研究者と本校教員とが共通の課題について対等な立場で研究を行うものです。複数年度にわたる契約（上限5年）も可能です。

### ■共同研究の流れ



### ■経費について

共同研究に要する費用は、直接経費、間接経費及び研究指導料の合算額となります。

区 分		内 訳	
		費 目	内 容
共同研究費用	直接経費 (当該研究に直接必要な経費)	謝金 旅費 消耗品費 備品費 その他	協力者に対して支払う経費 調査等を行うために要する経費 実験材料等消耗品の購入に要する経費 機械器具の購入に要する経費 上記以外の経費
	間接経費 (当該研究遂行に関連し直接経費以外に必要な経費)	光熱水料 技術料 機械損料 その他	電気料、ガス料及び水道料で研究に要する料金 本校が有する設備・システム等利用の経費 (原則として、上記直接経費総額の30%に相当する額)
	研究指導料	民間等の研究者が派遣されて本校内で研究等を行う際の経費 1名当たり6カ月につき21万円(月割計算はしない)	

### ■研究成果としての特許の取扱い

共同研究の結果、共同して発明した場合は、本校と民間企業等がそれぞれ持ち分を定めて共同で出願し、特許は共有となります。該当特許は民間企業等又はその指定するものが、出願の日から一定期間(10年以内)優先的に実施することができます。また、更新も可能です。



■共同研究の実施状況（最近3年間）

令和3年4月1日現在

年度	研 究 課 題
平成30	フェムト秒レーザーによるナノ構造付与高機能 DLC 表面の創製
	バルクナノメタルにおけるトライボロジー特性
	シトクロム P450 の酵母細胞発現とその応用
	地域特性を考慮したマルチハザードに対する避難判断
	農業用資材として活用可能な環境調和型バイオマテリアルの開発
	木質リグニン由来フェノール化合物の資化能を有する新規微生物のスクリーニング
	丸太の地中利用に関する軟弱地盤対策の研究
	トマト栽培における乳酸菌資材の投与効果の実証試験
	バイオ燃料合成のための微細藻類活用に関する基礎研究
	液晶ラビング布の特性に関する毛並方向評価の研究
	UAVを用いた河川形状調査
	ジオシンセティックス液状化変形抑制工法の効果及び機能解明の研究
	メンテナンスに優れた橋梁伸縮装置の研究開発
	超強加工による微細結晶粒金属材料の創製と評価
	消防団のための情報支援システムの構築
電力制御デバイスの保護技術	
令和元	フェムト秒レーザーによるナノ構造付与高機能 DLC 表面の創製
	ビッグデータの学習に基づくマルチハザード発生時における避難判断支援システムの構築
	下部構造に支持されたアーチ構造の地震応答性状の分析
	液晶ラビング布の特性に関する毛並方向評価の研究
	丸太打設した地盤の液状化に対する排水効果、密度変化に関する研究
	中小河川の河床形状の把握に関する研究
	次世代農業を実現可能な環境制御システムの機能強化に関する研究
	農業用水路から取水する小水力発電の除塵機の性能 UP 研究
	トマト栽培における乳酸菌資材の投与効果の実証試験
	バイオ燃料合成のための微細藻類活用に関する基礎研究
UAVを用いた空中写真による河川形状調査	
流体数値シミュレーション STREAM を用いた市街地における水環境の予測手法に関する研究	
令和2	触媒含有樹脂への無電解めっき膜の微細構造・特性評価に関する基礎研究
	RFID タグ位置検出精度向上に関する研究
	展開装置治具製作
	水耕栽培に関する新商品開発
	超硬合金素材の収縮予測に関する研究
	滑りバニシング加工によるナノグラデーション組織表層の創成とトライボロジー特性の向上
	フェムト秒レーザーによるナノ構造付与高機能 DLC 表面の創製
	避難判断支援システムの社会実装に関する検討
	バイオ燃料合成のための微細藻類活用に関する基礎研究
	丸太打設した地盤の液状化対策要因に関する研究
水耕栽培における電界発生装置の有用性試験と農産物保存法としての可能性試験	
イオンビームによる藻類の育種に関する研究	

## 共同研究申請書

(元号) 年 月 日

福井工業高等専門学校長 殿

住所  
機関等の名称  
代表者氏名

㊞

下記のとおり、共同研究を実施したいので申請します。

記

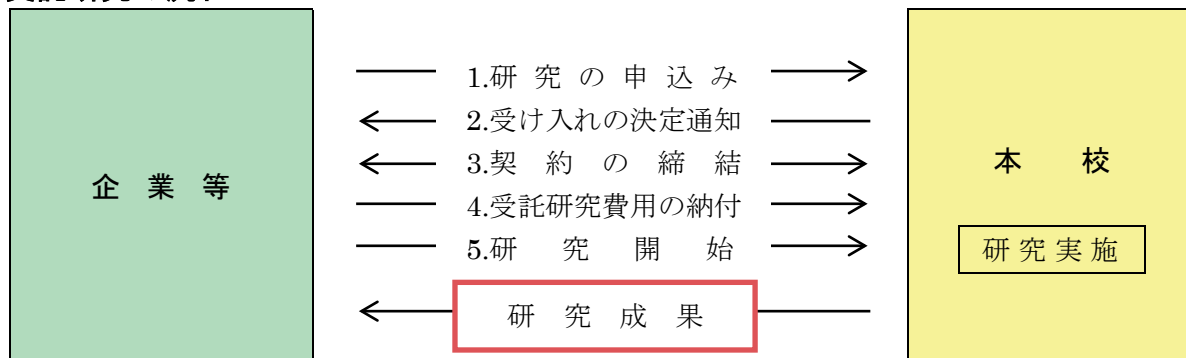
1	新規・継続の区分				
2	研究題目				
3	研究の目的 及び内容				
4	研究期間	(元号) 年 月 日 ～ (元号) 年 月 日			
5	研究実施場所				
6	機関等の 主な事業内容				
7	機関等の 共同研究員	氏 名	所 属	職 名	
8	希 望 す る 共同研究教員	氏 名	学 科 名	職 名	
9	研究経費の 負担額	直接経費	間接経費	研究指導料	合 計
		円	円	円	円
10	提供する設備等				
11	事務連絡先	氏 名	所 属	職 名	
		電 話 ファックス	( ) ( )	内線	

- (備考) 1 共同研究が数年にわたる場合は、その年次計画書を別紙にて添付してください。  
2 共同研究の申請手続きに当たり、不明なことがありましたら、福井工業高等専門学校地域連携テクノセンター長若しくは事務の窓口である総務課 (Tel0778-62-1881) にお尋ねください。

## 6. 受 託 研 究

受託研究は、民間企業等から委託を受け、民間企業等に代わって本校教員が研究を実施し、その成果を委託者に報告する制度です。

### ■受託研究の流れ



### ■経費について

受託研究に要する費用は、原則として、「直接経費」、「間接経費」及び「受託料」の合算額となります。

区 分		内 訳	
		費 目	内 容
受託研究費用	直接経費 (当該研究に直接必要な経費)	謝金 旅費 消耗品費 備品費 その他	協力者に対して支払う経費 調査等を行うために要する経費 実験材料等消耗品の購入に要する経費 機械器具の購入に要する経費 上記以外の経費
	間接経費 (当該研究遂行に関連し直接経費以外に必要な経費)	光熱水料 技術料 機械損料 その他	電気料、ガス料及び水道料で研究に要する料金 本校が有する設備・システム等を利用するための経費(原則として、上記直接経費総額の30%に相当する額)
	受託料 (研究テーマの困難度に応じた加算額)	原則として、下記の金額となります。 一 困難度が普通の場合は1カ月につき1万円 二 困難度が高い場合は1カ月につき2万円 三 困難度がきわめて高い場合は1カ月につき3万円	

\*間接経費及び受託料については、個別に相談に応じます。

### ■ 研究成果としての特許の取扱い

受託研究の場合の特許権は、本校教員が取得しますが、出願したときから10年以内は、委託企業やその企業が指定するものに優先的に実施させることもできます。また、更新することも可能です。

# 受 託 研 究 申 込 書

(元号) 年 月 日

福井工業高等専門学校長 殿

申込者 住所  
氏名 (名称・代表者) ⑩

福井工業高等専門学校受託研究取扱規則に基づき、下記のとおり研究を委託したいので  
申し込みます。

## 記

- 1 研究題目
- 2 研究目的及び内容
- 3 研究に要する経費 円
- 4 研究期間 (元号) 年 月 日 ~ (元号) 年 月 日
- 5 希望研究担当者
- 6 研究用資材、器具等の提供
- 7 その他

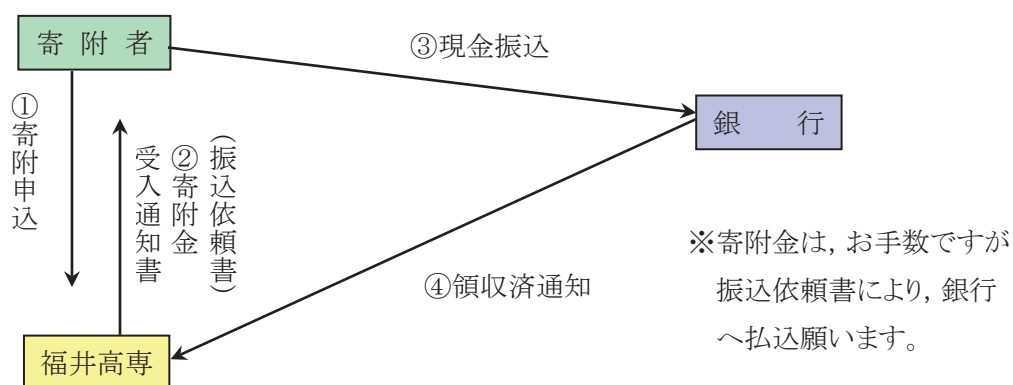
## 7. 寄 附 金

本校では、学術研究の奨励を目的とする寄附金を受け入れています。

寄附者は、研究目的や研究者を指定し、また、寄附者の氏名等を付することもできますが、見返りとして研究成果等を受け取ることはできません。

しかし、寄附金は、各種実験装置や図書の充実など、本校における学術研究の環境整備に大いに活用され、研究の成果を通じて本校のみならず広く社会に貢献しています。

### ■ 寄附金の流れ



### ■ 寄附金受入状況(最近5年間)

年度	校長	専 門 科 目					一般 科目	テクノ センター	その他	合計 件数	合計金額 (千円)
		機械	電気	電情	物質	環境					
平 28	3	1	2	0	3	2	0	32	1	44	11,420
平 29	2	1	0	2	1	4	0	30	1	39	14,537
平 30	3	2	3	0	1	5	1	41	14	70	18,517
令 元	6	3	2	2	0	3	0	51	1	68	13,570
令 2	1	0	3	3	1	108	0	55	4	175	14,664

### ■ 寄附金の免税について

福井高専に対する御寄附は、特定公益増進法人等への寄附金として、税制上の優遇措置を受けることができます。

[法人からの御寄附] 全額損金算入が可能です。

[個人からの御寄附] 5千円を超える部分について当該年の所得の40%を限度に当該年の所得から控除できます。

独立行政法人国立高等専門学校機構理事長 殿

(寄附者) 住 所

氏 名

印

寄 附 金 申 込 書

このことについて、下記のとおり寄附します。

なお、当該寄附金の一部を国立高等専門学校の教育研究の発展充実のため、必要な経費として使用することに同意します。

記

寄 附 金 額				円
寄 附 の 目 的 及 び 種 別	(該当種別を全て選択してください。)		□教育支援, □研究助成, □その他	
寄 附 の 条 件				
使 用 者 の 指 定	<input type="checkbox"/> 有	指定する使用者 の所属・氏名	所属	
	<input type="checkbox"/> 無	(研究担当者等)	氏名	
指定した使用者が 他機関へ転出した 場合の取扱い (右 のいずれかを選択 してください。)	<input type="checkbox"/> 寄附金の残額を転出先へ移し換えることに同意する。 <input type="checkbox"/> 寄附金の残額は、国立高等専門学校機構内の他の役職員に使用者を変更して使用するものとし、国立高等専門学校の業務実施のため、必要に応じて寄附目的及び条件を変更することに同意する。 <input type="checkbox"/> 寄附金の残額は、寄附目的及び条件の範囲内で国立高等専門学校機構内の他の役職員に使用者を変更して使用することに同意する。			
指定した使用者の 退職等に伴う取扱 い (右のいずれか を選択してください。)	<input type="checkbox"/> 寄附金の残額は、国立高等専門学校機構の他の役職員に使用者を変更して使用するものとし、国立高等専門学校の業務実施のため、必要に応じて寄附目的及び条件を変更することに同意する。 <input type="checkbox"/> 寄附金の残額は、寄附目的及び条件の範囲内で国立高等専門学校機構の他の役職員に使用者を変更して使用することに同意する。 <input type="checkbox"/> 寄附金の残額の取扱いについては、助成財団等の規定に従うものとする。(研究助成金の場合のみ選択可)			
使 用 内 訳				
使 用 時 期				
そ の 他				
担 当 者 連 絡 先	担当者名 (申請者と異なる場合)		電 話 :	
			メー ル :	



「福井高専地域連携アカデミア」会員企業 (R3.5.1 現在)

会員企業名	所在地
あおみ建設(株)	東京都港区
揚原織物工業(株)	鯖江市
ES(株)	鯖江市
石黒建設(株)	福井市
井上商事(株)	福井市
(株)ウエキグミ	越前市
(株)ウノコーポレーション	越前市
(株)エイコー技術コンサルタント	敦賀市
(株)エイチアンドエフ	あわら市
(株)M・T技研	鯖江市
大阪シーリング印刷(株)	大阪市天王寺区
(株)大虫電工	越前市
OOKABE GLASS(株)	福井市
(株)ガイアート 北陸支店	石川県金沢市
海洋技術建設(株)	東京都江戸川区
(株)川上測量コンサルタント	福井市
(株)キミコン	鯖江市
共立産業(株)	福井市
旭日繊維(株)	越前市
京福コンサルタント(株)	小浜市
国土防災技術(株)福井支店	福井市
(株)サイエンスクラフト	越前市
(株)サカイエステック	福井市
(株)サカイエルコム	福井市
サカイオーボックス(株)	福井市
酒井化学工業(株)	鯖江市
坂川建設(株)	福井市
鯖江精機(株)	丹生郡越前町
(株)鯖江村田製作所	鯖江市
サンエー電機(株)	福井市
三機工業(株)北陸支店	富山県富山市
(株)サンルックス	鯖江市
(一)滋賀県建設業協会	滋賀県大津市
(株)jig.jp	鯖江市

会員企業名	所在地
ジビル調査設計(株)	福井市
島津産機システムズ(株)	滋賀県大津市
(株)清水組	鯖江市
(株)シャルマン	鯖江市
信越化学工業(株)武生工場	越前市
(株)SHINDO	あわら市
スガイ化学工業(株)福井事業所	福井市
(株)関組	越前市
タイヨー電子(株)	鯖江市
(株)大栄製作所	愛知県豊橋市
大和建设(株)	越前市
大和鋼業(株)	大阪府松原市
(株)高野組	越前市
(株)武田機械	福井市
武生特殊鋼材(株)	越前市
田中建設(株)	越前市
丹南ケーブルテレビ(株)	越前市
(株)辻広組	福井市
(株)帝国コンサルタント	越前市
テラオライテック(株)	越前市
(株)デルタコンサルタント	福井市
(株)TOKO	鯖江市
(有)トップテクノ	鯖江市
東京ガスパイプネットワーク(株)	東京都港区
轟産業(株)	福井市
中日本土木(株)	越前市
(株)ナチュラルスタイル	福井市
西田建設(株)	福井市
(株)西村組	吉田郡永平寺町
日光産業(株)	福井市
日東電工(株)	大阪府茨木市
(株)日本エー・エム・シー	福井市
日本純良薬品(株)	坂井市
日本電産テクノモータ(株)	小浜市

次頁に続く



会員企業名	所在地
(株)日本ピーエス	敦賀市
ノースランド(株)	南条郡南越前町
長谷川体育施設(株)	新潟県新潟市
パナソニック(株)IS 社 デバイスソリューション事業部	福井市
(株)福井銀行	福井市
福井太陽(株)	福井市
福井鐵工(株)	福井市
(株)福井村田製作所	越前市
福井めがね工業(株)	鯖江市
ベルテクス(株)	福井市
(株)ホクシン	福井市
北伸電機(株)	大野市
(一)北陸電気保安協会	富山市
前田工織(株)	坂井市
増永眼鏡(株)	福井市

会員企業名	所在地
(株)松浦機械製作所	福井市
丸一調査設計(株)	福井市
(株)マルツ電波	福井市
丸文通商(株)福井支店	福井市
(株)見谷組	福井市
(株)道端組	福井市
ミツカワ(株)	越前市
(株)ミルコン	福井市
明和工業(株)	福井市
山田技研(株)	福井市
吉岡幸(株)	福井市
レンゴー(株)武生工場	越前市
(株)ワカサコンサル	小浜市
(株)ワカヤマ	鯖江市
(株)若吉製作所	鯖江市

計 9 8 社 (社名 5 0 音順)

## 福井高専地域連携アカデミア会員申込書

福井高専地域連携アカデミア会長 殿

申込者

住所(〒 \_\_\_\_\_ )

(電話番号) \_\_\_\_\_

(法人名)

(役職・氏名)

印

貴会の趣旨に賛同し、事業に協力するため会員として加入いたしたく、下記のとおり申し込みます。

記

運 営 費 10,000円  
寄 附 金 \_\_\_\_\_円 ( \_\_\_\_口) (1口 20,000円)

\*寄附金につきましては、別添の「寄附金申込書」へもご記入願います。  
後日、請求書等を送付させていただきます。

企業からの福井高専に対するご寄附は、  
特定公益増進法人等への寄付金として、  
全額損金算入が可能です。

## 福井高専地域連携アカデミア会則

(名称)

第1条 本会は、福井高専地域連携アカデミアと称する。

(目的)

第2条 本会は、福井工業高等専門学校（以下「福井高専」という。）の教育，研究，地域貢献に対して協力するとともに，会員相互並びに福井高専との連携・交流を深めて地域の経済発展，安全・安心，環境保全に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は，第2条の目的を達成するため，次の事業を行う。

- (1) 福井高専との地域産業等との連携に関すること。
- (2) 福井高専の教育・研究への協力及び助成に関すること。
- (3) 産官学連携による技術研究開発の振興に関すること。
- (4) その他本会の目的達成に必要な事業に関すること。

(会員)

第4条 本会の会員は，本会設立の趣旨に賛同する企業をもって組織する。

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名以内
- (3) 理事 若干名
- (4) 監事 2名
- (5) 幹事 若干名

(役員を選出及び任期)

第6条 前条第1号から第4号までの役員は，総会において選出する。

- 2 前条第5号の役員は，会長が指名する。
- 3 役員任期は2年とする。ただし，再任を妨げない。
- 4 欠員が生じた場合の後任の役員任期は，前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第7条 会長は，本会を代表し，会務を総括する。

- 2 副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときは，その職務を代行する。
- 3 理事は，重要事項を審議し，これを処理する。
- 4 監事は，本会の会計を監査する。
- 5 幹事は，本会の庶務を担当する。

(顧問)

第8条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は，役員会の推薦により会長が委嘱する。
- 3 顧問は，会長の諮問に応じ，又は会議に出席して意見を述べるができる。

(会議)

第9条 本会の会議は，総会及び役員会とし，議長は会長をもって充てる。

第10条 総会は，毎年1回開催し，総会において行う事項は，次のとおりとする。

- (1) 本会の事業推進についての重要事項の決定
- (2) 役員を選出
- (3) 会則の改正
- (4) その他必要事項

第11条 役員会は、必要に応じ会長が招集するものとする。

2 役員会において行う事項は、次のとおりとする。

(1) 本会の事業の企画運営

(2) その他会務遂行上必要と認められる事項

3 役員会の開催が困難である場合は、文書によって協議することができる。

(事務局)

第12条 本会の事務局は、福井県商工会議所連合会内に置く。

(会費等)

第13条 会員は、本会の円滑な運営を図るため、会費を本会へ納付するものとする。

2 会員は、第3条の事業に協力するため、福井高専へ必要な援助をするものとする。

第14条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(その他)

第15条 この会則に定めるもののほか、会則の施行について必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この会則は、平成17年4月1日から施行する。

2 福井工業高等専門学校教育研究振興会会則（平成7年3月22日制定）は、廃止する。

3 この会則は、平成27年6月22日から施行する。

## 福井高専地域連携アカデミア会費等に関する内規

第1 会費は、毎年1万円とし、年度当初に事務局指定の口座に振り込むものとする。

第2 寄附金は、毎年1口2万円（1口以上）とし、福井工業高等専門学校発行の振込依頼書により納付するものとする。

第3 物品の寄附及び諸援助については、福井工業高等専門学校に申し出るものとする。

附 則

1 この内規は、平成17年4月1日から施行する。

2 福井工業高等専門学校教育研究振興会入会金等に関する内規（平成7年3月22日制定）は、廃止する。

## 9. 福井高専のシーズ

(部門別, 50音順)

部門	氏名	研究分野	専門分野	キーワード	頁
地域・文化部門	相場大佑	数学解析	偏微分方程式, 数理物理	Schrödinger 作用素, Dirac 作用素, 非自己共役作用素, スペクトル理論, 散乱理論	39
	東 章弘	スポーツ科学, 応用健康科学	保健体育, バイオメカニクス, 健康科学	移動運動, 健康運動指導, 体育授業研究	40
	池田彩音	日本文学	日本文学, 日本古典文学	物語文学, 平安時代, 『夜の寝覚』, 『源氏物語』	41
	市村葉子	日本語教育, 日本語学	日本語教育, 日本語学	日本語教育, やさしい日本語, 談話文法, 会話, イントネーション, 文末表現, 関連性理論	42
	井之上和代	教科教育学, 代数学	数学, 数学教育	教材開発, グラフアート, 可換環論, モーデルヴェイユ格子理論	43
	奥村充司	土木環境システム, 環境モデリング・保全修復技術	上下水道工学, 水環境学, 地盤環境工学	上水道, 下水道, 水質調査, 地下水汚染, 生物指標	44
	門屋飛央	日本語学	日本語学, 方言	日本語史, 九州方言, 福井方言	45
	川畑弥生	刑事法学	刑事政策, 少年司法手続	修復的司法, 少年司法手続, 社会内処遇	46
	木村美幸	日本史	近現代史, 地域史, 軍事史, 社会史	海軍, 志願兵, 地域, 兵事資料	47
	佐藤勇一	哲学・倫理	フランス哲学, 現象学	メルロ＝ポンティ, 間文化性, 視覚論, 身体論	48
	白崎恭子	原子・分子, 量子エレクトロニクス	物理学	ボソン, フェルミオン, 混合系, ボーズ・アインシュタイン凝縮, 不安定性, 転移温度	49
	中谷実伸	自然科学一般	数学, 数学教育	無限可積分系, 数学教材開発	50
	長水壽寛	自然科学一般	数学, 数学教育	位相数学 (General Topology), 教材開発, メタ認知	51
	長谷川智晴	(素材・加工部門参照)			110
	原口 治	英語一般	イギリス文学 (20 世紀小説), 20 世紀イギリス文化, 技術英語教育	英語, イギリス文学, イギリス文化, 技術英語	52
	挽野真一	物性 II	物性理論	磁性, 超伝導, 近接効果, ジョセフソン効果, スピン依存伝導現象	53
	藤田卓郎	外国語教育	外国語教育	コミュニケーション, タクを用いた言語指導, アクション・リサーチ, 実践研究法	54
	松井一洋	スポーツ科学	保健体育, バイオメカニクス	足関節プレス, 動作解析	55
	宮本友紀	人文科学一般	英語教育, 言語コミュニケーション	英語教育, コミュニケーション, 言語	56
	森 貞	英語全般	英語学, 日本語学, 認知言語学, コーパス言語学	文法, 語法, 認知モード	57
柳原祐治	数学基礎, 応用数学	確率論, 無限粒子系	Percolation, Contact process	58	
山田哲也	数学解析	数学一般, 偏微分方程式論	移流拡散方程式	59	
Pauline Anne Therese M. Mangulabnan	人文科学一般	教師教育, 数学教育, 学校組織, 英語教育, 授業研究	国際交流, 学習組織・コミュニティづくり, 省察, 実践記録, マイノリティ教育支援	60	

部門	氏名	研究分野	専門分野	キーワード	頁
環境・生態部門	上島晃智	生化学, 分析化学	生化学, 微生物学, 分析化学	環境浄化, 微生物, 機能性和紙	61
	小木曾晴信	土木工学	土木・環境	測量, 地盤, 環境, 植生, 植樹	62
	奥村充司	土木環境システム, 環境モデリング・保全修復技術	上下水道工学, 水環境学, 地盤環境工学	上水道, 下水道, 水質調査, 地下水汚染, 生物指標	63
	片岡裕一	環境動態解析	作業環境測定	環境測定, 安全衛生	64
	川村敏之	バイオテクノロジー	生物機能, 遺伝子工学	バイオテクノロジー, 分子生物学	65
	後反克典	分析化学	無機分析化学	微量元素分析, 環境・材料分析, 高感度分析	66
	坂元知里	生物機能・バイオプロセス	生物化学, 電気化学	電気化学, バイオデバイス, 酵素固定化	67
	高山勝己	複合化学, 農芸化学	分析化学, 応用微生物学, 生物機能, バイオプロセス	バイオレメディエーション, バイオセンサー, バイオリファイナー	68
	廣部まどか	環境モデリング・保全修復技術	生態学	里地里山, 生物調査, 保全活動, WBG T	69
	舟洞久人	応用生物化学, 無機化学	応用生物化学, 無機化学, 生物無機化学	生物工学, バイオフィルム, バイオセンサー	70
松野 敏英	応用微生物学, 生物機能・バイオプロセス	微生物工学, 環境微生物	微生物, 物質生産, 生物機能	71	
エネルギー部門	秋山 肇	電力工学, 電気機器	半導体工学, 電気機器, 技術史	パワーエレクトロニクス, テラヘルツ分光技術, 加速器応用, 博物館学	72
	白崎恭子	(地域・文化部門参照)			49
	高久有一	数理物理・物性基礎	プラズマ科学, 数理物理, 計算科学	核融合, プラズマ閉じ込め配位, 物理シミュレーション	73
	芳賀正和	熱工学	伝熱工学, 熱・物質移動	熱伝達促進, 数値解析, 可視化実験	74
	藤田克志	流体力学	流体力学, レオロジー	再生可能エネルギー, 小水力, 粘弾性流体, CFD, 流れの可視化	75
	山本幸男	電子・電気材料工学	電子デバイス工学, 材料物性工学	半導体, 薄膜, 太陽電池	76
安全・防災部門	阿部孝弘	構造工学・地震工学・維持管理工学	土木工学, 構造工学	亀裂, エネルギー解放率, コンクリート, エンジニアリング・デザイン ほか	77
	岡本拓夫	固体地球惑星物理学	地震学, 縮災	福井県及び周辺の地震活動, 地震に関連する諸現象, 強震動, 防災教育	78
	芹川由布子	構造工学・地震工学・維持管理工学	地震工学・防災学	地震, 液状化, 健康障害, 地域防災, ライフライン	79
	田安正茂	水工学, 海岸工学	土木工学, 水工学, 海岸工学	豪雨水害, 洪水氾濫, 波浪変形, 漂砂, 海岸地形変化	80
	辻子裕二	自然災害科学・防災学	防災学, 地盤工学, 空間情報学	防災・減災, 地域防災, 地盤防災, 防災ツール	81
	辻野和彦	空間情報工学	リモートセンシング, 地理情報システム	土砂災害(斜面崩壊, 土石流), 画像計測, UAV, VR	82
	野々村善民	土木工学, 建築学	建築環境工学, 風工学, 建築設備	風環境, 新エネルギー, 都市洪水	83
	樋口直也	建築構造・材料	建築構造学	アーチ, シェル・空間構造, 座屈, 有限要素法解析	84
	養輪圭祐	土木材料, 維持管理工学	コンクリート工学, 維持管理工学	コンクリート, 材料物性, 複合構造, メンテナンス	85
	山田幹雄	環境材料・リサイクル	土木工学, 地盤環境工学, 建設材料学	廃棄物・副産物利用, 浅層地盤改良, 土構造物	86


部門	氏名	研究分野	専門分野	キーワード	頁
	大和裕也	都市計画・建築計画, 防災学	都市防災計画	避難所運営計画, 津波避難計画, MR(Mixed Reality)	87
	吉田雅穂	地震工学, 防災学	土木工学, 地震工学, 防災学	地震, 防災・減災, ライフライン, 木材, 文化遺産	88
情報・通信部門	青山義弘	計算機システム	組み込みシステム, 計算機工学	組み込みシステム, FPGA 開発, HDL 設計	89
	大久保茂	通信・ネットワーク工学	電磁波工学, 情報通信工学	アンテナ, ネットワーク, Web アプリケーション	90
	小越咲子	人間情報学	認知科学, 福祉工学, 教育工学	ICT, BMI (Brain Machine Interface), ソーシャルスキルトレーニング	91
	川上由紀	通信・ネットワーク工学	アンテナ工学, 通信工学	アンテナ, メタマテリアル, RFID, テラヘルツ分光	92
	小松貴大	認知科学・知能情報学	認知科学, 心理物理	知覚, 視覚運動, 運動学習	93
	齊藤 徹	計算機システム・ネットワーク	カメラ情報を利用したロボット制御, インターネット応用技術	インターネット, 緊急連絡システム	94
	佐々和洋	生体分子科学	生命情報学, 計算化学, 量子化学	分子シミュレーション	95
	清水幹郎	ソフトウェア	情報学基礎, 計算基盤	アルゴリズム理論, プログラミング言語, 情報理論	96
	内藤岳史	通信・ネットワーク工学	情報ネットワーク	IoT, センサーネットワーク, 保育 ICT	97
	中村孝史	電子デバイス・電子機器	情報工学	自動化・安全衛生	98
	波多浩昭	通信・ネットワーク工学	情報ネットワーク, 通信ソフトウェア, IP-VPN, プロトコル	インターネット, 企業ネットワーク, 仮想ネットワーク	99
	堀川隼世	電子デバイス・電子機器	アンテナ工学, 電子デバイス	アンテナ, 中赤外光検出器, シミュレーション	100
	丸山晃生	情報学基礎, 知能情報学	記号論理学, パターン認識	記号論理, エージェント, 画像認識	101
素材・加工部門	荒川正和	電子デバイス・電子機器	電子物性, 物理学	トンネル現象, 音情報処理, 新規アクチュエータ, 工学教育	102
	加藤寛敬	トライボロジー・材料加工	トライボロジー, 金属材料, 粉末冶金, 機械工作法	摩耗, 微細組織材料, 電子顕微鏡	103
	北川浩和	(計測・制御部門参照)			124
	久保杏奈	電子デバイス・電子機器	電気, 情報系	ナイロン人工筋肉, アクチュエータ, 炭素繊維	104
	西城理志	電子・電気材料工学	電子工学, 物性物理学	太陽電池, ナノ粒子	105
	常光幸美	構造・機能材料	材料化学, 金属表面化学	ウェットプロセス, 電気化学プロセス	106
	高橋 奨	無機材料・物性	材料工学, 誘電体材料, 複合材料	結晶構造・組成制御, 機能性セラミックス材料	107
	津田良弘	有機化学, 合成化学	触媒化学	金属ポルフィリン錯体, 金属サレン錯体, 酸化触媒	108
	西野純一	無機材料・物性	無機化学, 電気化学, 無機材料科学	薄膜, 化学気相析出 (CVD) 法, ナノ材料, 構造規制	109
	長谷川智晴	機能物性化学関連	ガラス材料・光物性	ガラス・セラミックス・光吸収・屈折率・光ファイバー	110
	藤田祐介	加工学	加工学, 機械設計	機械加工, 機械設計, 安全	111

部門	氏名	研究分野	専門分野	キーワード	頁
素材・加工部門	古谷昌大	機能物性化学, 高分子化学	有機材料化学, 高分子化学	ジスルフィド結合, 接着, 光(UV)硬化	112
	堀井直宏	無機材料・物性, 科学教育	非晶質材料, 科学教育, サイエンスリテラシー	シリカガラス, 石英, 失透, 結晶化, ガラス, 失透抑制	113
	松井栄樹	有機合成化学、機器分析	生物有機化学, 機能材料化学, 合成化学	機能性色素, 天然高分子材料, 金属錯体, 生体分子	114
	松浦 徹	物性 II, ナノマイクロシステム	凝縮系物理学, 電子物性	電気輸送計測, MEMS/NEMS, 低温実験, 超伝導・密度波	115
	村中貴幸	生産工学・加工学	塑性加工学, 材料力学	板成形, 焼付き, チタン	116
	山田健太郎	生産工学・加工学	機械設計, 加工学	機械設計, 機械加工	117
	山本裕之	ナノ材料化学	セルロース科学	セルロース, 紙, 構造, ナノファイバー	118
	山脇夢彦	有機化学, グリーン・環境科学	有機化学, 光化学, 医薬品合成	反応有機化学, 有機合成化学, 有機光化学, ファインケミカル	119
計測・制御部門	青木宏樹	身体教育学	測定評価, 発育発達, 体育科教育	体力測定, 子ども, 運動遊び	120
	伊勢大成	知能機械学・機械システム	センサ工学, 品質工学	インテリジェントタイヤ, パラメータ設計, 機能性評価	121
	金田直人	機械力学・制御	機械設計法, 機構学	繊維, 機構設計, 画像処理, 数値計算, シーケンス制御	122
	亀山建太郎	制御・ロボティクス	制御工学, ロボット工学	制御, モデリング, システム同定, 信号処理, 移動ロボット, 農工連携	123
	北川浩和	機械工学	加工学, 知能機械学	機械加工, 汎用工作機械, 電子工作, 電気工事, 組込み型マイコン	124
	北野公崇	機械工学	精密計測・幾何光学	光ファイバ変位計, 3次元特性, 等方性	125
	小松貴大	(情報・通信部門参照)			93
	佐藤 匡	自動制御	自動制御, 自動計測	予見制御, スライディングモード制御, 入力制限問題	126
	千徳英介	機械工学	生産工学, 加工学	温度計測, 切削抵抗, 工具磨耗, レーザフォーミング	127
	田中嘉津彦	流体工学	液圧工学, トライボロジー	液圧機器, トライボロジー, 最適設計	128
	西 仁司	知覚情報処理	シミュレーション, 信号解析, 工学教育	歩行ロボット, 画像解析, ものづくり	129
	林田剛一	機械力学・制御	機械設計, 繊維	仮燃加工, 機械設計, シーケンス制御, 空圧機器	130
	村田知也	知覚情報処理・知能ロボティクス	制御工学, 画像処理, パターン認識, ゲーム学	ロボット経路計画, 画像認識, ゲームアプリ	131
	米田知晃	計測工学	イオンビーム工学, センサ工学, 計測工学	イオンビーム, 放射線, センサ, 回路設計	132



所属部門	地域・文化	環境・生態	エネルギー	安全・防災	情報・通信	素材・加工	計測・制御
機械 工学科			藤田克志 ◎芳賀正和			加藤寛敬 村中貴幸 高橋 奨	田中嘉津彦 ◎亀山建太郎 千徳英介 金田直人 伊勢大成
電気電子 工学科			山本幸男 秋山 肇		丸山晃生 堀川隼世 大久保茂	荒川正和 松浦 徹 西城理志	佐藤 匡 米田知晃
電子情報 工学科			○高久有一		齊藤 徹 青山義弘 波多浩昭 ◎小越咲子 川上由紀 小松貴大		西 仁司 ○村田知也 小松貴大
物質 工学科		上島晃智 高山勝己 松野敏英 ◎後反克典 川村敏之 ○坂元知里			○佐々和洋	津田良弘 ○常光幸美 松井栄樹 ◎西野純一 古谷昌大 山脇夢彦	
環境都市 工学科	奥村充司	奥村充司		吉田雅穂 辻子裕二 野々村善民 辻野和彦 ◎田安正茂 ○樋口直也 大和裕也 芹川由布子 蓑輪圭祐 山田幹雄 阿部孝弘		蓑輪圭祐	
一般科目 (自然系)	長水壽寛 柳原祐治 井之上和代 山田哲也 中谷実伸 相場大佑 ◎長谷川智晴 挽野真一 東 章弘 松井一洋			岡本拓夫		長谷川智晴 山本裕之	青木宏樹
一般科目 (人文系)	市村葉子 門屋飛央 池田彩音 佐藤勇一 ○川畑弥生 木村美幸 森 貞 原口 治 宮本友紀 藤田卓郎  Pauline Anne Therese M. Mangulabnan						
教育研究 支援センター	白崎恭子	小木曾晴信 廣部まどか 舟洞久人 片岡裕一	白崎恭子		清水幹郎 中村孝史 内藤岳史	北川浩和 堀井直宏 藤田祐介 山田健太郎 久保杏奈	北川浩和 北野公崇 林田剛一

## 福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	
研究分野	数学解析	専門分野
	相場 大佑 助教 博士（理学） 一般科目教室（自然科学系） 応用数学 aiba@fukui-nct.ac.jp	偏微分方程式，数理物理 キーワード Schrödinger 作用素，Dirac 作用素，非自己共役作用素， スペクトル理論，散乱理論 所属学協会・研究会 日本数学会

## 研究テーマ

**【スペクトル理論】**

これまでの研究としては、

関数解析的手法を用いて、数理物理に現れる偏微分方程式の数学的研究、

特に原子や分子などのミクロな粒子の運動を記述する量子力学の基礎方程式である、

シュレーディンガー方程式或いは、それに伴うシュレーディンガー作用素のスペクトル理論の研究を行ってきました。


これまでに行ってきた研究は3つあり、

- ・非自己共役なシュレーディンガー作用素のスペクトル理論ならびに擬スペクトル理論、
- ・強力な磁場を伴うシュレーディンガー方程式の初期値問題のユニタリ解作用素の存在と一意性、
- ・ディラック作用素の散乱理論、初期値問題における解の長時間挙動を解析する上で、重要な役割を果たす、連続スペクトルの閾値でのレゾナンスの存在・非存在。

についての研究を行ってきました。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

出前授業などを通して、何か地域貢献できればと考えています。

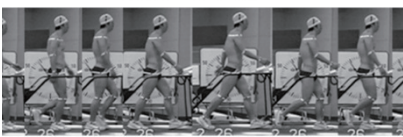
所属部門	地域・文化	<b>専門分野</b> 保健体育, バイオメカニクス, 健康科学 <b>キーワード</b> 移動運動, 健康運動指導, 体育授業研究 <b>所属学協会・研究会</b> 日本体育学会, 日本バイオメカニクス学会, 国際スポーツバイオメカニクス学会, 日本人間工学会
研究分野	スポーツ科学, 応用健康科学	
 東 章弘 教授 博士（理学） 一般科目教室（自然科学系） aazuma@fukui-nct.ac.jp		

研究テーマ

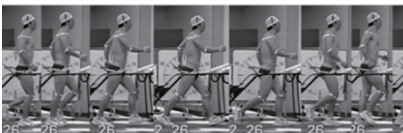
【移動運動のエネルギー論的研究】

安全で効果的な健康運動様式として、歩行が推奨されている。腕振りや歩幅を大きくする「活動的歩行」は速度増に依存しない力学的仕組みで運動量を高めることをバイオメカニク的に明らかにした。また、トレッドミル上での水平負荷牽引歩行によって健康運動水準を導く運動強度（換気性作業閾値）を呼気ガス分析から明らかにするなど、歩くことの能動的・受動的負荷に関するエネルギー論的視点から、広く健康運動に資する移動運動の研究を行っている。

Normal Walking

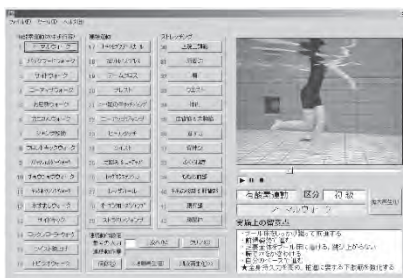


Vigorous Walking



【健康運動指導技法の開発】

中高年者の健康運動について、安全で効果的な指導の観点から新たな指導技法の開発を試みている。水中歩行をより楽しく、且つ、活動水準を高めて実践する方法として竹馬をプールに導入した「水中竹馬」を提案したほか、ミニトランポリンを用いたバランストレーニングの指導プログラムを開発した。また、さまざまな水中運動について、動きの認識を深める動画クリップを簡単に再生するツールを構築し、正しい動きの理解を促す初心者指導に役立てている。



【論理的理解を導く体育授業】


経験則に従った練習に陥りがちな運動技能の学習において、学習者自らが自己またはチームのデータを演算処理することによって技能を分析する視点を培い、動きの仕組みを論理的に理解し、効率的な練習を行うことができるようにする授業の方策を研究している。リレーのバトンパス、走幅跳の助走や踏切など、クローズドスキル型の種目を中心に研究し、授業での技能の改善に役立てている。



産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・公開講座「からだを動かしたくなる講座」講師
- ・公開講座「スポーツカイト（凧）作りと飛行演技」講師
- ・高専カフェ「健康運動のポイント」講師
- ・福井国体陸上競技風力計測主任
- ・外国人との地域スポーツ交流

## 福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	
研究分野	日本文学	
	池田 彩音 助教 博士（文学） 一般科目教室（人文社会科学系） ikedafukui-nct.ac.jp	<b>専門分野</b> 日本文学、日本古典文学 <b>キーワード</b> 物語文学、平安時代、『夜の寝覚』、『源氏物語』 <b>所属学協会・研究会</b> 中古文学会、日本文藝学会、立命館大学日本文学会

## 研究テーマ

**【平安時代後期の物語『夜の寝覚』とは何か】**

平安時代にはさまざまな物語が作られました。その中でも特に有名なものは、『源氏物語』でしょう。その『源氏物語』の影響を受けながらも、一貫して一人の女性を中心人物に据えるという趣向を凝らした、『夜の寝覚』という物語があります。

この物語は、鎌倉時代の物語評論書『無名草子』で高く評価されているほか、絵巻が作られたり、改作本が作られたりと、二次創作意欲をかき立てるほどに注目されていたことがわかります。

残念ながら、現在はその全てを読むことができるわけではなく、物語の中間と末尾が失われた状態の本でしか、読むことができません。しかしながら、かつて注目されていた作品であったがゆえに、他の資料の記述からその内容を推察できます。

他の資料の扱いには注意が必要ですが、現存する『夜の寝覚』の記述と他の資料の記述を検討し、どのようにつながりを見出すことができるか、どのように解釈が可能かということを常に問い続け、『夜の寝覚』という作品をいかに捉えることができるかについて研究を進めています。

**【女性を主人公として物語を展開させる方法は何か】**

平安時代、特に身分の高い女性は、行動範囲や交流関係も限られていました。光源氏という男性を主人公とした『源氏物語』と比べて『夜の寝覚』が大きく異なるのは、そうした物語を展開させるうえで制約のある女性を主人公に据えている点です。『夜の寝覚』が物語を展開させるのに用いた方法とはどのようなものか、ということに関心を持ち、主としてその言葉の使い方や意味の分析を通して考察を行っています。


これまでの研究では、人物造型や『源氏物語』などの先行作品との関わりから、物語が必然的に展開していくような言葉が意識的に配置されていることがわかってきました。こうした検討を通して、『夜の寝覚』という作品についてだけでなく、『夜の寝覚』が他の先行作品などをいかに読み取っていたか、ということについても明らかになってきました。

『夜の寝覚』は全貌のわからない作品ではありますが、他の作品にはない特徴を持ち、平安時代後期という時代を知るために重要な作品です。日本文学史を正確に把握するには、この作品の検討が不可欠だと考え、研究を行っています。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

くずし字で書かれた資料を読みたい方、日本の古典文学を読みたい方などに向けて、公開講座や出前授業、情報発信ができればと考えています。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	<b>専門分野</b> 日本語教育, 日本語学 <b>キーワード</b> 日本語教育, やさしい日本語, 談話文法, 会話, イントネーション, 文末表現, 関連性理論 <b>所属学協会・研究会</b> 日本語用論学会, 日本文法学会, 日本語・日本語教育研究会
研究分野	日本語教育, 日本語学	
	市村 葉子 准教授 博士(学術) 一般科目教室(人文社会科学系) ichimura@fukui-nct.ac.jp	

研究テーマ

【日本語指導法の研究】

外国人にわかりやすく、生活に役立つ日本語を教えるための研究をしています。外国人労働者受け入れ拡大に伴い、彼らへの日本語教育支援は喫緊の課題です。これまで越前市国際交流協会の日本語アドバイザーとして、定住外国人の日本語支援をされているサポーターの方に日本語教育の方法を指導してきました。

今後も地域と協力し、地域住民と年少者を含めた定住外国人にとって住みやすいまちづくりに貢献できるよう、取り組んでいきます。

【やさしい日本語を用いた文書作成】

「易しい」言葉で「優しく」伝えるために必要な日本語とは何か、また、やさしい日本語で何ができるかについて興味があります。

外国人の国籍が多様化している今、ますます「やさしい日本語」へのニーズは高まると予想されます。これまで主に地域のお知らせをやさしい日本語に書き換える活動に携わってきました。今後は定住外国人のための防災マップ、ガイドラインの作成を行いたいと思っています。

【日本語文末表現の研究】


「明日忙しんだよね」のような、日本語の文末表現と発話意図との関係を研究しています。日本語母語話者が使用する文末表現を会話データから取り出し、使用頻度の高いものについてその発話意図を考察、記述しました。特に「よね」などの終助詞に興味があります。

文字情報だけではなく、使用場面と使用されるイントネーションなどから発話意図を読み取り、記述することで、日本語母語話者の伝達方略を明らかにしたいと思っています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・平成25年、越前市国際交流協会主催の「やさしい日本語ワークショップ」を担当しました。
- ・平成30年、福井大学公開講座「日本語の教え方 スキルアップ専門講座」を担当しました。
- ・これまでに日本語サポーターの養成講座を担当しています(不定期)。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

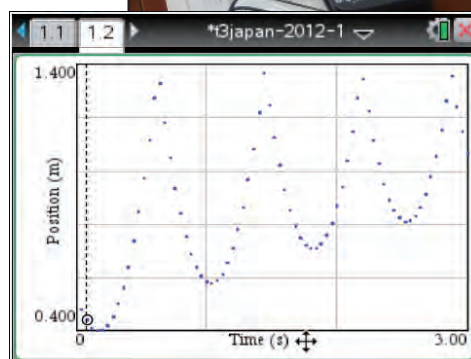
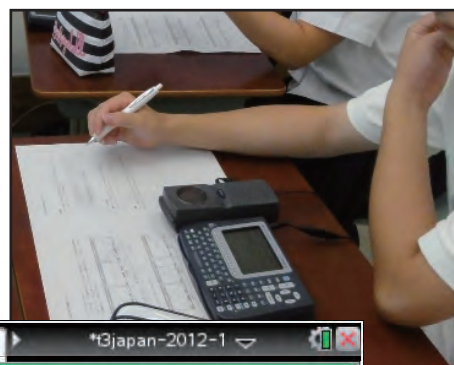
所属部門	地域・文化	
研究分野	教科教育学, 代数学	
	井之上 和代 准教授 修士（理学） 一般科目教室（自然科学系） 数学研究室 k-inoue@fukui-nct.ac.jp	<b>専門分野</b> 数学, 数学教育 <b>キーワード</b> 教材開発, グラフアート, 可換環論, モーデルヴェイユ 格子理論

研究テーマ

【テクノロジーを活用した数学教育】

グラフ電卓やPCのソフトウェアを活用した, 数学の教材の開発をし, 授業で活用しています。

- \* 関数グラフアート グラフ電卓のグラフ描画機能を活用して, 関数のグラフで絵を描き, 関数の性質を理解する教材です。この活動の効果についての検証をしています。
- \* 実験教材の開発 数学と物理や工学の分野との橋渡しとなるような実験教材を考案し, 授業で実践しています。
- \* 課題プリントの作成, 授業用プリントの作成 電子黒板での授業に対応できるような, 教材の開発をしています。



【その他】

可換環論について勉強をしています。

主要設備・得意とする技術


グラフ電卓とそれに接続してデータを収集できる距離センサー, 加速度センサーなどを数学科で所有しています。1クラス(40人)分の機材があり, 機材の貸し出しや, 機材を使用するための初心者講座や, 出前授業などの講師としての派遣に応じます。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

公開講座, 出前授業

これまでに小・中学生を対象として, 多面体やグラフ電卓を活用した実験についての講座を行っています。数学・算数の講座についての相談にも応じます。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	
研究分野	土木環境システム, 環境モデリング・保全修復技術	専門分野 上下水道工学, 水環境学, 地盤環境工学
	奥村 充司 准教授 工学修士 環境都市工学科 環境・衛生工学研究室 okumura@fukui-nct.ac.jp	キーワード 上水道, 下水道, 水質調査, 地下水汚染, 生物指標
		所属学協会・研究会 土木学会, 日本水環境学会, 日本材料学会, 廃棄物学会, 応用生態工学会, NPO 福井地域地盤防災研究所

研究テーマ

【水環境・水辺のイベントによる地域活性化に関する研究】

国県市町, 高専, 高校, NPOが一体となったイベントを日野川緑地公園で開催しています。日野川流域のみならず広く県民が約4千人参加しています。「川で学ぶ」をテーマに本校学生による環境学習のコーナーを設置して実践し, アンケートでその効果を検証します。



【汚濁河川のユスリカ発生抑制対策】

無機物質により汚染した河川におけるユスリカ発生対策を提案しました。水質調査を実施し, ユスリカ発生のメカニズムを解明し, さらにユスリカの発生抑制事業の最適頻度を生態学モデルによる解析で検討しました。



【ビオトープ, 名水, 湧水の整備・維持管理に関する研究】

2014年全国メダカシンポジウムの2度目の開催に向けて, 越前市内ビオトープの調査, パンフレットの作成を行いました。また, 福井県のおいしい水認定箇所の継続的な維持管理を目指し, 現状を調査し, 保全活動の指針を作成しました。



主要設備・得意とする技術


環境都市工学科棟3階の衛生工学実験室では, 水質分析に関する備品, 器具を保有しており, 河川水質や, 地下水・湧水の水質分析を行っています。また, 河川の水生生物調査を行い, 河川環境の評価の基礎資料としています。保有装置・器具は以下のとおりです。

- ・全有機炭素計 (TOC) : 有機性排水の有機物分析・土壌中の有機物含有量
- ・原子吸光分光光度計 : 重金属による土壌・地下水汚染の調査
- ・生物調査器具一式 : 河川底生無脊椎動物調査, 魚類調査

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・環境教育プロジェクトWET(エドューケーター資格)のアクティビティを用いて出前授業を行っています。
- ・御清水川のユスリカ対策を地元のNPO団体, 住民, 企業, 本校学生との協働で実施しています。
- ・武生メダカ連絡会の会長として, 下水道事業推進や農地の生態系再生活動を行っています。
- ・「そうだ!川へ行こう」川のイベントを通じて, 河川管理者や漁協, 建設業者などと河川を中心とした環境教育や地域活性化の実践活動を行っています。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	<b>専門分野</b>
研究分野	日本語学	日本語学, 方言
	門屋 飛央 准教授 博士（文学） 一般科目教室（人文社会科学系） kadoya@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b>
		日本語史, 九州方言, 福井方言
		<b>所属学協会・研究会</b>
		日本語学会, 西日本国語国文学会, 九州方言研究会, 筑紫日本語研究会, 九州大学国語国文学会, 福井大学言語文化学会

研究テーマ

【一地点の方言の包括的記述】



九州地方の西に位置する、五島列島の宇久島の方言を包括的に記述しています。上図の黒部分が宇久島（宇久町）です。

方言というと、どうしても共通語と異なる部分に注目が集まります。同じ日本語でもこのように異なるのは、そこに方言独自の言語体系があるからです。

その方言独自の言語体系を明らかにするために、共通語と異なる部分だけを記述するのではなく、その方言を包括的に記述することを行っています。



宇久平港

【重層的な日本語史研究】

日本語の中央語は、江戸時代前期までは京都の言葉、江戸時代後期からは江戸・東京の言葉です。これまで日本語史の研究では、この中央語の歴史を中心に扱ってきました。

しかし、日本語とは日本列島すべてで話されている言葉であるはずですが、方言を記述することで、中央語だけの通時的な視点だけでなく、通方言的な視点を持つことができます。その視点から、日本語史を重層的に考察することを行っています。

また、日本語史研究と世界の言語研究は、互いに応用・検証しあう関係にあります。中央語には見られない言語現象が、方言にはみられるので、その記述は、世界の言語との対照にも役立つものになります。

日本語史研究の発展

- ① 中央語とは異なる方言独自の言語体系を記述する。
- ② 中央語だけでは見えない、日本語の多様性を探る。




世界の言語

- ① 各地の言語現象の分析
- ② 言語理論

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・ 古川初義氏の『長崎県小値賀町 藪路木島方言集～無人になった島のことばの記録～』の出版に際し、前田桂子氏（長崎大学）とともに、監修・編集をしました。
- ・ 2018年7月に福井高専地域連携アカデミア総会で特別講演講師、10月に高専カフェで講師を務めました。
- ・ 2018年度より、藤島高校SSH学校設定科目「研究ⅡB」の研究アドバイザーを務めています。



所属部門	地域・文化	
研究分野	刑事法学	
	川畑 弥生 助教 博士（政策科学） 一般科目教室(人文社会科学系) 法学研究室 kawabata@fukui-nct.ac.jp	<b>専門分野</b> 刑事政策，少年司法手続 <b>キーワード</b> 修復的司法，少年司法手続，社会内処遇 <b>所属学協会・研究会</b> 日本公共政策学会，更生保護学会

研究テーマ

【犯罪被害者と加害者による対話の効果検証】

現行の刑事司法手続や少年司法手続の目的は、  
①真実の解明と②罪を犯した者に対して罰を科すことが、その主たる目的です。

そのため、犯罪被害者は事件の関係者であるにも関わらず、当事者として刑事司法手続に関わることができず、「国家」と「加害者」という構図で手続が進められてしまいます。

「修復的司法」は、そこに犯罪被害者が参加し、被害者の救済や癒しに効果のある取り組みとして、主にヨーロッパ諸国、アメリカ、オセアニア諸国等で実施されています。

日本においても、警察主導のパイロット事業やNPOでの取り組みは行われておりますが、効果の検証は十分に行われておりません。

日本で実施した場合の効果について検証するとともに、教育現場で生じる問題の1つである「いじめ」や「非行」といった諸問題への応用と実践が研究課題です。

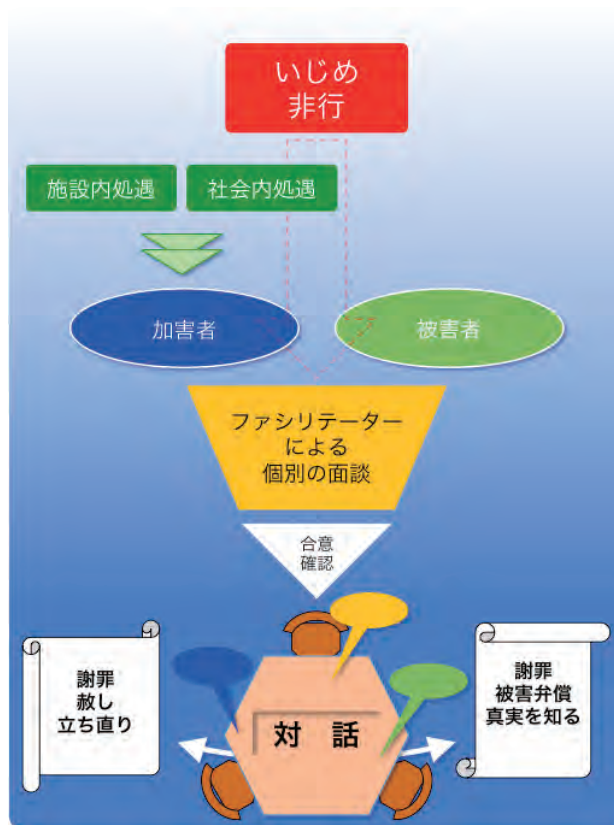



図1 対話による解決のアプローチフロー図

地域貢献の実績と提案

2014年から、NPO法人「対話の会」で活動しております。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

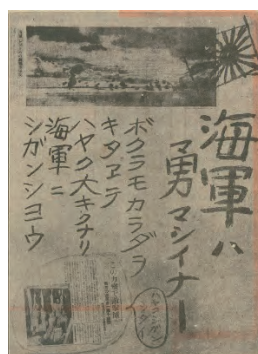
所属部門	地域・文化	
研究分野	日本史	<b>専門分野</b> 近現代史, 地域史, 軍事史, 社会史
	木村 美幸 助教 修士（歴史学） 一般科目教室(人文社会科学系) m-kimura@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 海軍, 志願兵, 地域, 兵事資料 <b>所属学協会・研究会</b> 史学会, 日本歴史学会, 大阪歴史学会, 近現代史研究会, 日本史研究会

研究テーマ

【海軍志願兵についての研究】

日露戦争後～アジア・太平洋戦争期に海軍志願兵をどのように集めていたかについて研究しています。戦前の軍隊の制度としては、20歳以上が入営する徴兵制度が有名ですが、「予科練」に代表されるように、海軍は常に一定の割合を20歳未満の全国の青少年から志願で集めていました。青少年が海軍を志願するためには、周りでそれを支える仕組みが必要であったはずですが、こうした点を明らかにするために、海軍がどのような拠点を地域に設けていたのかを研究しています。

こうした拠点について検討するにあたり、海軍協会や地方海軍人事部・在郷軍人会などの組織の動向について、各地の役場に残る行政文書や防衛省防衛研究所の資料・各種ポスター類などを使って研究しています。（写真は「啓発新聞の作り方」2〔日本宣伝研究所、1943年〕より、海軍志願兵募集のために児童生徒が作成するポスター一例）。




【軍隊と地域についての研究】

前述の海軍の研究を軸にして、今後は陸軍も含めた軍隊と地域の関係についての研究を進めていきたいとします。特に鯖江は歩兵第36連隊が置かれた「軍都」でもあるので、今後は鯖江市域の軍隊と地域の関係についても研究していきたいとします。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・愛知県史、西尾市史、豊田市史などの自治体史編さんに携わってきました。今後は、福井県域も含めて地域との関わりについて研究していきたいとします。
- ・名古屋大学大学文書資料室への勤務経験があり、歴史資料整理や目録作成についてのアドバイスもできるのではないかと思います。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	<b>専門分野</b> フランス哲学, 現象学  <b>キーワード</b> メルロ＝ポンティ, 間文化性, 視覚論, 身体論  <b>所属学協会・研究会</b> 日本現象学会, 日仏哲学会, 関西哲学会, 関西倫理学会, メルロ＝ポンティ・サークル, 日本ミシェル・アンリ哲学会
研究分野	哲学・倫理	
 佐藤 勇一 准教授 博士（文学） 一般科目教室(人文社会科学系) 哲学研究室 y-sato@fukui.kosen-ac.jp		

研究テーマ

【研究テーマ1】

メルロ＝ポンティの哲学を中心に、哲学・現代思想について研究しています。これまでに、メルロ＝ポンティ関連の翻訳に携わるとともに、メルロ＝ポンティが哲学以外の領域（心理学、キリスト教、芸術、人類学など）との対話を通じて、古典的な哲学（とくに17世紀）が問題にした「存在」「自然」「人間」の関係を、古典的な仕方とは別の仕方では捉え直していることを明らかにしてきました。今後は晩年の未公刊草稿も視野に入れることによって、メルロ＝ポンティ研究の深化を目指すとともに、後期思想の応用可能性について探り、メルロ＝ポンティ研究の拡張も目指します。

【研究テーマ2】

間文化現象学という、文化と文化の間で生起する間文化的な諸現象を現象学的に解明するプロジェクトに10年以上参加してきました。また、2018年よりp4c（子どもの哲学）という近年世界地の国や地域で実践されている哲学対話に取り組み、国内やハワイの教育実践から学び始めました。今後はp4cのような教育実践研究、身体に関する哲学以外の分野との共同研究、市民的知性の教育や市民との協働とも関わることによって、哲学研究（とくにメルロ＝ポンティ研究）を中心に他の分野と関わる新たな研究領域の創出を目指します。


【研究テーマ3】

これまでに、メルロ＝ポンティの芸術論を取り上げたり、ケプラーやデカルトの光学に関するメルロ＝ポンティの視覚論を、間文化現象学的に取り上げたりするなど、「視覚」を主要な研究テーマのひとつとしてきました。ジェイの視覚に関する著作『うつむく眼』の翻訳もしました。今後は、フランス哲学における視覚に関する考察を現象学のみ限定せずに取り上げたりすることによって、「視覚」や「技術」、「身体」に対して思想的にアプローチする研究に取り組んでいきたいと考えています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

2014年、15年に「公開講座 ラボール学園京都労働学校（公益社団法人京都勤労者学園）セミナー『哲学の名著を読む』」に講師として参加しました。また、2016年以降、「公開講座 中学生のための社会講座——高専の入試問題で学ぼう——」に講師として参加しました。JOINTフォーラム2016では、武生商工会議所にて「ポスター発表 未公刊草稿の観点から行うメルロ＝ポンティ哲学研究」を行い、2017年には福井高専地域連携アカデミア総会に特別講演講師として参加しました。2019年には高専カフェ「メルロ＝ポンティ思想紹介 -哲学と絵画・対話-」、立命館大学にてワークショップ「対話の促し」に発表者として参加しました。2021年には鯖江市図書館文化の館における、さばえライブラリーカフェ「西洋絵画からひもとくメルロ＝ポンティ思想」に講師として参加しました。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化／エネルギー	<b>専門分野</b> 物理学
研究分野	原子・分子 量子エレクトロニクス	
	白崎 恭子 技術職員 博士（理学） 教育研究支援センター shirasaki@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> ボソン，フェルミオン，混合系， ボーズ・アインシュタイン凝縮，不安定性，転移温度
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本物理学会，応用物理学会応用物理教育分科会， 日本物理教育学会，日本工学教育協会

研究テーマ

【ボソン - フェルミオン混合多体系のボーズ・アインシュタイン凝縮】

すべての物質はボソンとフェルミオンに分けることができます。ボソンは1つの状態を複数の粒子が占めることができ、フェルミオンは1つの状態を1粒子しか占めることができない（パウリの排他律による）という特徴があります。このため、温度がほぼゼロの低温のとき、ボソンとフェルミオンは異なったふるまいを示します。ボソンの場合にはエネルギーゼロの最低エネルギー状態へ全粒子が集まるボーズ・アインシュタイン凝縮（図1）が起こり、フェルミオンの場合には最低エネルギー状態から順番に粒子が埋まってゆき、フェルミ面をつくります（図2）。

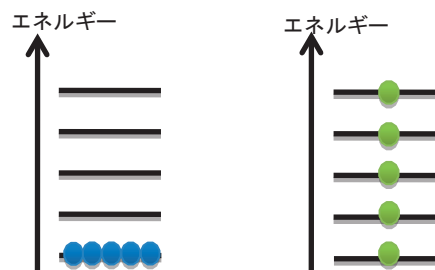


図1：ボソン

図2：フェルミオン


ここで、ボソンとフェルミオンを混合し、互いが相互作用をしている場合にはどのようなふるまいを示すのかを研究しています。具体的には、ボソン - フェルミオン間の相互作用を引力とし、その強さによりボーズ・アインシュタイン凝縮の転移温度はどのように変化するかを調べています。

また、ボソン - フェルミオン間の相互作用が引力のとき、低温では系が不安定になります。不安定になる温度の、ボソン - フェルミオン間の相互作用の強さによる変化についても調べています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・教育研究支援センターで夏季・秋季に公開講座を実施しています。
- ・その他、子ども向けの科学教室等の活動にも参加しています。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	
研究分野	自然科学一般	<b>専門分野</b> 数学, 数学教育
	中谷 実伸 教授 博士（理学） 一般科目教室（自然科学系） nakatani@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 無限可積分系, 数学教材開発 <b>所属学協会・研究会</b> 日本数学会

研究テーマ

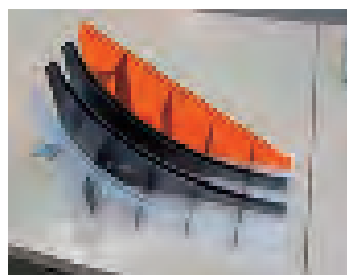
【テクノロジーを用いた数学教育】

グラフ電卓やパソコン, iPadなどのテクノロジーを活用した数学教育の研究ならびに教材開発を行っています。



【工学機器を用いた数学教材の開発と活用】

レーザーカッターや3Dプリンタ, 3Dプロッタなどを使い, オリジナルの数学教材を作成し, 授業などで実際に活用する研究を行っています。



産官学連携や地域貢献の実績と提案

「多面体を作ろう」やグラフ電卓を用いた「あるく」をテーマとする公開講座や出前授業を行っています。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	
研究分野	自然科学一般	専門分野
	長水 壽寛 教授 博士（理学） 一般科目教室（自然科学系） 数学研究室 nagamizu@fukui-nct.ac.jp	数学，数学教育
		キーワード 位相数学(General Topology)，教材開発，メタ認知
		所属学協会・研究会 日本数学会，日本数学教育学会，数学教育学会， 数学協会

研究テーマ

【テクノロジーを用いた数学教育の研究】

- ・グラフ電卓などのテクノロジーを用いて，学生の探究活動を促す教材開発および，授業実践を試みています。
- ・関数のグラフで作成した「関数グラフアート」の全国コンテストも，福井高専が事務局となっ  
て行っています。



【メタ認知の研究】

- ・数学教育にテクノロジーを導入することで，「メタ認知」がどのように育成されるか？  
また，その仕組みについても研究しています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案


【公開講座・出前授業】

- ・「多面体作り」や「グラフ電卓を用いて関数を体験する」などをテーマにした公開講座・出前授業を行っています。

【サッカー教室】

- ・キッズリーダーの資格を持っています。福井高専のサッカー部員のほとんどがキッズリーダーの資格を持っています。園児を対象としたサッカーフェスティバルにもお手伝いで参加しています。幼稚園などご希望があれば，サッカー教室を行います。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	<b>専門分野</b>
研究分野	英語一般	イギリス文学（20世紀小説）、20世紀イギリス文化、技術英語教育
	原口 治 教授 修士（文学） 一般科目教室(人文社会科学系) 英語教育支援室 osamuh@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b>
		<b>所属学協会・研究会</b>

研究テーマ

**【「イングランドらしさ」のイデオロギー研究】**

「イングランドらしさ」のイデオロギーについて、エドワード朝文学を中心に研究しています。これまで主に、D.H. ロレンスとE. M. フォースターの「イングランド人としての意識(= "Englishness")」を実生活と作品の双方から研究してきました。ケンブリッジ大学での各種調査(平成15年度文科省在外研究員・若手12ヶ月)等の研究成果を学会発表や論文等で公表しております。平成25年度は共著書の出版に向けての各種研究に主従事する予定です。

「主要研究成果」

翻訳、吉村宏一他編訳、『D.H. ロレンス書簡集Ⅶ』。東京：松伯社、2013.

**【技術英語教育モデル構築】**

国際的技術者に必要とされる英語教育カリキュラムの構築と実施に関する研究を、本校専攻科英語教育を中心に行なっています。これと並行して、企業で必要とされる一般的な技術英語教育全般についても、科学研究費受入の下、各種研究や実地調査を含めて、今後さらに研究展開する計画です。

「主要研究成果」

著書、原口治他編著、『自然科学を読む：過去・現在・未来—工業英検対応—』。東京：朝日出版、2012.

**【英語文学及び文化研究を通しての地域貢献のありかた】**

福井県や鯖江市を中心に各種の地域貢献を展開しております。

「主要特記事項」

県レベルでは、平成25年度福井県大学連携リーグ連携研究推進事業補助金受入の下で、今後研究展開する計画です。鯖江市においては、鯖江市高年大学で、英語に関する新特別講座開講を中心に、地域貢献のありかたについて研究展開する計画です。以上の実践的な地域貢献を多角的に考察し、今後、論文や口頭発表の形で、研究成果を公表する予定です。その他、左記の研究テーマ**【技術英語教育モデル構築】**もご参照ください。

主要設備・得意とする技術

1. 「技術英語教育全般」

本校専攻科英語教育を中心に、国際的技術者に必要とされる英語教育カリキュラムの構築と実施に関する研究を行なっています。また、企業で必要とされる一般的な技術英語教育全般について研究しております。

2. 「英語文学及び文化研究を通しての地域貢献のありかた」

福井県大学連携リーグ連携講座や鯖江市高年大学特別講座等を中心に各種の地域貢献を展開しております。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

「主要事項のみ記載」

平成28年度科学研究費受入 基盤研究(C)(一般)3か年 研究代表者

平成25年度福井県大学連携リーグ連携研究推進事業補助金受入 研究代表者

平成24年度福井県大学連携リーグ連携研究推進事業補助金受入 研究代表者

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	
研究分野	物性 II	<b>専門分野</b> 物性理論
	hikino@fukui-nct.ac.jp 挽野 真一 講師 博士（理学） 一般科目教室（自然科学系） 応用物理学	<b>キーワード</b> 磁性，超伝導，近接効果，ジョセフソン効果，スピン依存伝導現象
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本物理学会

研究テーマ

【 スピン依存伝導現象の理論的研究 】

超伝導/強磁性多重接合における近接効果の理論

超伝導/強磁性(S/F)接合では、近接効果によってSがs-波超伝導体にも関わらず、Fに2つの電子のスピン向きがそろったスピン三重項クーパ対が誘起されます(図1)。ここで、近接効果とは、超伝導体と非超伝導体の接合を作ると、超伝導体のクーパ対の波動関数が非超伝導体へ染み出す効果です。SF接合で現れるスピン三重項クーパ対のスピンをどのように観測すればよいのか、に関する研究が注目されつつあります。

研究成果の一例として、図2の左側に示した、超伝導体、強磁性体そして常磁性体の多重接合で、近接効果によって常伝導体中に誘起されるスピン三重項クーパ対のスピンを調べました。その結果、スピン三重項クーパ対のスピンに起因した磁化が、常伝導体に誘起されることを明らかにしました(図2の右側)。この磁化の特徴は、超伝導体間の位相差( $\theta$ )によって制御することができます。 $\theta$ を変えることによって、磁化の大きさが変わるので、この磁化の変化を実験的に観測できれば、スピン三重項クーパ対の存在を直接確認することができます。今後は、応用への可能性も視野に入れて研究を行う予定です。



図.1 超伝導/強磁性接合において、近接効果によって出現するスピン三重項クーパ対の概念図

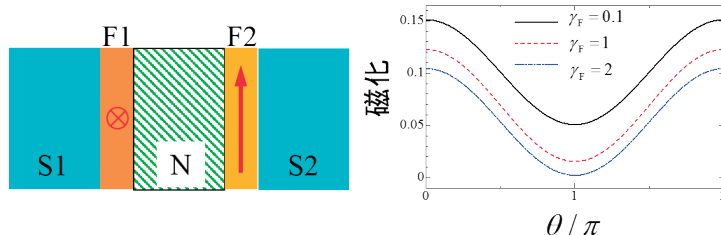


図.2 超伝導体(S)，強磁性体(F)そして常磁性体(N)から構成される多重接合(左の図)で、スピン三重項クーパ対のスピンによってNに誘起される磁化のS間の位相差の依存性(右の図)

産官学連携や地域貢献の実績と提案

【公開講座・出前授業】


- ・ 理化学研究所一般公開説明員

内容：物性物理学と工学のつながりを一般の方々に説明していました。

- ・ 小・中・高の学生に対して物性物理学(磁性，超伝導，近接効果)の出前授業ができます。



福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	<b>専門分野</b> 外国語教育
研究分野	外国語教育	
	藤田 卓郎 准教授 Master of Arts 一般科目教室(人文社会科学系) 外国語教育研究(TEFL, TESOL) t-fujita@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> コミュニケーション, タスクを用いた言語指導, アクション・リサーチ, 実践研究法
		<b>所属学協会・研究会</b> 中部地区英語教育学会, 全国英語教育学会, 外国語教育 メディア学会

研究テーマ

【英語コミュニケーション能力の育成】

英語によるコミュニケーション能力の育成や、コミュニケーションへの動機づけを促進する指導法を研究しています。特に、タスクと呼ばれる活動を用いた言語指導 (Task-Based Language Teaching) について研究しています。コミュニケーションを活性化するタスクの作成方法や指導方法に興味があります。これまでには、スピーキングタスクを行う前の事前準備時間 (pre-task planning time) やタスクの繰り返し (task repetition) が学習者の発話の流暢さ、複雑さ、正確さに及ぼす影響について研究報告を行っています。


【アクション・リサーチによる英語授業研究法】

英語教師として、効果的な授業研究方法について研究しています。特に、アクション・リサーチの手法を用いた授業研究方法に興味があります。教室内の教育実践から理論を生成する方法や、理論と実践を融合させるための方法を研究しています。これまでには、意見・考えを問う授業やタスクを用いた言語指導について、アクション・リサーチの枠組みを用いた実践報告を行っています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・ 福井県英語研究会放送テスト部員 (2011年～2013年)

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	
研究分野	スポーツ科学	<b>専門分野</b> 保健体育, バイオメカニクス
	松井 一洋 准教授 修士（教育学） 一般科目教室（自然科学系） 保健体育学 matsui@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 足関節ブレース, 動作解析
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本体育学会, 日本バイオメカニクス学会

研究テーマ

【足関節ブレースの効果と動作への影響】


足関節捻挫の予防, 再発防止を目的として使用される足関節ブレースは, 自分で着脱することができ, 繰り返し使用することが可能です。そのブレースが動作に対してどれだけの抵抗力（モーメント）を発揮しているのか, 動作とブレース装着によって受ける力が膝関節などにどのような変化を与えるのかについて研究しています。



産官学連携や地域貢献の実績と提案

総合型地域スポーツクラブで小学生対象のバスケットボール教室に参加していました。  
バスケットボール以外のスポーツイベントにも参加しています。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	<b>専門分野</b> 英語教育、言語コミュニケーション
研究分野	人文科学一般	
	宮本 友紀 准教授 Master of Science 一般科目教室(人文社会科学系) 英語学 miyamoto@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 英語教育、コミュニケーション、言語
	<b>所属学協会・研究会</b> 全国英語教育学会 中部地区英語教育学会 全国高等専門学校英語教育学会	

研究テーマ

【研究テーマ1】

多様なコミュニケーションのコンテキストにおける言語の使用の特徴やニーズの研究をしています。

【研究テーマ2】

研究テーマ1の応用としての外国語教育における言語指導の研究をしています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案


【公開講座・出前授業】

工業英検やTOEICなど各種資格試験対策に対応可能です。

【ヨガ・瞑想教室】

ハタヨガのTeacher Trainingを修了しています。英語で初心者向けのヨガや瞑想、呼吸法の指導可能です。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	<b>専門分野</b> 英語学, 日本語学, 認知言語学, コーパス言語学
研究分野	英語全般	
	森 貞 教授 博士（文学） 一般科目教室(人文社会科学系) 英語学 mori@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 文法, 語法, 認知モード
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本英語学会, 日本言語学会, 日本英語表現学会, 日本認知言語学会, 日本語用論学会, 関西言語学会, 大阪大学英文学会, 金沢大学英文学会

研究テーマ

【日英語の認知モードの違いに着目した英語教育教授法の研究】

認知言語学的観点を生かした辞書・教材開発（（例：ベネッセ「E-Gate English-Japanese Dictionary」、アルク「文法マラソン」等）は近年注目を集めているところであるが、本研究では、特に、日英語間の「認知モード」の違い〔Iモード認知・Dモード認知〕に着目して、英語教育教授法に関する基礎的研究を行い、最終的には、その教授法を実際の教育現場で具現化するための英語教育教材を開発することを研究目的としています。

【コーパス検索とアンケートを併用した日英語における非文法的表現の出現に関する研究】

非文法的表現及び研究者間で容認性判断に揺れが見られる表現の出現に関して、大規模データベース検索とアンケートを併用してその実態を明らかにし、認知語用論的観点・語用論的観点から、出現メカニズムを解明します。


【日英語の談話における主節表現の機能と創発メカニズムの解明】

NR (NEG-Raising) 述語及び ENR (Extended NEG-Raising) 述語を含む主節表現およびその日本語相当表現が、談話において、どのような機能を果たしているかを大規模データベース（文字データ・音声データ）の分析を通して明らかにするとともに、その創発メカニズムを解明します。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・ 2012年度福井県大学連携リーグ講座（テーマ：イギリス文学・文化を味わう）講師
- ・ 福井県内の旧所・名跡の英文パンフレットの作成支援
- ・ 福井県内の小・中学校の英語クラブ運営に関わる助言
- ・ 日英語の認知モードの違いに着目した英語教授法に関する講演会

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	
研究分野	数学基礎, 応用数学	<b>専門分野</b> 確率論, 無限粒子系
	柳原 祐治 准教授	<b>キーワード</b> Percolation, Contact process
	理学修士 一般科目教室 (自然科学系) 数学 y-yanagi@fukui-nct.ac.jp	<b>所属学協会・研究会</b> 日本数学会

研究テーマ

【モンテカルロ法】

確率論と統計力学を基本として,  
「無限粒子が相互作用するなかで, 相全体の様子がどのようにふるまうか」  
ということについて, percolation model や contact process などの, 様々なモデルにおいて研究  
を行っています。

基本的には, 数学の理論の枠組みのなかでの結果を求めていきますが, ときには,  
コンピューターで乱数を発生させ, シミュレーションを行って, 「とにかく何が  
起きているのか」ということを調べ, 理由を探るという研究手法をとることもあります。  
(このような手法を「モンテカルロ法」といいます。)


ですので,  
金属内部, 流体, 交通流  
等の対象について, モンテカルロ法で調べるといった依頼に応じることができます。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

【公開講座・出前授業】

・「多面体作り」や「グラフ電卓を用いて関数を体験する」などをテーマにした公開講座・出前  
授業を行っています。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	
研究分野	数学解析	<b>専門分野</b> 数学一般（特に偏微分方程式論）
	山田 哲也 准教授 博士（理学） 一般科目教室（自然科学系） 数学 yamada@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 移流拡散方程式
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本数学会

研究テーマ

【移流拡散方程式の解の定性理論】

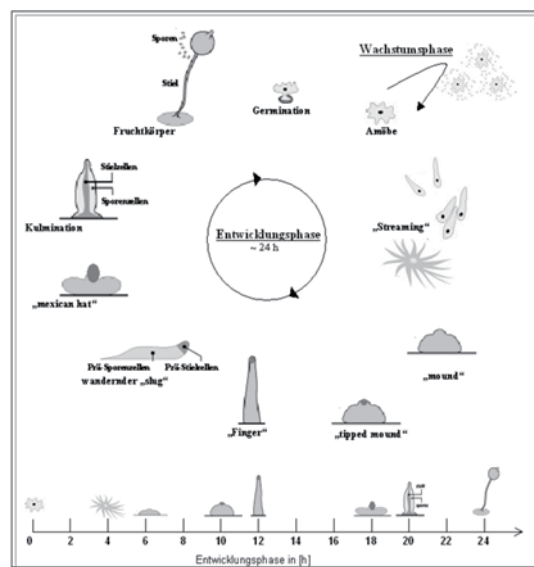
関数解析や調和解析を用いて移流拡散方程式（例えば走化性粘菌モデルや半導体シュミレーションモデルなど）における解の定性的性質を調べています。最近

- ・ 時間無限大での解の振る舞い（漸近形や漸近率）
- ・ 定常解の安定性

に関する研究を行っています。

$$\partial_t u = \Delta u - \nabla \cdot (u \nabla v), \quad \partial_t v = \Delta v - v + u$$

移流拡散方程式とは



走化性による細胞性粘菌の形態形成


出典 <http://ja.wikipedia.org/wiki/細胞性粘菌>

産官学連携や地域貢献の実績と提案

【公開講座・出前授業】

「多面体作り」を通して多面体の性質を学んでもらう公開講座や出前講座を行っています。

福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	<b>専門分野</b>
研究分野	人文科学一般	教師教育、数学教育、学校組織、英語教育、授業研究
	Pauline Anne Therese M. Mangulabnan (マグラブナン ポリン アンナ テレーゼ マラヤ) 助教 教職修士(専門職) 一般科目教室(人文科学系) pauline@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b>
		国際交流、学習組織・コミュニティづくり、省察、実践記録、マイノリティ教育支援 <b>所属学協会・研究会</b> 国際授業研究会、フィリピン授業研究会、World Education Research Association, Math and Mathematics Education in Developing Countries

研究テーマ

【研究テーマ1】

**Teacher Reflection and Lesson Study**

The research focuses on how and what teachers reflect upon in their classrooms. How do teacher design their lessons? How do teachers interpret the behavior and outputs of students? The research looks at the professional capital of teachers, which includes how they can work with each other. The researches were situated in the Philippines and sub-Saharan Africa.



【研究テーマ2】

**Building Communities to Support Learning**

The research focuses on supporting minorities in Fukui, including students and teachers. The teachers were international students who came to Japan to learn about the educational system of the country. The students are children with foreign roots who has struggles in adopting into the Japanese classrooms. As a result, the research looks at the role of community to support learning of such 'minority'.




【研究テーマ3】

**English and Language Curriculum and Learning**

The research focuses on the comparison of the language education practices and curriculum studies of the Philippines, Japan, Guatemala, Cambodia and Myanmar. Furthermore, the research looked at the advantage and potential room for improvement of the basic education level English of each country.

産官学連携や地域貢献の実績と提案

OECD Education 2030 International Working Group member 貢献者  
 Africa (Malawi & Uganda) Teachers' Roundtable 講師  
 International Mother Language Conference and Festival 委員会・講師  
 外国ルーツの子供の支援 助言者  
 武生東高校 Hino Quest 助言者  
 震災10年のWS 通訳者

所属部門	環境・生態	
研究分野	生化学, 分析化学	<b>専門分野</b> 生化学, 微生物学, 分析化学
	上島 晃智 教授 理学博士 物質工学科 uejima@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 環境浄化, 微生物, 機能性和紙
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本化学会, 電気化学会

**研究テーマ**

**【 微生物による河川浄化 】**

**自然固着菌種の活性化法**

工場や住宅から排出される排水は、時として河川の自然浄化機能を超え、ヘドロとして低流速領域に溜まってゆく。特に治水事業としてコンクリートによる三面張り工法が採用された場合には、微生物繁殖機能が著しく阻害され、この傾向が顕著となる。そこで、ヘドロの溜まる領域の微生物を活性化する方法で、ヘドロの分解機能を促進し、効率的に堆積物を除去する方法探る。

**【 和紙製造のプロセス改善 】**

**和紙補助原料の特性解析**

和紙は植物の靱皮を砕き水に分散させることで抄紙を行うが、このときに補助原料として植物由来の分散剤を配合する。この分散剤の科学的特性を解析することによって、より合理的で品質の高い和紙製造への貢献を図る。また、分散剤の新しい保存方法を開発することで、廃棄物の低減に寄与する。


**主要設備・得意とする技術**

- ・微生物の解析技術を用いて、有用細菌群のスクリーニングを行う。
- ・ICPやクロマトグラフ、質量分析装置、原子吸光、蛍光X線などの有機・無機の分析技術で様々な物質変化を検出する。
- ・引張試験機や耐折試験機などを通して和紙の物理的特性を解析する。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・和紙副原料保存剤の影響解析
- ・福井県環境審議会特別委員
- ・出前授業等



所属部門	環境・生態	<b>専門分野</b> 土木・環境
技術分野	土木工学	
	小木曾 晴信 技術専門職員 教育研究支援センター ogiso@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 測量, 地盤, 環境, 植生, 植樹
		<b>所属学協会・研究会</b> 鯖江市環境まちづくり委員会, 越の郷地球環境会議, エコプラザさばえ, IGES 国際生態学センター研究会員, 応用生態工学会, 自然環境復元学会

### 研究テーマ

#### 【福井県内の潜在自然植生の概念に基づく広葉樹幼苗植栽地の調査】

- ・福井県内の潜在自然植生の概念に基づく広葉樹植栽地（環境保全林）について、植生発達状況を調査しています。
- ・植樹地の土壌特性（物理・化学性）が植生に及ぼす影響について研究を行っています。

### 主要設備・得意とする技術

#### 【主要設備】


一軸圧縮試験機, pH・EC 測定器, CBR 試験機, トータルステーション, GNSS (GPS) 受信機・解析ソフト

#### 【得意とする技術】

環境都市工学科学生への実験実習指導（測量, 土質試験）

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

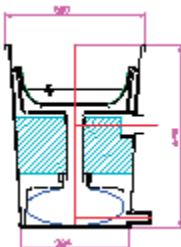
- ・鯖江市環境まちづくり委員として、地域の環境活動について企画・運営を行っています。
- ・越の里地球環境会議のメンバーとして、地元産苗木を用いた植樹活動を行っています。
- ・福井総合植物園と共同でデジタルアーカイブの制作 (YouTube, Street view) を行っています。

所属部門	環境・生態	
研究分野	土木環境システム, 環境モデリング・保全修復技術	<b>専門分野</b> 上下水道工学, 水環境学, 地盤環境工学
	奥村 充司 准教授 工学修士 環境都市工学科 環境・衛生工学研究室 okumura@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 上水道, 下水道, 水質調査, 地下水汚染, 生物指標
		<b>所属学協会・研究会</b> 土木学会, 日本水環境学会, 日本材料学会, 廃棄物学会, 応用生態工学会, NPO 福井地域地盤防災研究所

**研究テーマ**

**【排水中におけるSSおよび有機物の処理に関する研究】**

河川へのSS, BOD負荷を軽減する目的で, 地場産業排水の浮遊性物質(繊維くず等)を土木シートで濾過除去し, 微生物を付着させた不織布により有機物を好氣的に処理する技術を開発しています。



**【日野川に砂礫河原を取り戻す研究(河川自然再生技術としての小わざ)】**

日野川に人と生き物を川に呼び戻すことを目的に, 河川の自然の営力を利用して砂礫河原を取り戻す研究およびコウノトリの冬季の餌場としてのワンド整備を検討しています。



**【水生生物による河川環境の調査・評価】**

河川無脊椎動物およびそれらの餌となる流域森林から供給されるリター, 河道内部生産である付着藻類の現存量・生産量調査を行い, 河川水質および河川の自然度, 生態系の持続性を評価しています。




**主要設備・得意とする技術**

環境都市工学科棟3階の衛生工学実験室では, 水質分析に関する備品, 器具を保有しており, 河川水質や, 地下水・湧水の水質分析を行っています。また, 河川の水生生物調査を行い, 河川環境の評価の基礎資料としています。保有装置・器具は以下のとおり。

- ・全有機炭素計(TOC): 有機性排水の有機物分析・土壌中の有機物含有量
- ・原子吸光分光光度計: 重金属による土壌・地下水汚染の調査
- ・生物調査器具一式: 河川底生無脊椎動物調査, 魚類調査

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・環境教育プロジェクトWET(エドューケーターの資格)のアクティビティを用いて出前授業を行っています。
- ・御清水川のユスリカ対策を地元のNPO団体, 住民, 企業, 本校学生との協働で実施しています。
- ・武生メダカ連絡会の会長として, 下水道事業推進や農地の生態系再生活動を行っています。
- ・「そうだ!川へ行こう」川のイベントを通じて, 河川管理者や漁協, 建設業者などと河川を中心とした環境教育や地域活性化の実践活動を行っています。

所属部門	環境・生態	
研究分野	環境動態解析	<b>専門分野</b> 作業環境測定
	片岡 裕一 技術職員 教育研究支援センター kataoka@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 環境測定, 安全衛生 <b>所属学協会・研究会</b> 作業環境測定協会, 大学等環境安全協議会

### 研究テーマ

#### 【計量証明を必要としない環境計測（含む作業環境）】

- 工程や作業の変更をおこなうと排出される排ガスや排水などに含まれる有害物質の濃度が変化する場合があります。有害物質の濃度が増加すると、環境汚染や地域住民や労働者の健康障害の原因となります。
- このように環境計測はCSRとしての環境負荷の低減や健康障害の防止のために重要です。  
しかし、専用の分析機器を持たない事業所は、排水の水質測定や作業環境改善のための自社測定が可能な状況です。
- 現在、福井県和紙工業組合より委託（12事業所）を受けて、事業所排水が越前市指定の環境基準項目の基準値に適合し、適正に排出されているか確認するためサンプリングおよび測定を実施中です。

### 主要設備・得意とする技術


地域連携テクノセンターに設置された恒温恒湿室内の引張試験機、折曲げ試験機を利用して薄い素材の強度試験が可能です。

中央労働災害防止協会 有機溶剤業務従事者インストラクター，局所排気装置等定期自主検査インストラクター，新入者安全衛生教育トレーナー，酸素欠乏危険作業特別教育インストラクターです。

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

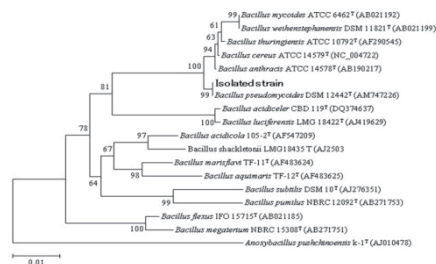
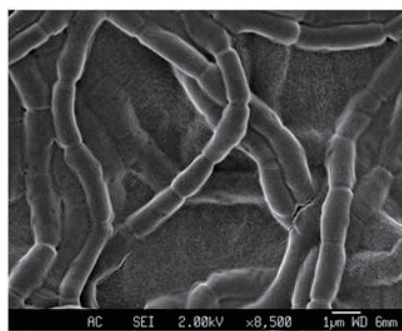
☆これまでに、次のような社会活動をしてきました。

(1)公開講座「親子理科教室」(2011年7月)，  
公開講座「親子科学教室」(2012年7月)

所属部門	環境・生態	
研究分野	バイオテクノロジー	専門分野
	川村 敏之 講師 博士（工学） 物質工学科 kawamura@fukui-nct.ac.jp	生物機能、遺伝子工学
		キーワード
		バイオテクノロジー、分子生物学
		所属学協会・研究会
		日本動物学会、高専学会など

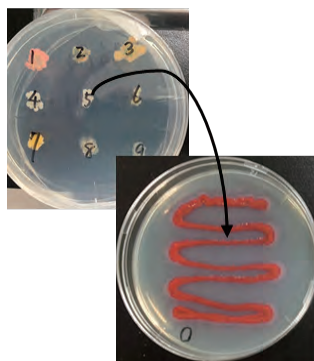
研究テーマ

【研究テーマ 1】



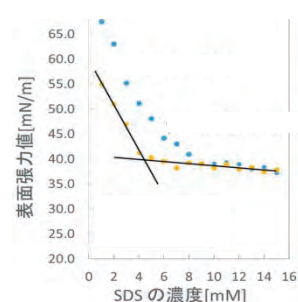
納豆菌である *Bacillus* 属細菌の単離・同定を行い、それぞれの特徴や生理機能などを応用することを目的としている。

【研究テーマ 2】




単離した *Bacillus* 属細菌を色々な条件で培養すると、化合物を生産する。

【研究テーマ 3】



上図は抽出した化合物の界面活性剤との相互作用を分析している。単離した化合物にどのような性質があるか調べ、化合物を応用できないかを検討する。  
 単離した化合物をモデル生物であるメダカやプラナリアへ投与して細胞への影響を見たり、カビやキノコの生育への関与について解析を行っている。

所属部門	環境・生態	
研究分野	分析化学	<b>専門分野</b> 無機分析化学
	後反 克典 准教授 博士（理学） 物質工学科 分析化学研究室 gotan@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 微量元素分析, 環境・材料分析, 高感度分析
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本分析化学会, 日本地球化学会

**研究テーマ**

**【マイクロ波分解法による木質バイオマス発電燃料中の迅速元素分析法の開発】**

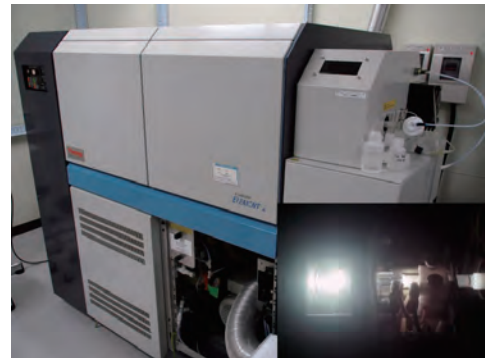
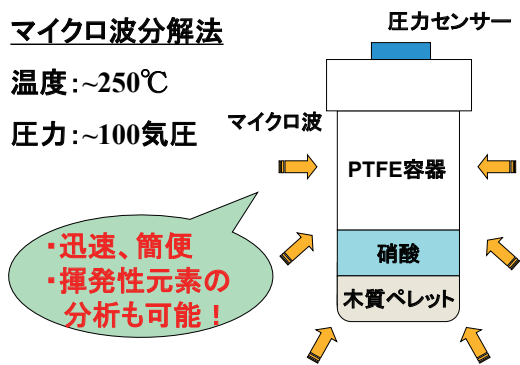
環境試料および材料中に含まれる微量元素の分析では、試料の前処理法の検討や分析の妨げとなるマトリクス成分（主成分）の影響の軽減が重要となる。これらの要因を取り除き、微量元素を正確に定量するための試料分解法や目的元素の分離、精製法の開発を行っている。一例として、マイクロ波を用いた木質ペレットの分析法の開発を示す。マイクロ波分解装置を用いて高温・高圧条件にすることで、従来は困難であった試料分解を安全・迅速に達成できる。本方法による前処理と、誘導結合プラズマ質量分析装置を組み合わせることで極微量元素（ppt～ppm）の多元素（約70元素）同時定量分析が可能となる。

他にも抽出法や、LCカラムおよび固相抽出、溶媒抽出等による前処理を組み合わせた分析手法の開発を行い、ホウ素、ヒ素等、カドミウム、水銀の環境汚染の原因となる物質の評価の研究を行っている。

**マイクロ波分解法**

温度: ~250℃

圧力: ~100気圧



**主要設備・得意とする技術**

- 原子スペクトル法を用いた環境試料中の微量元素分析および材料中の不純物成分の分析、および前処理（試料分解、分離・濃縮技術等）を含む分析法の開発。

**【主な使用機器】**


二重収束型誘導結合プラズマ質量分析装置, 誘導結合プラズマ発光分析装置, 高分解能フレイムレス原子吸光分析装置, フレイム原子吸光分析装置, 紫外可視吸光光度計, 全有機炭素分析計, マイクロ波分解装置, 差動型示差熱天秤, 高感度示差走査熱量計

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

過去に行った産官学連携研究テーマ

「石炭中微量元素の分析法開発, 標準化, およびキャラクタライゼーション」

「小型自走式ロボットによる土壌化学成分濃度分布モニタリングシステムの試作」

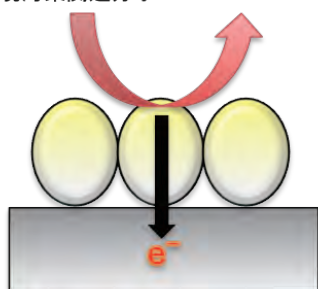
所属部門	環境・生態	
研究分野	生物機能・バイオプロセス	
	坂元 知里 助教 博士（工学） 物質工学科 sakamoto@fukui-nct.ac.jp	<b>専門分野</b> 生物化学, 電気化学  <b>キーワード</b> 電気化学, バイオデバイス, 酵素固定化

**研究テーマ**

**【生体機能を利用したバイオデバイスとシステムの創製】**

バイオデバイスは、電極上に生体や酵素等の生体分子を固定化し、バイオ燃料もしくは測定対象分子に対する生体の応答情報を電子情報として測定する素子です (Figure 1)。

糖などバイオ燃料  
環境汚染関連分子



生体分子(酵素等)

電極

**【対象＝バイオ燃料の場合】**

化石エネルギーに代わる新エネルギー素子として、高出力なバイオ燃料電池の開発を行います。

**【対象＝環境汚染分子等の場合】**

High throughputな環境評価ツールとして、バイオセンサーデバイスおよびシステムの開発を行います。

Figure 1 バイオデバイスの概要

**主要設備・得意とする技術**


**【得意とする技術】**

- ・ 電極材料への生体分子の固定化
- ・ 生体分子・化学物質の電気化学測定

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

**【産学連携の実績】**

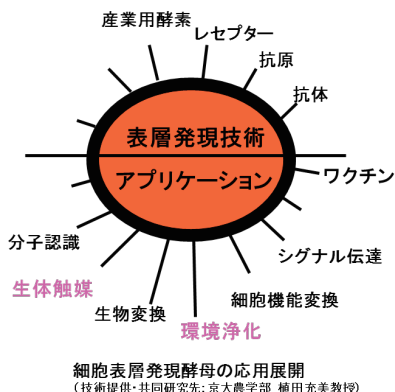
細胞接着領域を制御する装置の開発

所属部門	環境・生態	<b>専門分野</b> 分析化学, 応用微生物学, 生物機能, バイオプロセス <b>キーワード</b> バイオレメディエーション, バイオセンサー, バイオリファイナリー <b>所属学協会・研究会</b> 日本化学会, 日本分析化学会, 日本生物工学会, 日本工 学教育協会
研究分野	複合化学, 農芸化学	
	高山 勝己 教授 博士（農学） 物質工学科 応用微生物学研究室 takayama@fukui-nct.ac.jp	

研究テーマ

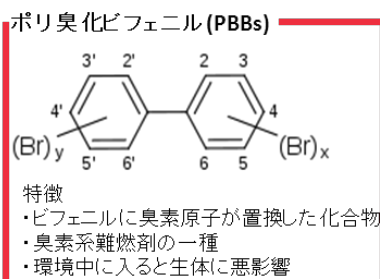
【ニトロ化合物検出用バイオセンサーの構築】

細胞表面工学の技術を用いて、酵母の細胞表面にニトロレダクターゼ酵素を発現させ、これを用いたニトロ化合物バイオセンサーの構築を試みています。ニトロ化合物は有害化学物質の一つです。



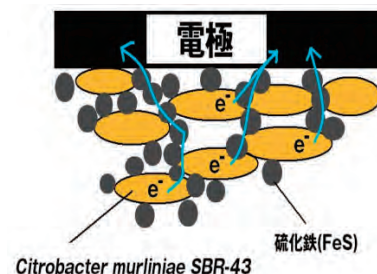
【有機臭素系難燃剤分解菌の探索】

難燃剤には様々なタイプがありますが、有機臭素系化合物はその代表例の一つです。有機臭素系化合物は、その有害性から使用されなくなりつつありますが、難分解性であるために環境中に残留しており、これらの生物分解除去は重要課題の一つです。



【未利用バイオマスを利用するバイオ燃料電池の開発】

バイオ燃料電池は、触媒として酵素もしくは微生物を用い、燃料には糖類や有機酸を利用します。本研究室では、微生物バイオ電池のアノード極に研究の焦点を絞り、直接電子移動型アノード電極の構築に取り組んでいます。




主要設備・得意とする技術

微生物を用いた環境浄化やバイオセンサーに関する研究を実施するために必要とされる基本的な研究設備を保有しています。各種微生物培養用インキュベーター, ファーマンター, PCR, 位相差・明視野・微分干渉・蛍光顕微鏡, クリーンベンチ (2 台), 滅菌装置 (オートクレーブ, 乾熱) 等。他に各種分析装置を保有しています (HPLC, UV-VIS, 蛍光光度計, GC-FID, 電気泳動装置, 電気化学測定装置等)。今後, UPLC-MS, キャピラリー型DNAシーケンサーの導入を予定しています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・未利用バイオマス資源の有効利用に関する研究 (バイオ電池開発や有用物質への変換)
- ・電界印加による植物種子の発芽促進効果についての研究
- ・有機リン農薬検出用バイオセンサーの構築
- ・各種有害物質 (有機リン, 有機塩素, 有害金属) の微生物による浄化または回収に関する研究

所属部門	環境・生態	専門分野 生態学 キーワード 里地里山, 生物調査, 保全活動, WBGT
研究分野	環境モデリング・保全修復技術	
 廣部 まどか 技術職員 教育研究支援センター m-hirobe@fukui-nct.ac.jp		

### 研究テーマ

#### 【里地里山を生息域とする生物調査】

福井県は豊富な自然環境に囲まれています。その中でも自然と都市の中間にあり、集落とその周辺の森林と農地で構成された地域を指す里地里山を生息域とする生物の調査や保全活動に努めてきました。希少な生物の多くが里地里山に生息する種であり、人との関わりの中で維持されてきた里地里山の生態系保護は、人の手によってでしか再興出来ないと考えています。

- ・ 衛生工学実験におけるコドラートを用いた水生生物調査
- ・ 外来生物であるアメリカザリガニやブラックバス、ブルーギルなどの駆除
- ・ 県域絶滅種であるアベサンショウウオの生息域調査

#### 【WBGT自動測定システム自作プロジェクト】

福井県では実測されていない黒球温度を本校で測定し、併せて湿球温度、乾球温度を測定することで、本校における正確なWBGT（暑さ指数）を求め、学生・教職員および地域住民の熱中症予防に寄与することを目的に現在活動中です。



図1 定点観測型WBGT自動測定システム


### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

- H29年度 公開講座 11月 「親子で作るオリジナル写真年賀状」
- H28年度 公開講座 11月 「親子で作るオリジナル写真年賀状」
- H27年度 公開講座 7月 「小中学生夏休み科学教室」
- H27年度 公開講座 11月 「親子で作るオリジナル写真年賀状」

#### ●福井高専におけるリアルタイムな熱中症関連情報について

<https://s-portal.tsc.fukui-nct.ac.jp/tsc/index.php/tsctop/oshms/wbgt>

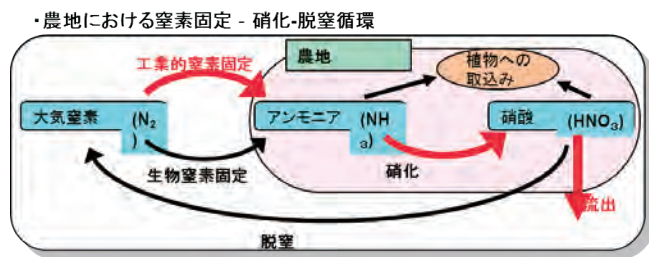


所属部門	環境・生態	
研究分野	応用生物化学, 無機化学	
	舟洞 久人 技術職員 教育研究支援センター funabora@fukui-nct.ac.jp	<b>専門分野</b> 応用生物化学, 無機化学, 生物無機化学 <b>キーワード</b> 生物工学, バイオフィルム, バイオセンサー

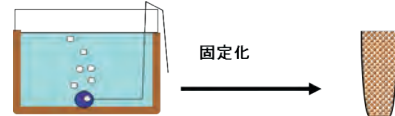
研究テーマ

【平行複式無機化を行う微生物群の固体単体への固定化】

- 目的 : 恒常的な電力を用いる操作を用いることなく, 有機物から無機肥料成分である硝酸態窒素を効率よく生成する方法の提供
- 社会的意義 : 有機質資源の再資源化の大規模化に伴う電力コストの削減  
窒素固定-脱窒循環の適正化による環境負荷の低減



・多孔質担体への微生物固定による  
無機肥料製造速度向上




平行複式無機化を行う バイオフィルム 固定化による反応効率化及び省電力化

主要設備・得意とする技術

凍結乾燥機, 遠心分離機等の設備を管理しています。HPLCやDNAシーケンシング, ボルタメトリー等の化学的分析手法の経験を有しています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

公開講座「発泡スチロールスタンプ製作」, 「ポンポン蒸気船製作」, 「アニメーション製作」等の理科への興味喚起を促す公開講座を実施してきました。また, 「年賀状作成講座」等の地域貢献も行いました。今後も新規テーマ「バナナからDNAを取り出そう」等の理科に関する公開講座や出前授業, その他地域貢献を行っていききたいと思います。


所属部門	環境・生態	
研究分野	応用微生物学, 生物機能・バイオプロセス	<b>専門分野</b> 微生物工学, 環境微生物
	松野 敏英 准教授 博士（農学） 物質工学科 matsuno@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 微生物, 物質生産, 生物機能 <b>所属学協会・研究会</b> 日本生物工学会, 日本農芸化学会

**研究テーマ**

<p><b>【土壌微生物叢の解析】</b> 土壌環境微生物の解析を行う。土壌から微生物由来のDNAを抽出し、土壌微生物叢について解析する。また、土壌微生物叢の経時変化についても解析する。たとえば、農地（水田、畑）や汚染土壌に存在する微生物叢を解析することができる。</p>	<p><b>【微生物を用いた物質生産】</b> 大腸菌や酵母を宿主として有用物質を生産する。大腸菌や酵母に最適な遺伝子を導入することで、目的の有用物質を生産することができる。</p>
--	---

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

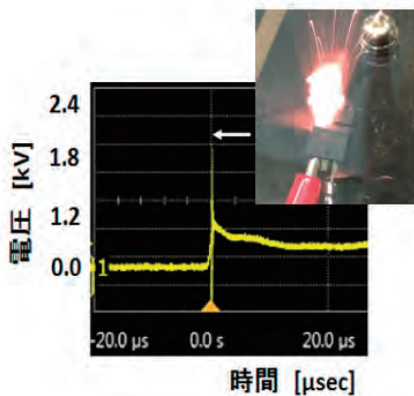
<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物に関わる産官学共同研究や連携事業</li> <li>・微生物に関わる公開講座・出前授業</li> </ul>
---

所属部門	エネルギー	<b>専門分野</b> 半導体工学, 電気機器, 技術史
研究分野	電力工学, 電気機器	
	秋山 肇 教授 博士（工学） 電気電子工学科 電力制御デバイス研究室 akiyama@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> パワーエレクトロニクス, テラヘルツ分光技術, 加速器応用, 博物館学
		<b>所属学協会・研究会</b> 米国電気電子学会（IEEE）, 電気学会, 応用物理学会, 産業技術史学会

研究テーマ

【研究テーマ1】

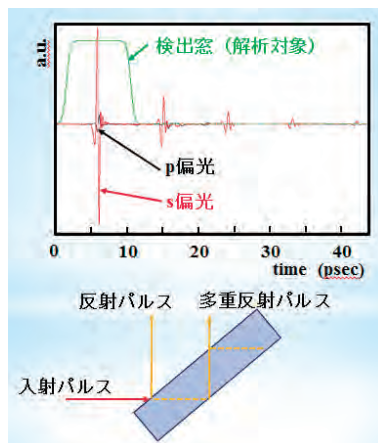
次世代パワーデバイスの材料物性, プロセス技術, デバイス動作解析及び動作限界に関する研究に取り組んでいます。



上図：炭化ケイ素・ショットキーバリアダイオード（SiC-SBD）への高電圧サージ印加による電圧波形と破壊現象の観察例

【研究テーマ2】

高エネルギービーム, テラヘルツ波（THz波）等を用いた各種半導体・セラミック材料の物性解析に取り組んでいます。



上図：ZnO 基板に照射した THz 波の反射パルス波形観察例

【研究テーマ3】

絶縁, 整流, 高電圧大電流通電を支えてきた電気技術の変遷に関する歴史の調査・研究に取り組んでいます。




上図：鹿児島大学博物館所蔵に係る直流電源内蔵の水銀整流器に関する履歴調査から

主要設備・得意とする技術

- ・高電圧サージ試験器（最大印加ピーク電圧：15kV）を用いたデバイス・機器の耐久性試験

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・国立研究機関・大学等の加速器施設と共同で材料改質や分析に関する調査研究を行った実績があります。
- ・地場産業の問題解決や新規分野への進出に関するご相談を承ります。

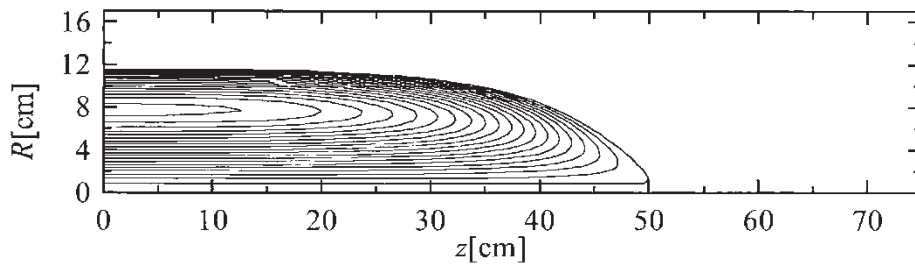
所属部門	エネルギー	
研究分野	数理物理・物性基礎	専門分野
	高久 有一 准教授 博士（理学） 電子情報工学科 takaku@fukui-nct.ac.jp	プラズマ科学，数理物理，計算科学
		キーワード 核融合，プラズマ閉じ込め配位，物理シミュレーション
		所属学協会・研究会 日本物理学会，プラズマ核融合学会，情報処理学会

研究テーマ

【核融合理論物理学 および 計算物理学】

- プラズマの磁場閉じ込めに関する理論的研究

反転磁場配位の数値平衡解

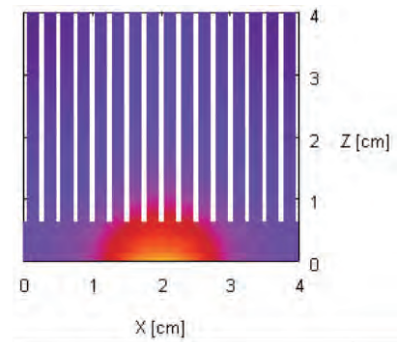


Contour of flux function of highly elongated low aspect ratio tokamak

- 計算物理学


計算機シミュレーションによりもとめた

ヒートシンク内の温度分布



産官学連携や地域貢献の実績と提案

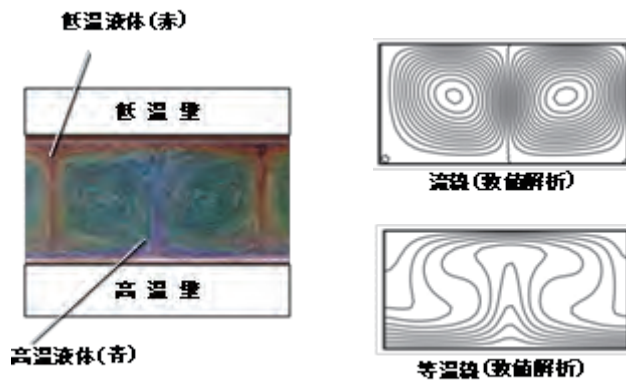
- ・ 人力飛行機，模型飛行機関連の公開講座，講演，指導など
- ・ 並列計算機を用いたプラズマの磁場閉じ込めに関する研究
- ・ ワンチップマイコンを用いた各種制御に関する研究

所属部門	エネルギー	
研究分野	熱工学	<b>専門分野</b> 伝熱工学, 熱・物質移動
	芳賀 正和 教授 博士（工学） 機械工学科 熱・物質移動研究室 hmt1@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 熱伝達促進, 数値解析, 可視化実験
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本機械学会, 日本伝熱学会

研究テーマ

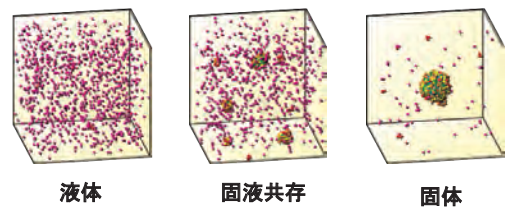
【自然対流の解析】

液体内の温度差により発生する自然対流によって、加熱や冷却等の熱伝達が行われます。このときの液体内の様子を、可視化実験と数値シミュレーションによって解析し、熱伝達の促進や、流れと温度分布の制御に関する研究を行っています。また、液体内に溶解している物質の濃度分布の解析も行なっています。



【相変化の分子シミュレーション】

温度と物質の状態の関係について、分子動力学法による数値シミュレーションを行うことによって解析しています。例えば、融液の結晶化や液体の蒸発などの相変化について、分子の挙動を観察する微視的解析を行っています。




主要設備・得意とする技術

- ・ 数値シミュレーションにより、流体内の対流の様子や温度分布・物質の濃度分布などを解析します。
- ・ 感温液晶を用いてシリコンオイル内の流れの様子と温度分布を可視化する実験装置を有しています。
- ・ 分子動力学シミュレーションにより、熱流体系の分子挙動に関する解析を行っています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

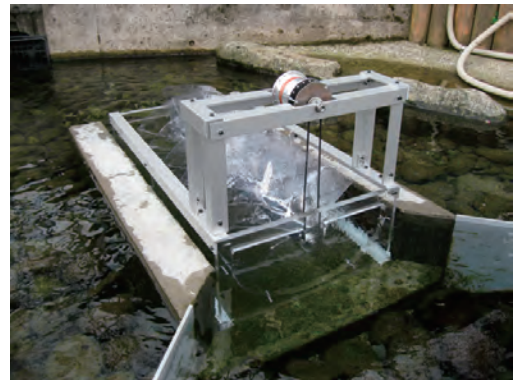
- ・ 加熱・冷却等の熱伝達促進技術
- ・ ビー玉スターリングエンジン等を用いた科学実験の公開講座・出前授業

所属部門	エネルギー	
研究分野	流体工学	<b>専門分野</b> 流体工学, レオロジー
	藤田 克志 教授 博士（工学） 機械工学科 fujita@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 再生可能エネルギー, 小水力, 粘弾性流体, CFD, 流れの可視化
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本機械学会, 日本流体力学会, 日本工学教育協会

**研究テーマ**

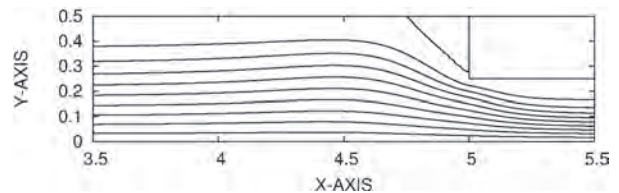
**【小水力発電用水車の設計と設置】**

小水力発電は再生可能な新エネルギーのひとつ。日本は、降雨量が世界の中でも多く、山間の河川も無数にあるため、水力エネルギーの利用は日本の風土に適しています。右の写真はらせん型水車を自作し、公園内の湧水のある池に設置したときの様子です。らせん型水車は、低流量・低落差の環境下でも出力電力を得ることができます。



**【粘弾性流体の流れの数値シミュレーション手法とモデル化】**

高分子溶液・融液、血液などに代表される粘性と弾性の性質を兼ね備えた粘弾性流体の流れは様々な特異流れが発生します。特異流れの発生メカニズムの解明のために数値シミュレーション手法の開発と粘弾性流体のモデル化を行います。



特異流れのひとつとして、急縮小流れで発生するDivergence Flowがあります。この流れはプラスチックの射出成型などで実際に観察することができます。右上の図は、Divergence Flowを数値シミュレートした結果です。

**主要設備・得意とする技術**


**【得意とする技術】**

流れの数値シミュレーション, 流れの可視化, PIV計測など

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

**【出前授業の実績】**

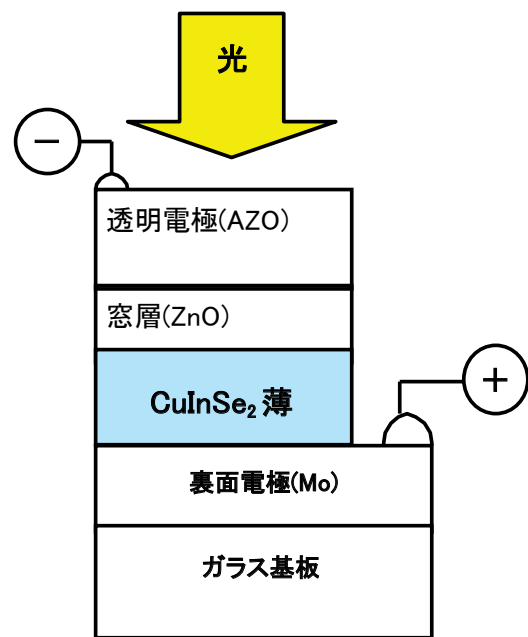
おもちゃづくり教室（バルーンカー, コアングダカー, 簡単ホバークラフト, 紙トンボ, くるくるロケットなど）

所属部門	エネルギー	
研究分野	電子・電気材料工学	<b>専門分野</b> 電子デバイス工学, 材料物性工学
	山本 幸男 教授 博士（工学） 電気電子工学科 電子デバイス研究室 yukio@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 半導体, 薄膜, 太陽電池
		<b>所属学協会・研究会</b> 応用物理学会, 電子情報通信学会

研究テーマ

【化合物半導体薄膜を用いた次世代太陽電池の開発】

- CuInSe<sub>2</sub>やCuGaTe<sub>2</sub>など多元系化合物半導体薄膜をベースとした次世代太陽電池の実現を目指して研究しています。このタイプの太陽電池は比較的高効率で放射線にも強いことから宇宙用の太陽電池としても期待されているのです。
- このタイプの化合物半導体は組成を制御することでそのエネルギーギャップを変化させることが可能であり、太陽電池だけではなく、光センサーなど各種光電変換デバイスへの応用展開が期待されています。




次世代薄膜太陽電池の構造

主要設備・得意とする技術

3種類のターゲットをセットすることのできる高周波スパッタ装置, および真空蒸着装置を有しています。これにより様々な薄膜材料(厚さ0.1μm前後)を作製することが可能です。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

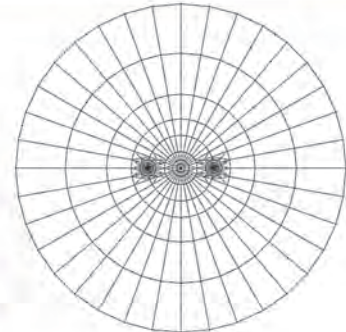
- 【技術相談】 薄膜サンプルの作製及びX線光電子分光分析, 結晶構造解析など
- 【公開講座】 「やってみようソーラーカー手作り教室」(小学生高学年対象)

所属部門	安全・防災	
研究分野	構造工学・地震工学・維持管理工学	<b>専門分野</b> 土木工学, 構造工学
	阿部 孝弘 嘱託教授 博士（工学） 環境都市工学科 構造工学研究室 abe@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 亀裂, エネルギー解放率, コンクリート, 有限要素法, E積分, エンジニアリング・デザイン
		<b>所属学協会・研究会</b> 土木学会, 日本機械学会, 日本材料学会, 日本工学教育協会

**研究テーマ**

**【エネルギー解放率破壊規準による亀裂進展挙動】**

材料中にある亀裂が荷重条件や拘束条件によって進展するかしないかをエネルギー解放率による破壊規準によって考察しています。構造物に亀裂があるからといって、その亀裂がすぐに破壊につながるかどうか。どのようにその亀裂の進展を防げばよいか。破壊力学的考察が必要です。破壊力学パラメータとして、非線形材料にも適用可能なエネルギー解放率を破壊規準としています。エネルギー解放率はE積分という経路独立な積分を用いて有限要素法で算出します。



**【エンジニアリング・デザイン教育】**

現在の技術者に求められている能力にエンジニアリング・デザイン能力があります。エンジニアリング・デザイン能力の定義には種々ありますが、簡単に言えば、正解がない問題に対しても実現可能な解を見つけ出す能力であると言えます。このような能力がどのような教育から身に付けることができるかを検討しています。


**主要設備・得意とする技術**

環境都市工学科構造材料実験室に設置された 2000kN 連立試験機（東京試験機）及び 50kN 万能試験機（インストロン）による静的載荷試験が可能です。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

コンクリート構造の耐久性、長寿命化に関する検討  
 力学的知識に基づく公開講座や出前授業（パスタタワー、煉瓦アーチ）



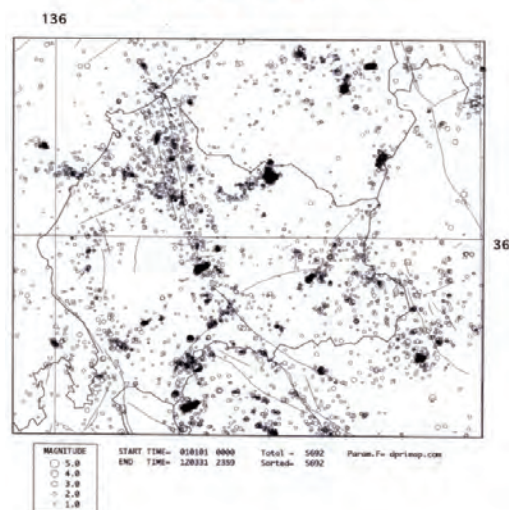
所属部門	安全・防災	<b>専門分野</b> 地震学, 縮災  <b>キーワード</b> 福井県及び周辺の地震活動, 地震に関連する諸現象, 強震動, 防災教育  <b>所属学協会・研究会</b> 日本地震学会, 福井地震防災研究会, 福井県防災士会理事 (防災士), 福井市・坂井市・美浜町防災士の会顧問
研究分野	固体地球惑星物理学	
 岡本 拓夫 教授 博士 (工学) 一般科目教室 (自然科学系) 地球物理学研究会 okamoto@fukui-nct.ac.jp		

研究テーマ

【福井県及び周辺の地震活動解析】

(京都大学との共同)

Epicenter for Reihoku Area 2001.01 - 2012.03  
( $M \geq 1.0$ ,  $H \leq 30\text{km}$ )



【地震発生に伴う諸現象の解析】

西山観測点 (水質, 地震)

福井平野地震観測網 (藤高SSH)

【SSH 関連, 防災教育】

藤島高校 SSH

武生高校 SSH

福井県実践的安全教育  
学校防災アドバイザー

主要設備・得意とする技術

地震観測

産官学連携や地域貢献の実績と提案

編書 (平成 30 年度)

・「私たちはなぜ科学するのか」(東京書籍)

講演等 (令2年度)

- ・FBC ラジオ出演、「そのとき、命を守るために」、2020、06/27.
- ・授業、「活断層と地震」—鯖江で考えられる事—、鯖江公民館、鯖江市、2020、09/08.
- ・講演、福井平野西縁断層、福井県防災士会、理事会、2020、09/25.
- ・講演、美浜町防災士会設立総会、美浜町、2020、09/29.
- ・講義、「福井平野西縁断層」、坂井中学校、防災訓練、2020、11/06.
- ・講演、「福井平野西縁断層」、河合公民館、09/04 (M5.0) 被害調査、2020、11/17.
- ・講義、「福井県の地震活動と災害」、福井県消防学校、中等幹部科、2020、12/03.
- ・講演、「地震について」、健康カフェさばえ、Zoom、アイアイ鯖江健康づくり課、2020、12/08.
- ・講義、「地震の仕組みと被害」、「火山噴火の仕組みと被害」、鯖江市防災リーダー養成講座、アイアイ鯖江、2020、12/20.
- ・講義、「福井平野西縁断層」、藤島高校サイエンスセミナー、福井地方気象台、2020、12/21.
- ・レクチャー、「福井平野西縁の地震と緊急地震速報」、福井県学校安全総合事業支援、県職員会館、2021、02/12.
- ・講演、「福井平野西縁断層と鯖江断層」、BNS 研修、エコプラザさばえ、2021、02/19.
- ・講演、「鯖江断層と福井平野西縁部」、鯖江市防災リーダー交流会、アイアイ鯖江、2021、03/14.
- ・授業、「地震の発生の仕組みと福井平野」、あわら中 (1年生)、2021、03/15.
- ・講演、「地震—福井平野西縁の地震と嶺南の地震—」、健康カフェ・高浜、2021、03/16.
- ・講演、「家族で学ぼう福井の地震」、ユニオンプラザ、2021、03/20.

所属部門	安全・防災	
研究分野	構造工学・地震工学・維持管理工学	<b>専門分野</b> 地震工学・防災学
	芹川 由布子 助教 博士（工学） 環境都市工学科 地震防災研究室 serikawa@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 地震，液状化，健康障害，地域防災，ライフライン <b>所属学協会・研究会</b> 土木学会，日本自然災害学会，地域安全学会， International Consortium on Geo-disaster Reduction

**研究テーマ**

**【地震による液状化現象と対策工法】**

液状化発生地域での現地調査や、液状化による被害を軽減するための対策工法に関する研究を行っています。図1に示す模型振動実験では、住宅模型の周りに丸太を打設することで、液状化による地盤の沈下や住宅の傾斜が軽減されました。

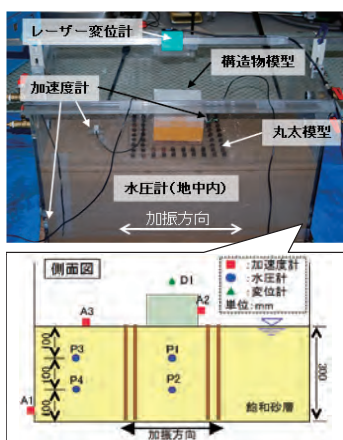


図1 対策工法の実験概要

**【地域防災力向上に関する調査】**

地盤の液状化により家屋が大きく傾斜した場合（写真1），住人に健康障害が生じ，住み続けることができなくなります。

今後起こりうる様々な災害から人々の暮らしを守るための社会基盤づくりを，福井県を対象として行います。地域防災力の向上を目的とし，現地調査・アンケート調査・避難シミュレーション等を地域住民のみなさんの意見を取り入れながら進めていきます。



写真1 傾斜した家屋(液状化)

**【ライフライン被害が医療機能に及ぼす影響】**

地震・台風等によりライフライン被害が生じた地域を対象にアンケート調査を行い，停電および断水が医療機能に及ぼした影響レベルを評価します。自家発電機等の有無や容量と被害の関係を分析し，医療機能の復旧とライフライン代替設備の関係を明らかにします。

2016年熊本地震・2018年北海道胆振東部地震・令和元年度台風15号等の過去の災害による被害を分析し，ライフライン機能被害時に医療機能を維持するための有効な対策を提案します。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**


**【産官学共同研究】**

- ・平面道路液状化対策工におけるFLIP解析

**【地域社会で行った活動等】**

- ・防災土育成講座での講師（ライフライン・交通インフラの確保）
- ・地方自治体および自主防災組織による防災訓練での講習会
- ・小中学生を対象とした工作教室『家庭で学べるぼうサイエンス～手作り実験で再現する地震被害～』

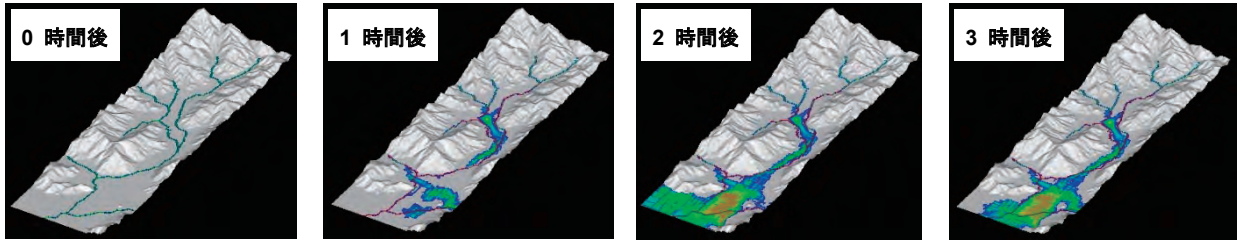
『パスタで橋を作ろう！』

所属部門	安全・防災	
研究分野	水工学, 海岸工学	<b>専門分野</b> 土木工学, 水工学, 海岸工学
	田安 正茂 准教授 博士（工学） 環境都市工学科 水工学研究室 tayasu@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 豪雨水害, 洪水氾濫, 波浪変形, 漂砂, 海岸地形変化
		<b>所属学協会・研究会</b> 土木学会, 日本流体力学会, 応用生態工学会

**研究テーマ**

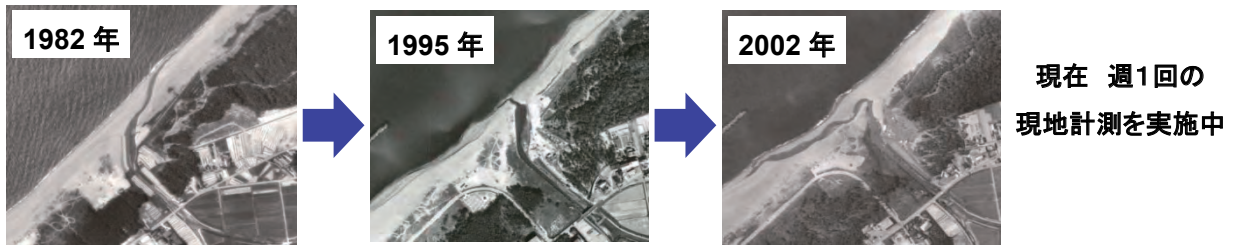
**【河川の氾濫解析や海岸の波浪変形計算など、流れや波の解析】**

- 豪雨時の堤防からの溢水や堤防決壊による河川水の氾濫流をシミュレーションし、避難場所、避難経路の安全性を検討しています。



- 砂浜海岸を横断する河川の流路を定期的に計測し、波と流れによる砂移動のメカニズムを把握します。

**航空写真で比較すると**




**主要設備・得意とする技術**

水理実験室に設置された開水路 (D0. 6m×H0. 4m×L9m), 管水路 (φ80, φ50ともにL4m) を管理しています。開水路は最大流量2. 4m<sup>3</sup>/min, 可変勾配で最大1/40まで可能であり, 魚道ブロックの模型実験や小水力発電水車の実験などを行うことができます。また, 造波実験室に設置された断面2次元造波水路 (D0. 6m×H0. 8m×L24m) では, 規則波, 不規則波, 孤立波を発生 (最大波高約20cm) させることが可能であり, 沿岸域の波浪場や津波場の模型実験などを行うことができます。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

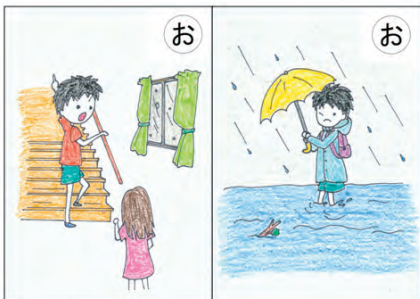
- ・ 洪水時の水位計測装置を有した護岸ブロックの技術開発
- ・ 砂浜海岸における砂の移動と地形変化の分析

所属部門	安全・防災	<b>専門分野</b> 防災学, 地盤工学, 空間情報学 <b>キーワード</b> 防災・減災, 地域防災, 地盤防災, 防災ツール <b>所属学協会・研究会</b> 土木学会, 地盤工学会, 日本写真測量学会, 日本リモートセンシング学会, 日本自然災害学会, 環境情報科学センター, 日本雪工学会, 日本防災士会, 福井県防災士会
研究分野	自然災害科学・防災学	
 辻子 裕二 教授 博士（工学） 環境都市工学科 地盤防災研究室 harima@fukui-nct.ac.jp		

研究テーマ

【レジリエント社会づくり】

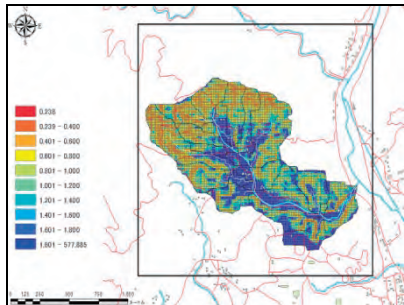
防災に対するソフト対応を推進することで、社会全体のレジリエンスの向上を図ることを検討しています。このため、時間経過に伴う防災・減災意識の低下を防ぐために、平時から親しみを持って防災マインドを維持するに資するアイテム（教材）の開発を進めています。



防災かるたの一例

【土砂災害リスク評価】

土砂災害は、住民の生命に直接的に影響を及ぼす危険な災害です。このリスクを、地域という範囲ではなく、わが家（My Hazard）の観点で検討し、正しい「行動」を促すシステムづくりを進めています。



GISによる災害リスク管理

【避難行動判断システム】

マルチハザード発生時に、適切な避難行動を行うための、避難判断支援システムの開発を進めております。AI（人工知能）を用いて、ビッグデータの中から最適な判断を行うシステムを検討中です。

	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
川から離れる											
海から離れる											
車を使って避難する											
車等を使わずに徒歩で避難する											
指示を待たずに個人で下りて避難する											
添付の指示や誘導の付いた避難用指示書や避難者の付き添いをして避難する											
家族を連れに行く											
てが人等の救助、手当てを行う											
避難誘導をする											
周囲の人の救助、誘導を求め											
	0.28	0.28	0.31	0.25	0.16	0	0.27	0.06	0.01	0.05	0.05
	0.02	0.02	0.02	0.26	0.38	0	0.19	0.11	0.07	0.18	0.17
	0.03	0.04	0.15	0.23	0.24	0.23	0.15	0.34	0.32	0.1	0.23
	0.17	0.16	0.13	0.24	0.23	0.09	0.15	0.06	0.13	0.16	0.15
	0.12	0.13	0.2	0.24	0.16	0.2	0.12	0.12	0.17	0.12	0.22


避難判断の出力例

主要設備・得意とする技術

- ・ 防災の地域力向上に資する防災アイテム（防災紙芝居, 防災かるた他）（開発済み）
- ・ 防災訓練や防災マニュアルづくりに対するアドバイス
- ・ 熱画像解析（パッシブリモートセンシング）
- ・ 人工衛星画像を用いた崩壊形状の3次元的計測

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・ 各種委員（国交省総合評価委員, 市町防災関連会議委員等）
- ・ 地域団体への協力（福井県防災士会, 自主防災組織）
- ・ 各種防災支援（福井県防災アドバイザー派遣事業, 各種防災講演）

所属部門	安全・防災	専門分野
研究分野	空間情報工学	リモートセンシング, 地理情報システム
	辻野 和彦 教授 博士 (工学) 環境都市工学科 空間情報工学研究室 tsujino@fukui-nct.ac.jp	キーワード
		所属学協会・研究会

リモートセンシング, 地理情報システム

キーワード

土砂災害 (斜面崩壊, 土石流), 画像計測, UAV (無人航空機 (ドローン)), VR (バーチャルリアリティ)

所属学協会・研究会

土木学会, 日本自然災害学会, 日本写真測量学会, 地理情報システム学会, 環境情報科学センター, 日本防災士会 (福井県防災士会)

研究テーマ

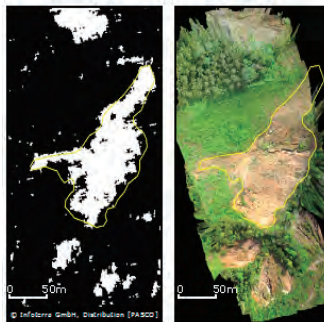
【UAVを用いた現地調査支援】

現地調査を支援することを目的としてUAV (Unmanned Aerial Vehicle: 無人航空機)を用いた空撮を行っています。斜面崩壊形状の把握, 掘削工事の土工量の把握, 河床形状の把握に関する研究に取り組んでいます。下図は, 掘削工事後のDSM (数値表面モデル) の一例です。



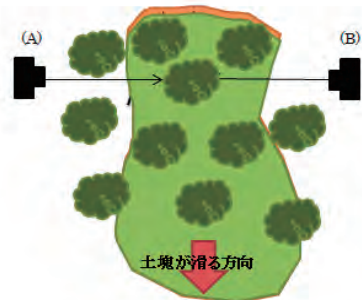
【高分解能SAR画像を用いた斜面崩壊の検出】

高分解能のSAR (合成開口レーダ) 画像を用いて地震により発生した斜面崩壊を検出する方法を研究しています。下図は, インドネシア (スマトラ島) で発生した斜面崩壊を検出した事例です。



【ビデオカメラを用いた地すべり/斜面崩壊の検知に関する研究】

Web カメラから取得した動画をリアルタイムで処理することにより, ターゲットの移動を検知することで, 近隣住民に地すべりや斜面崩壊の警報を出すシステムを構築しています。




主要設備・得意とする技術

- ・ UAV (情報科学テクノシステム社製 GrassHopper : 1 台, DJI 社製 Phantom 3 : 3 台所有) : 上空から空撮を行うドローンを所有しています。主に土砂災害現場や掘削工事現場において空撮を行うことができます。また, 橋梁点検用の上向き撮影用カメラジンバルや植生を監視するための近赤外線カメラも所有しています。
- ・ 3D VR システム (FORUM 8 社製 UC-win/Road) : 環境都市工学科棟 3 階のデザインスタジオにおいて 3D VR システムを管理しています。仮想空間に都市を構築し構造物や建築物の施工前後の比較を行うことができます。また, 歩行者や運転者の視点で動画を作製することもできます。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・ Webカメラを用いた土砂災害検知システムの開発
- ・ 河川掘削工事における土工量の推定
- ・ UAVによる空撮画像を用いた3Dモデルの構築
- ・ 獣害対策支援のための地理情報システム (GIS) の構築
- ・ 高分解能衛星画像を用いた樹種分類 (農地分類)

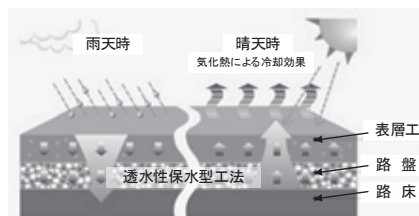
所属部門	安全・防災	
研究分野	土木工学, 建築学	<b>専門分野</b> 建築環境工学, 風工学, 建築設備
	野々村 善民 教授 博士（工学） 環境都市工学科 建築環境研究室 nonomura@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 風環境, 新エネルギー, 都市洪水
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本建築学会

### 研究テーマ

#### 【水貯留地盤の研究開発】

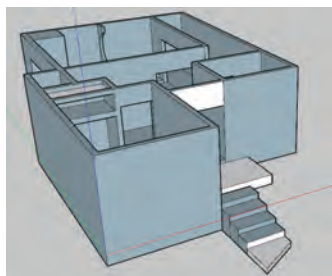
都市洪水が発生した際の避難時間を確保することを目的として、透水性と保水性を両立した地盤を用いて、水貯留地盤を開発します。

水貯留地盤の効果を明らかにするために、流体数値シミュレーションを用いて、地表面の水の流れを予測します。



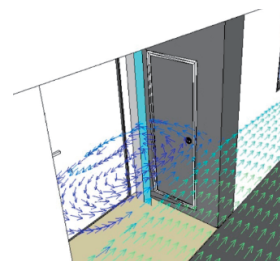
#### 【画像測量による建築物の3Dモデル作成技術の開発】

本技術開発の目的は、既存の空家の現状調査に要する作業の省力化です。使用する機器は汎用のスマートフォンです。複数の画像データで得られた点群データと3D-CADを用いて、作業時間は3時間以下を目標とします。



#### 【環境性能に配慮した建築計画に関する研究開発】

日本国内では、夏期の亜熱帯化により、飛翔昆虫による感染症の危険が高まっています。そこで、本研究開発では、建築物の形状により、外壁表面近傍の風の流れを制御し、室内空間において屋外からの危険性を抑えることを目的としています。




### 主要設備・得意とする技術

- ・熱流体数値シミュレーション Stream による流体解析
- ・河川氾濫シミュレーション iRIC による都市洪水の予測
- ・PickUp プログラムによる気象データの収集と各種統計解析
- ・CASBEE による建築物の環境性能評価

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・水貯留地盤の開発
- ・公共施設における都市洪水対策の計画立案
- ・大規模公共建築物の風環境調査
- ・各種建築物の技術コンサルタントの実施

所属部門	安全・防災	
研究分野	建築構造・材料	<b>専門分野</b> 建築構造学
	樋口 直也 助教 博士（工学） 環境都市工学科 higuchi@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> アーチ, シェル・空間構造, 座屈, 有限要素法解析
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本建築学会, 土木学会, 日本建築構造技術者協会

### 研究テーマ

#### 【シェル・空間構造の性状分析に関する研究】

工場や体育館、ドームなどの大規模建築物の屋根に用いられるアーチやラチスシェルなどに対して構造解析を行い、得られた結果を分析しています。



図1 アーチ

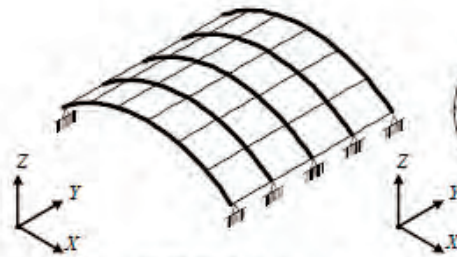


図2 円筒ラチスシェル

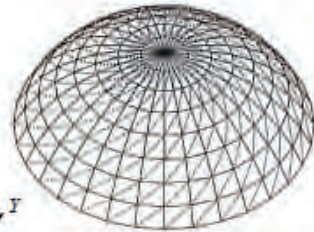



図3 ラチスドーム

### 主要設備・得意とする技術

- ・ 構造物の数値解析
- ・ パラメトリック解析による構造物の最適形状の探索

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・ 小さな大工さん講座「デザイナーになろう！」

所属部門	安全・防災, 素材・加工	<p><b>専門分野</b> コンクリート工学, 維持管理工学</p> <p><b>キーワード</b> コンクリート, 材料物性, 複合構造, メンテナンス</p> <p><b>所属学協会・研究会</b> 土木学会, 日本コンクリート工学会</p>
研究分野	土木材料, 維持管理工学	
	<p>蓑輪 圭祐 助教 修士（工学） 環境都市工学科 コンクリート研究室 minowa@fukui-nct.ac.jp</p>	

**研究テーマ**

**【コンクリートの乾燥収縮予測】**

コンクリートでは、コンクリート中の水分が大気に逸散することで体積が変化する乾燥収縮現象によって、ひび割れが発生することがあります。収縮量の程度は、コンクリートの品質や暴露される環境など様々な因子が影響します。予期せぬひび割れを防いで構造物の安全性を保つために、乾燥収縮の予測手法に関する研究を行っています。



コンクリートの屋外暴露実験

**【コンクリートのひび割れ】**

コンクリートにひび割れが生じる原因は、荷重による曲げひび割れ、初期材齢時の温度ひびわれ、乾燥収縮によるもの、ASR などの化学反応によるものなど多岐にわたります。ひび割れが発生するとコンクリートの物質透過抵抗性が低くなることで内部鉄筋の腐食進行が早まり、耐久性が低下するなどの問題が生じます。コンクリート構造物の安全性を保つため、ひび割れの発生原因とその対策方法について研究しています。




ASR による膨張ひび割れ

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・コンクリート構造物の長寿命化に関する検討
- ・社会基盤メンテナンスに関する人材育成
- ・小中学生を対象とした公開講座および出前授業（力学・コンクリート材料）

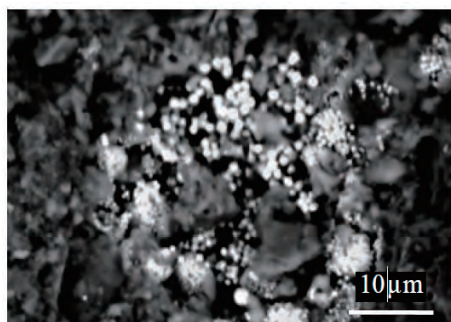


所属部門	安全・防災	
研究分野	環境材料・リサイクル	<b>専門分野</b> 土木工学, 地盤環境工学, 建設材料学
	山田 幹雄 嘱託教授 工学博士 環境都市工学科 交通工学研究室 yamasan@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 廃棄物・副産物利用, 浅層地盤改良, 土構造物
		<b>所属学協会・研究会</b> 土木学会, 地盤工学会, 日本材料学会, 資源・素材学会, 日本鉄道施設協会

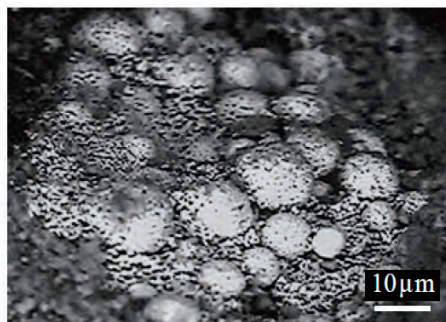
### 研究テーマ

#### 【鉄スラッジ混入安定材を添加した黄鉄鉱含有土の強度, 支持力特性に関する研究】

黄鉄鉱（パイライト）を含む土は地中に在るときには中性ですが、掘削工事などによって空気に曝されると短期間で極強酸性に移行するのが通例です。これを、顕在的酸性硫酸塩土と称します。一般に、軟らかい土を固めるには石灰やセメントのような強アルカリ性の安定材を使用します。しかし、元来が極強酸性の土を対象とするときには多量の安定材を必要とします。そこで、炭酸カルシウムを混ぜて中和を促しています。この研究では、炭酸カルシウムのほかにレアアース由来鉄スラッジを石灰、セメントとともに顕在的酸性硫酸塩土に添加した場合の一軸圧縮強さ、強度定数やCBRの経時変化を調べています。併せて、長期にわたり中性を維持している黄鉄鉱含有土の理化学的性質を、CNS元素分析を行って明らかにしようとしています。



試料の黄鉄鉱の観察像




鉄スラッジ

### 主要設備・得意とする技術

高容量圧縮試験装置, 電動コーン貫入試験装置や一面せん断試験機を用いて試料土単体, あるいは, 安定処理土のCBR, 一軸圧縮強さ, コーン指数や強度定数を求めることができます。また, 安定処理土の強度発現過程および耐水性（体積膨張, 崩壊）を調べる用途に, 中容量インキュベータおよび恒温水循環装置を設置しています。

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

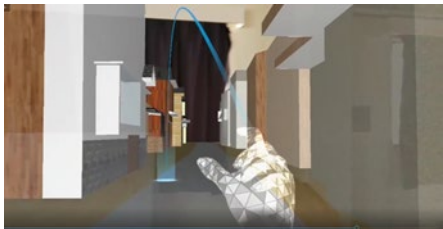
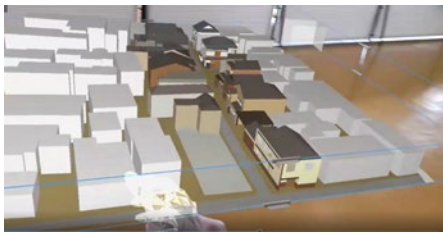
- ・鉄スラッジを混入した安定材の極強酸性土への適用性の確認
- ・浄水場発生土（浄水汚泥）の早期含水減量策の提案
- ・ジオテキスタイルとの併用による浚渫泥土の活用策
- ・牡蠣殻の道路路床構築材料としての利用に関する技術開発

所属部門	安全・防災	
研究分野	都市計画・建築計画、教育工学	<b>専門分野</b> 都市計画、建築計画
	大和 裕也 助教 博士（工学） 環境都市工学科 yamato@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> MR (Mixed Reality)、まちづくり、防災教育
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本建築学会、日本都市計画学会

**研究テーマ**

**【MRを用いた住民参加型計画支援システムの開発】**

MRを用いた住民参加型の計画支援システムの有効性を明らかにするため、街並みを3Dモデルで作成し、住民と自治体で協議を行い、計画支援システムの効果を検証しています。下図は、ホロレンズというMRで表現する機械でみた仮想上のまちなみです。



**【MRを用いた防災訓練シミュレータの有効性の検討】**

MRの防災教育への有効性を明らかにするため、MRを用いた防災訓練シミュレータの開発を目的として、防災訓練における、グループ学習の効果やジェスチャー操作による消火訓練の効果を検討しています。




**主要設備・得意とする技術**

- ・ MR を活用した住民参加
- ・ 仮想空間でしか行うことのできない実験や体験型の訓練

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・ 各種委員（市町村都市計画審議会など）
- ・ 市町村や住民と連携した防災教育，住民参加

所属部門	安全・防災	専門分野
研究分野	地震工学, 防災学	土木工学, 地震工学, 防災学
	吉田 雅穂 教授	キーワード
	博士（工学） 環境都市工学科 地震防災研究室 masaho@fukui-nct.ac.jp	地震, 防災・減災, ライフライン, 木材, 文化遺産
		所属学協会・研究会
		土木学会, 地盤工学会, 日本建築学会, 日本自然災害学会, 日本地震工学会, 日本工学教育協会, 福井地震防災研究会, 福井県木材利用研究会, NPO 福井地域地盤防災研究所, 関西ライフライン研究会

研究テーマ

【木材を用いた地盤補強技術】

木材の用途拡大のため、丸太を地盤に打設して地盤補強する技術を開発し、戸建住宅の液状化対策や道路盛土の軟弱地盤対策に活用しています。下図は福井県小浜市で行った現場施工実験の様子です。



【ジオシンセティックスと砕石を利用した液状化対策】

ジオシンセティックスを砕石で挟み込んだ層を道路盛土の直下に敷設し、盛土の液状化時変形を抑制する工法を開発しています。

【ウェブ版地震防災支援システム】

地震防災教育に活用するため、1948年福井地震等の災害資料をデジタルアーカイブ化してインターネット上で公開しています。また、アンケート震度を調査するサイトを利用して、地震時の地域の詳細震度分布を推定しています。

【文化遺産の防災対策】

文化遺産を自然災害から守り後世に継承することは大変重要です。そこで、福井県が所有する文化財建造物と立地地盤の耐災性を調査し、今後の防災対策を提案しています。下図は調査対象の1つである越前市の旧谷口家住宅です。



主要設備・得意とする技術

○水平2軸地震波振動台（株式会社サンエス, SPT2D-20K-85L-80T）


2m四方のテーブル上に構造物模型や工業製品を設置し、地震波、規則波、衝撃波を水平1方向または2方向同時に入力して、その応答を計測できます。5,000kgまでの積載が可能であり、無負荷の状態では加速度2G、速度120cm/s、変位±20cmの地震波で加振する能力を有しています。

○携帯用振動計（株式会社東京測振, SPC-52, VSE-15D5）

コンピュータ搭載の可搬型振動計であり、地盤や構造物の常時微動観測、余震観測、環境振動観測などが行えます。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・木材を用いた液状化対策と軟弱地盤対策の技術開発
- ・構造物や工業製品の振動特性の分析
- ・地域の地震防災計画の立案
- ・地震防災に関する講習会

所属部門	情報・通信	
研究分野	計算機システム	<b>専門分野</b> 組み込みシステム, 計算機工学
	青山 義弘 教授 博士（工学） 電子情報工学科 電子情報機器実験室 yfa@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 組み込みシステム, FPGA 開発, HDL 設計
		<b>所属学協会・研究会</b> 情報処理学会

### 研究テーマ

#### 【HDLによるシステム設計】

HDL (Hardware Description Language) は論理回路やシステムの振る舞いを記述するための言語です。C やJava言語がプログラムの振る舞いを記述するのと同じような感覚で設計出来ます。LSIに含まれる回路の規模が膨大になった現在, 回路図でデジタル回路を設計するようではとても間に合わないので, HDLで設計し, コンピュータに自動設計をさせて合理化しています。

adder.v

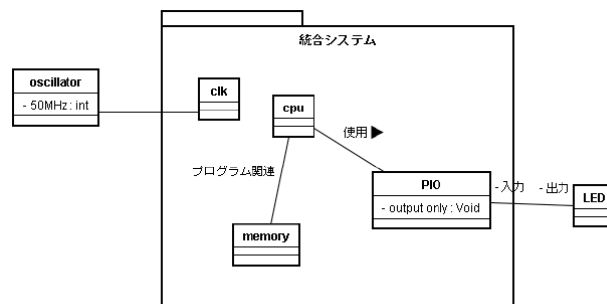
```

/* 加算演算子による4ビット加算回路 */
module adder( a, b, q );
input  [3:0]  a, b;
output [3:0]  q;

    assign q = a + b;
endmodule
    
```

#### 【FPGAによるシステム開発】

組み込みシステム (Embedded system) とは, 特定の機能を実現するために家電製品や機械等に組み込まれるコンピュータシステムのことです。身の回りの家電品を含め様々なシステムにマイコンや LSI が搭載され動作しています。FPGA (Field-programmable gate array) とは, この LSI を工場に発注することなく自前で構成できる IC で, CPU や周辺回路を含んだ独自のマイコンも作ることができます。




### 主要設備・得意とする技術

- ・ Arduino などのマイコンボードによる設計
- ・ VerilogHDL などの HDL による回路設計
- ・ FPGA によるシステム開発

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

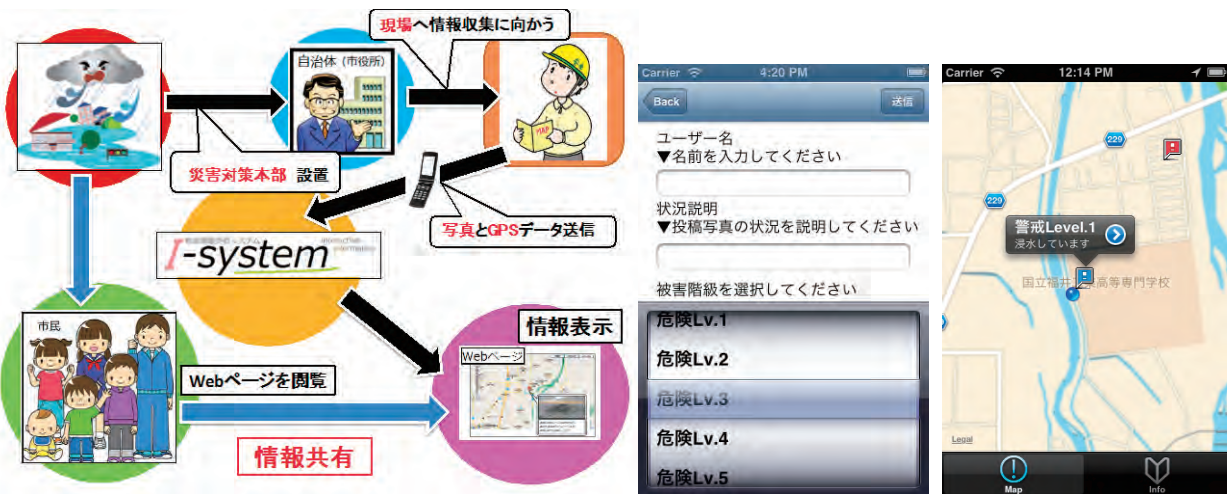
- ・ HDL, FPGAによるLSI開発環境整備 : VHDL, VerilogHDL, systemCなどの言語によるシステム開発のための環境整備, 並びにFPGA実装のための回路設計

所属部門	情報・通信	
研究分野	通信・ネットワーク工学	<b>専門分野</b> 電磁波工学, 情報通信工学
	大久保 茂 嘱託教授 工学博士 電気電子工学科 情報通信研究室 okubo@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> アンテナ, ネットワーク, Web アプリケーション <b>所属学協会・研究会</b> 映像情報メディア学会, 北陸信越工学教育協会

研究テーマ

**【携帯電話を用いて災害情報を提供するWebアプリケーションシステムの開発】**

携帯電話のGPS機能を用いた災害・緊急時における被害情報を自治体が収集し、その情報を住民が閲覧できるWebアプリケーションシステムの開発と高機能化を図っています。  
 上記のWebアプリケーションシステムをスマートフォンでも利用可能にするため、スマートフォン対応のアプリケーションの開発を行っています。



Webアプリケーションの流れ図

被害情報投稿時の画面

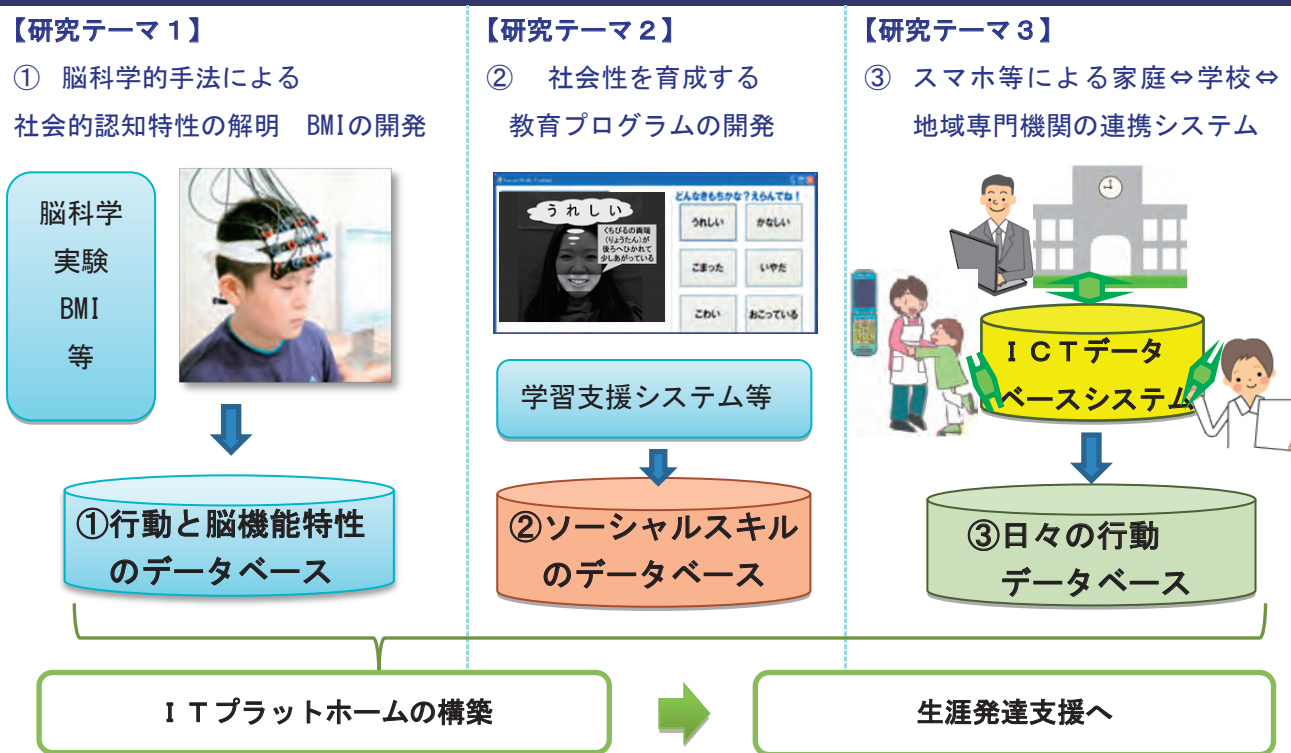
住民閲覧時の画面

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・携帯電話のGPS機能を利用した消防団支援システム

所属部門	情報・通信	専門分野
研究分野	人間情報学	認知科学, 福祉工学, 教育工学
	小越 咲子 准教授 博士（工学） 電子情報工学科 ogoshi@fukui-nct.ac.jp	キーワード
		ICT, BMI (Brain Machine Interface), ソーシャルスキル トレーニング 所属学協会・研究会 電子情報通信学会, 日本設備管理学会, 日本設備管理学会 就労支援技術研究会, IEEE, 日本心理学会, 日本特殊教育学会, 日本LD学会, 日本小児精神神経学会

研究テーマ




主要設備・得意とする技術

脳波計など  
 認知科学, 教育工学, 福祉工学, ICTシステムなど

産官学連携や地域貢献の実績と提案

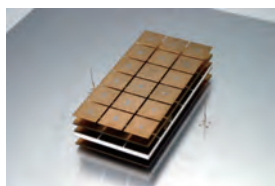
学校と家庭と専門家をつなぐ子供見守りシステムの開発  
 障害者の就労支援システムの開発  
 たんぽぽ教室（小中学生のソーシャルスキルトレーニングの教室）、脳トレキッズ（小中学生のモノづくりや課外体験を行う教室）など  
 ひらめきときめきサイエンス, サイエンスパートナーシップなど

所属部門	情報・通信	
研究分野	通信・ネットワーク工学	<b>専門分野</b> アンテナ工学, 通信工学
	川上 由紀 講師 博士 (工学) 電子情報工学科 kawakami@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> アンテナ, メタマテリアル, RFID, テラヘルツ分光
		<b>所属学協会・研究会</b> 電子情報通信学会

**研究テーマ**

**【メタマテリアルを用いたアンテナの高性能設計】**

メタマテリアルとは、自然界に存在する媒質が通常持たない性質を示す人工媒質である。近年、様々なメタマテリアルが実現されており、メタマテリアルのアンテナへの適用が期待されている。アンテナの素子間相互結合の低減、不要放射の抑制、放射パターン制御など、メタマテリアルを用いてアンテナ・伝搬分野における諸問題を解決する。



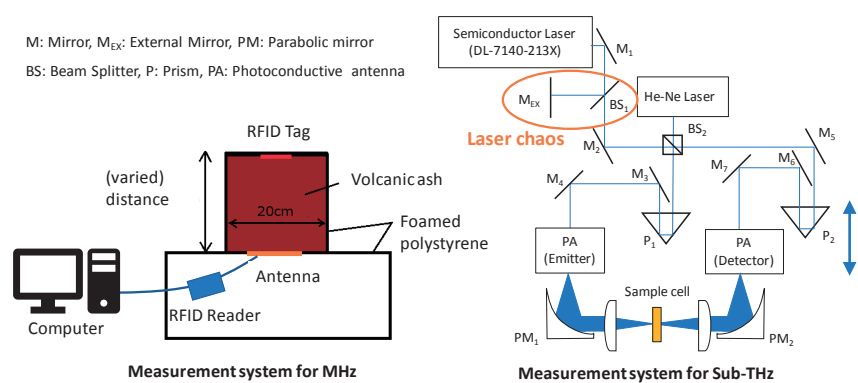
Mushroom type EBG between Monopole Antennas

**【次世代RFID探索システムの実現を目指した**

**MHz帯からTHz帯における電磁波の伝送特性の解明】**

雪崩・土砂崩れ・噴火など自然災害の多いわが国において、災害救助の迅速化は喫緊の課題である。登山者などに RFID タグを身につけてもらうことで、災害時に雪・土砂・火山灰中を探索する方法が考えられるが、各遮蔽物による伝送特性の変化は未解明である。本研究では雪・土砂・火山灰等の各遮蔽物内における電磁波の伝送特性を MHz 帯から THz 帯まで広く調べ明確にすることで、通信に使う最適波長を明らかにすることを目的としている。MHz 帯では市販の RFID モジュールを、Sub-THz 帯ではレーザーカオスを用いたテラヘルツ分光システムを使用している。

M: Mirror, M<sub>EX</sub>: External Mirror, PM: Parabolic mirror  
BS: Beam Splitter, P: Prism, PA: Photoconductive antenna




**主要設備・得意とする技術**

- ・ネットワークアナライザ (8753ES)  
周波数 : 30kHz~6GHz

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・Scratchでプログラミング (小中学生向け公開講座)
- ・RFIDを用いた遭難者探索システムの技術開発
- ・電子情報通信学会北陸支部運営委員

所属部門	情報・通信／計測・制御	
研究分野	認知科学, 知能情報学	<b>専門分野</b> 認知科学, 心理物理
	小松 貴大 助教 博士 (工学) 電子情報工学科 komatsu@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 知覚, 視覚運動, 運動学習
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本神経科学学会, 日本神経回路学会

**研究テーマ**

**【知覚と運動の乖離に関する研究】**

ヒトは錯視図形を見たときに左の中心円が大きく感じます(知覚)。しかし、実際に掴みにいく運動をしても両方の運動に差が見られません。つまり、運動は知覚結果に影響されないということです。このように運動が知覚の影響を受けないことが起こるメカニズムについて仮説をたてて検証しています。

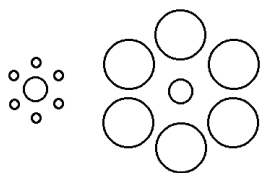


図1 錯視図形

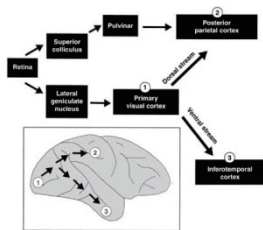


図2 脳内処理

**【視線計測装置開発】**

現在市販されている視線計測装置は非常に高価です。そこで非常に安価で高精度に計測できる視線計測装置の開発と、より高速に画像処理して視線を導き出すためのアルゴリズムについて研究しています。マウス等にとってかわる新しいインターフェースや福祉分野への寄与を目指しています。

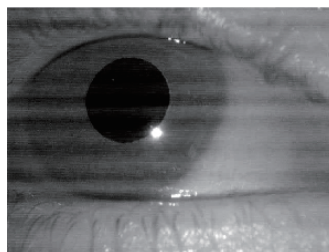


図3 画像処理後の瞳孔

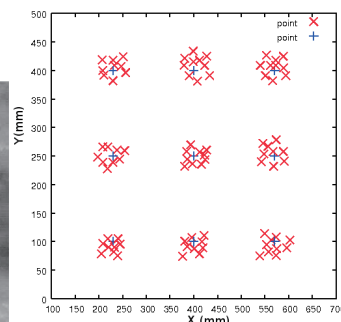


図3 計測結果


**主要設備・得意とする技術**

・ヒトの運動・知覚に関する計測を行い、データを解析することによってヒトの脳内処理メカニズムを解明することに応用しています。計測は主に共同研究先である福井大学・人間学習システム研究室にて行っています。そこで、3次元運動計測装置(分解能0.01mm以下, 誤差0.1mm以下), 視線計測装置(注視点誤差0.5度以下), 筋電計測装置(14ch, 周波数特性0.1~200[Hz])などを利用して研究を行っています。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・中学生を対象としたマイコン・電子デバイス制御に関する講座
- ・商工会議所と連携した中小企業向けの「社員・車両スケジュール管理システム」の開発



所属部門	情報・通信	
研究分野	計算機システム・ネットワーク	<b>専門分野</b> カメラ情報を利用したロボット制御, インターネット応用技術
	齊藤 徹 教授 博士（工学） 電子情報工学科 インターネット応用研究室 t-saitoh@ei.fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> インターネット, 緊急連絡システム
		<b>所属学協会・研究会</b> 電子情報通信学会, 情報処理学会

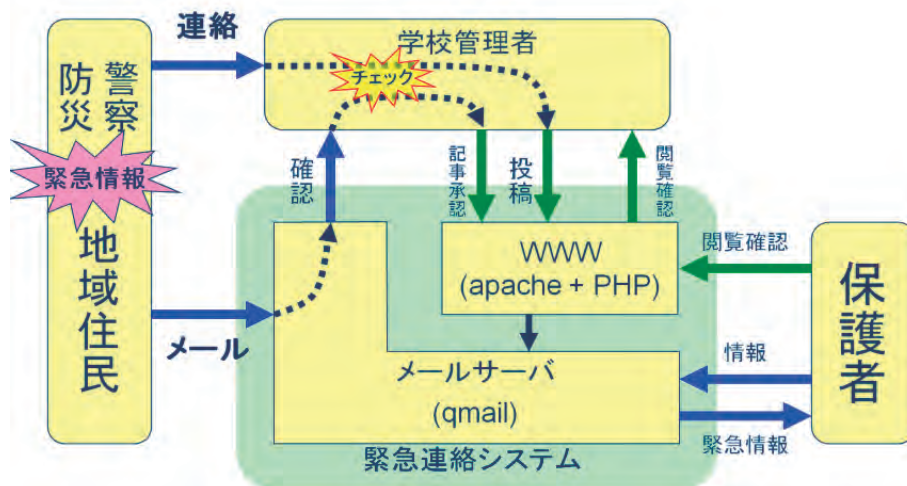
**研究テーマ**

**【丹南地域緊急連絡システム】**

● 地域の安全情報発信を目的とした緊急連絡システムを丹南地域の学校対象に無償でサービスを提供しています。

現在、越前市の全小中学校および鯖江市の半数の小中学校で、不審者などの情報を保護者に発信するために利用されています。

● これらのシステムは、災害発生時の緊急連絡にも応用されています。




**主要設備・得意とする技術**

メールやWebなどのインターネットを活用したネットワークサービスの開発などに取り組んでいます。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

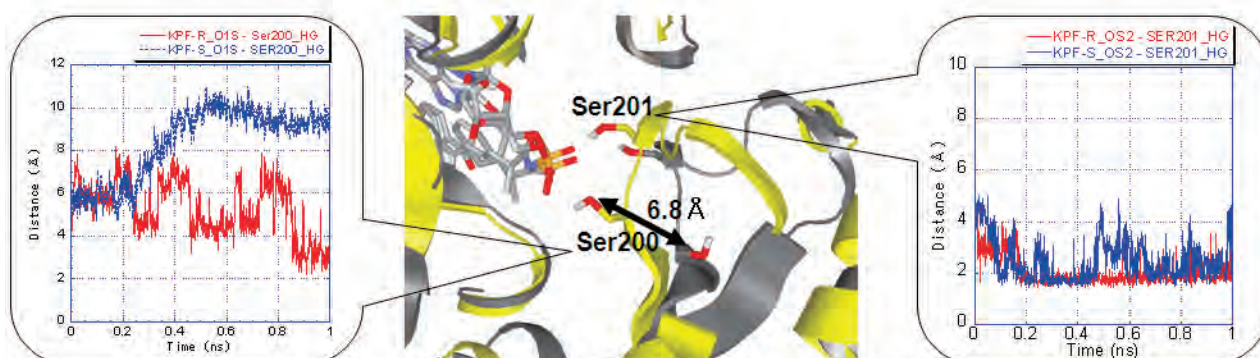
福井県歯科医師会と協力し、歯みがきロボットコンテストなどの運営にも協力しています。これに関連し中学校向けのロボット制御の講習会などにも積極的に協力したいと考えています。また、高校の技術系教員向けの組込系コンピュータの講習会などにも協力していました。

所属部門	情報・通信	
研究分野	生体分子科学	<b>専門分野</b> 生命情報学, 計算化学, 量子化学
	佐々 和洋 准教授 博士 (工学) 物質工学科 分子設計学研究室 sasa@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 分子シミュレーション
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本化学会, 日本コンピュータ化学会

### 研究テーマ

#### 【分子動力学法による生体高分子の機能解析】

- タンパク質や核酸など生体高分子の構造を, 分子シミュレーションにより再現し解析することを目標としています。
- 酵素基質複合体やそれらの活性中心の予測や挙動を解析することにより, より高活性な酵素の開発などに利用可能です。




基質の光学異性による酵素の構造変化 黄色:R体 灰色:S体  
 ⇒ 活性への寄与が大きいと思われるアミノ酸の選出

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

#### ・次世代シミュレーション技術者教育プログラム

豊橋技術科学大学が中心となり, 大規模かつ高精度な予測を可能にする次世代シミュレーション技術を開発できる人材, そして, “ものづくり”を支援して新技術や新材料の研究開発を牽引するより高度なシミュレーション技術を使いこなせる人材を育成するための取り組みに参加しています。

所属部門	情報・通信	
研究分野	ソフトウェア	<b>専門分野</b> 情報学基礎, 計算基盤
	清水 幹郎 技術専門職員 教育研究支援センター mshimizu@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> アルゴリズム理論, プログラミング言語, 情報理論 <b>所属学協会・研究会</b> 応用物理学教育分科会, 日本工学教育協会

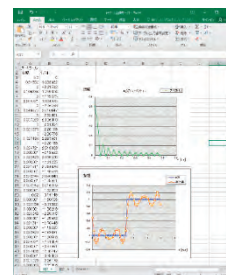
## 研究テーマ

### 【プログラム言語による演習と利用事例】

#### プログラム言語授業支援

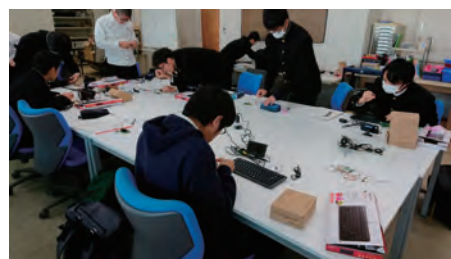
低学年：プログラム言語学習の授業・演習支援

高学年：プログラムで行うコンピュータを使用した数値計算演習・学生実験支援



電子情報工学科1学年の授業支援として担当した専門基礎演習「マイコンでプログラミング」について、第66回（平成30年度）応用物理学会春季学術講演会にて発表。

「マイコンを使用した低学年学生の情報基礎総合演習」  
使用環境の確認, 周辺機器の接続, プログラム演習,  
信号制御回路の拡張の各演習と学生の自己スキル評価



コンピュータを利用した考古学資料解析の支援（～平成19年）

資料の画像認識, データ集約のシステム化に関する共同研究

## 産官学連携や地域貢献の実績と提案

### 令和元年度 公開講座

教育研究支援センター「小学生夏休み親子科学教室」, 電子情報工学科「スマートフォンのWebゲームアプリを作ろう！」

令和元年度 出前授業 さばえ環境フェア2019内 ステージ演示「福井高専科学実験教室」


### 平成30年度 公開講座

教育研究支援センター「小学生夏休み親子科学教室」, 電子情報工学科「IchigoJamでゲーム機をつくる!」

平成30年度 出前授業 さばえ環境フェア2018内 ステージ演示「火ってなんでつくんだろう?」

### 平成29年度以前

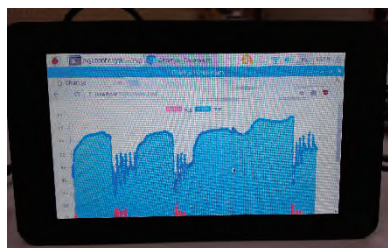
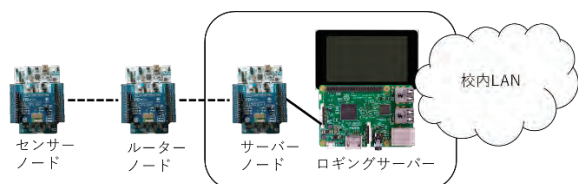
教育研究支援センター公開講座のほか, 歯みがきロボットコンテスト(社団法人 福井県歯科医師会 主催, 本校地域連携テクノセンター 共催)にて競技主審支援を担当

所属部門	情報・通信	
研究分野	通信・ネットワーク工学	
	内藤 岳史 技術専門職員 教育研究支援センター naitou@fukui-nct.ac.jp	<b>専門分野</b> 情報ネットワーク <b>キーワード</b> IoT, センサーネットワーク, 保育 ICT

### 研究テーマ

#### 【センサーネットワーク】

労働・学習環境改善のため、オリジナルセンサーを用いて温度・湿度・暑さ指数(WBGT)を計測する研究を行っています。



#### 【保育園をICTでサポート】

保育園の保護者会役員ということもあり、保育園の業務をICTでサポートし、保育士さんの業務負担を軽減するシステムの研究を行っています。

#### 画像認識による園児写真の自動分類


卒園アルバムを作成する際に大変な写真の整理を、機械学習による画像認識により自動化し、ウェブシステムとして構築

#### 登降園管理システム

カメラを用い、登園・降園の時間記録を画像認識により自動化

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・教育研究支援センターとして、公開講座を年2回開催しています。
- ・県内の科学関連イベントを集めた「科学啓発ポータルサイト(<http://s-porta.tsc.fukui-nct.ac.jp>)」の運用を行っています。
- ・福井高専教育研究支援センター科学楽しみ隊として、丹南地区の子どもたちに科学の楽しさを伝えるイベントを行っています。

所属部門	情報・通信	
研究分野	電子デバイス・電子機器	専門分野
	中村 孝史 技術職員 教育研究支援センター nakamura@fukui-nct.ac.jp	情報工学
		キーワード
		自動化・安全衛生
		所属学協会・研究会
		日本工学教育協会

研究テーマ

【WBGT（熱中症指数）の自動計測および可視化】

安全衛生環境を構築することを目的としたグループの活動として、マイコンとセンサから各種温度を自動計測し、サーバに情報を送信する測定器の製作を行っています。主に送られた情報を基にグラフ等を表示するホームページの構築やプログラムの作成を担当しています（図1）。またそれらの情報をより分かりやすく伝えるための可視化（見える化）も試みています（図2）。

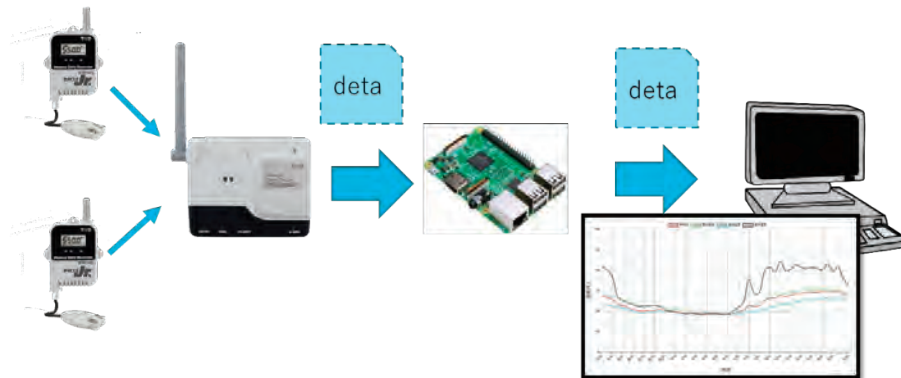


図1 マイコン等を用いたデータ計測

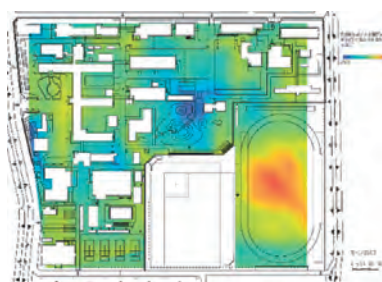



図2 温度情報の可視化

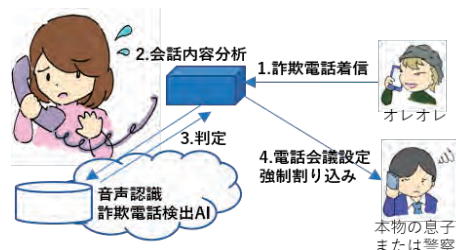
産官学連携や地域貢献の実績と提案

教育研究支援センターの公開講座「親子で作るオリジナル写真年賀状」をはじめ、専門分野を活かした公開講座や出前授業の支援も行っております。また上記の活動の一部は教育研究支援センターホームページ (<http://www.tsc.fukui-nct.ac.jp/>) でも公開しております。

所属部門	情報・通信	専門分野
研究分野	通信・ネットワーク工学	情報ネットワーク, 通信ソフトウェア, IP-VPN, プロトコル
	波多 浩昭 教授 博士 (工学) 電子情報工学科 hata@fukui-nct.ac.jp	キーワード インターネット, 企業ネットワーク, 仮想ネットワーク 所属学協会・研究会 電子情報通信学会, IEEE

研究テーマ

【アクティブAI電話機の研究開発】



振り込め詐欺などの電話を使った詐欺通話を音声認識と詐欺通話判定を行うAIを使って検出し、被害を防止する。電話機では会話内容をデジタル化してインターネットを介した音声認識機能を使ってリアルタイムでテキスト化し、さらに詐欺電話である可能性を、人工知能を用いて判定する。詐欺電話の可能性が高ければ（回線を切断するだけでは発信者側に詐欺電話と判断したことが伝わらないため）事前に登録されている親族もしくは捜査機関に発信して電話会議を開設して第三者を割り込ませる。技術的には既存電話回線、スマートフォンなどのソフトフォンなどに応用可能である。また電話機に実装することで、通信の秘密の保護義務に抵触しない。

【ブロックチェーンを用いた中速度電子決済端末の研究】



交通系 IC カードは首都圏のラッシュ時の乗降客改札通過時間を考慮し高速動作させるため、カードにバリューを持たせている。このため高セキュリティを維持する端末も高価であり、JR 系であってもカード読み取り機が設置されていない地方駅は多い。


一方廉価なQRコード決済ではカメラ機能を動作させなければならず、電車やバスでの運賃決済には不向きである。地方都市での交通系電子マネー決済方式として、バスの乗降時間を想定した中程度の速度で動作する廉価な決済方式を研究開発中である。端末を廉価にするためにバリューをカード、スマートフォンからネットワーク側に移し、交通系以外の店舗決済、企業間取引にも拡張できるようにブロックチェーン技術を用いている。これにより、例えばバス会社は得た運賃ポイントで燃料会社と直接決済することが可能になる。燃料会社は社員の通勤費をポイントで支払うことができる。これらの取引はすべて、ブロックチェーンネットワーク内で処理されて、カード読み取り機は不要である。

主要設備・得意とする技術

- ・TCP/IPv4 プロトコル    ・IPv6 プロトコル    ・電話, VoIP
- ・仮想ネットワーク (SDN)・仮想サーバ (KVM, Docker)・信号処理・ソフトウェア開発

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・パフォーマンス低下や断続的な故障などでお困りの企業様に対するトラブルシューティング
- ・企業様において現有されているシステムのパフォーマンス測定評価
- ・企業様において開発中のシステムソフトウェアに対するソフトウェアエンジニアリングの観点からの技術支援

所属部門	情報・通信	
研究分野	電子デバイス・電子機器	<b>専門分野</b> アンテナ工学, 電子デバイス
	堀川 隼世 講師 博士（工学） 電気電子工学科 horikawa@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> アンテナ, 中赤外光検出器, シミュレーション
		<b>所属学協会・研究会</b> 応用物理学会, 日本物理学会

### 研究テーマ


#### 【中赤外光検出器の為のアンテナに関する研究】

・遠赤外～中赤外光検出器の高感度・高速化を目指し、アンテナを用いた検出器の研究を行ってきました。

現在、遠赤外～中赤外(MIR)領域は、環境計測、分光による血糖値の測定、電波望遠鏡等への利用が期待されています。しかし、これらの領域は、光源・検出器共に技術が十分に確立されておらず、未開拓周波数と呼ばれています。そこで現在、MIR領域に於いては、アンテナを利用したMIR検出器の研究が行われています。但し、従来のMIRアンテナ研究では、アンテナインピーダンスの評価方法が確立されていませんでした。そこで、中赤外光を受信可能なアンテナのインピーダンス評価方法についての研究を行っています。また、中赤外光検出器の性能向上を目指し、アンテナを用いた光検出器の検討も行っています。

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

出前授業などを通すことで、工学の楽しさを伝えたいと考えています。

所属部門	情報・通信	
研究分野	情報学基礎, 知能情報学	<b>専門分野</b> 記号論理学, パターン認識
	丸山 晃生 准教授 博士（情報科学） 電気電子工学科 情報論理研究室 maruyama@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 記号論理, エージェント, 画像認識
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本ソフトウェア科学会, 日本数学会, 電子情報通信学会

**研究テーマ**

**【 多重様相論理 】**

**定理自動証明器の実装**

日常的な論理思考を形式化した様相論理に対する定理自動証明プログラムを実装しています(図1)。特に認識論理と時間論理を融合した多重様相論理を研究対象としています。定理の真偽を自動判断することを利用して、プログラム検証分野への応用も試んでいます。

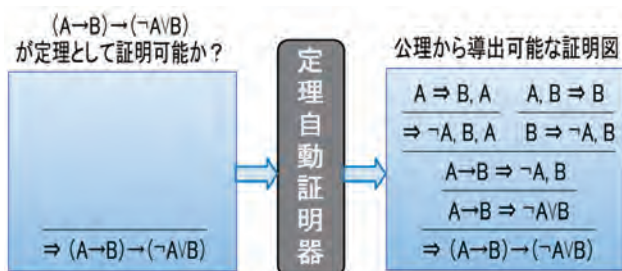


図1 定理自動証明器

**【 画像処理 】**

**パターン認識・最適解探索**

画像処理と最適解探索を用いて、画像上の特定物体（顔、手指、文字など）を検出しています。また、パターン認識により、検出物体の分類にも取り組んでいます(図2)。さらに、動画像処理により、動作認識を用いたインターフェース開発も試んでいます。



図2 画像処理を用いた文字認識


**主要設備・得意とする技術**

- ・ 日常的事象の記号論理を用いた定式化, および, 定式化された記号論理に対する自動証明・自動推論プログラムの実装が可能である。その際, 論理型言語prologや関数型言語OCamlにより実装しています。
- ・ 遺伝的アルゴリズムなどによる最適解探索やニューラルネットワークなどを用いたパターン認識などの情報処理技術を, 画像変換, 画像認識, 動画像処理などに応用しています。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・ 画像情報処理技術を用いたインターフェース開発
- ・ 越前市産業活性化プラン有識者会議委員



所属部門	素材・加工	<b>専門分野</b> 電子物性, 物理学
研究分野	電子デバイス・電子機器	
	荒川 正和 准教授 博士（工学） 電気電子工学科 arakawa@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> トンネル現象, 音情報処理, 新規アクチュエータ, 工学教育
		<b>所属学協会・研究会</b> 電子情報通信学会

**研究テーマ**

**【物理シミュレーション, 科学・工学教育】**

- ・ 数値計算による物理現象の解明  
トンネル現象, 量子効果
- ・ 理工系分野の啓蒙用教材開発（電気電子分野）  
主に小, 中学生向け

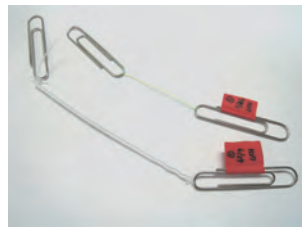
**【センサ応用】**

- ・ 視覚障がい者の生活支援装置の試作  
障害物検知による歩行補助用装置
- ・ 陸上競技用簡易計測装置の試作  
部活動における練習効率向上のための装置

**【新規アクチュエータ】**

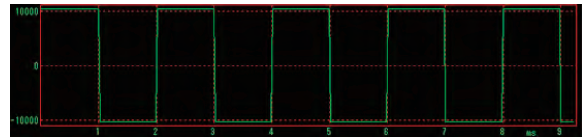
- ・ 人工筋肉の試作

試作した人工筋肉  
(右図)

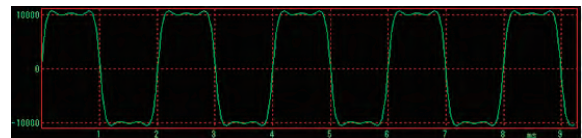


**【音情報処理】**

- ・ 音の周波数特性解析と特徴パラメータ抽出  
楽器音, 音高の自動判定
- ・ 日本語母音の自動生成  
音声データベースに依らない自動生成方法の提案
- ・ シンセサイザの試作  
口笛・リコーダー用シンセサイザ



フィルタ処理すると↓



音声波形処理の例

**主要設備・得意とする技術**

数値解析, センサ応用, 音楽・音響関係

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**


科学・工学教育（特に導入教育）に興味があり, これまでに

公開講座「やってみようソーラーカー手作り教室（小・中学生）」「電気実験の自由研究（中学生）」  
出前授業「発光ダイオードを用いた工作教室（中学校）」

などを行いました。アクセサリやおもちゃの製作と電子工作や電子回路を融合させたり, それらにまつわる実験テーマを開発し実践すること等を通じて, 電気・電子工学に興味を持ってもらえるような教材の提案をしていきたいと考えています。

また音楽好きが高じ, 過去のノウハウを活かして音楽・音響関係の研究テーマにも取り組んでいます。

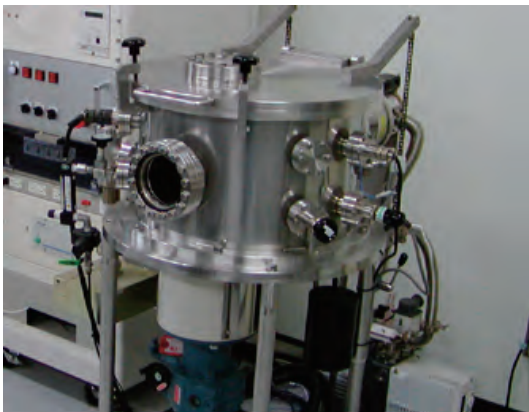
最近では, 福祉分野に興味を持つきっかけを得て, 電気電子工学をそれらの分野で役立つ装置等の開発に結び付けたいと考えています。

所属部門	素材・加工	
研究分野	トライボロジー・材料加工	<b>専門分野</b> トライボロジー, 金属材料, 粉末冶金, 機械工作法
	加藤 寛敬 教授 Doctor of Philosophy 機械工学科 機能材料・トライボロジー研究室 hkato@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 摩耗, 微細組織材料, 電子顕微鏡
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本機械学会, 日本トライボロジー学会, 日本金属学会

**研究テーマ**

**【超微細組織材料の摩耗特性】**

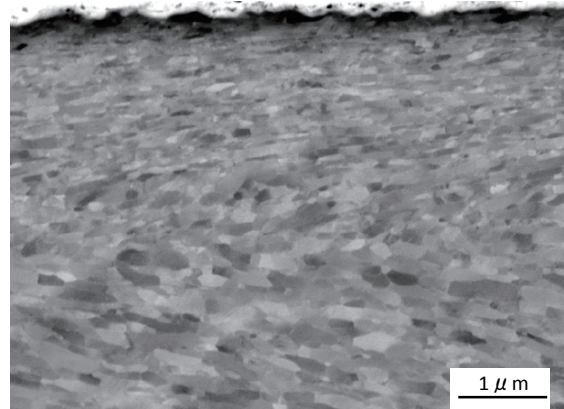
超強加工などにより作成した超微細組織材料は、合金元素に頼らずに高強度を示すという新しい発想に基づいた画期的材料であるために、環境資源・エネルギー問題の観点から次世代の構造材料候補として近年注目を集めています。このバルクナノメタルの摩擦摩耗特性を評価しています。



雰囲気制御摩擦摩耗試験機

**【摩擦表層のトライボメタラジ】**

摩擦摩耗低減は環境問題における最重要課題の一つです。摩擦摩耗低減を最終目標として、トライボロジー（摩擦学）とメタラジ（金属学）を融合した最先端の新しい研究に取り組んでいます。特に、摩擦摩耗の影響を受けた材料表面は、組織が微細化・ナノ結晶化していると考えられ、耐摩耗性にも優れていると期待されます。




摩擦表層のSEMによる反射電子像

**主要設備・得意とする技術**

- ・ 雰囲気制御摩擦摩耗試験機を保有し、幅広い先端材料の各種雰囲気（高真空, Arガス中）での摩擦摩耗特性の評価が可能です。
- ・ 高分解能で試料表面観察が可能な走査型電子顕微鏡を用いた材料研究を実施しています。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・ 走査電子顕微鏡（SEM）によるミクロな観察
- ・ 機械工作・金属加工に関する講義・実習

所属部門	素材・加工	
研究分野	電子デバイス・電子機器	<b>専門分野</b> 電気, 情報系
	久保 杏奈 技術職員 教育研究支援センター kubo@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> ナイロン人工筋肉, アクチュエータ, 炭素繊維
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本人間工学会

## 研究テーマ

### 【ナイロン製人工筋肉に関する研究】

釣り糸や縫い糸として使用されるナイロンをスプリング構造にし、あらかじめ荷重をかけて伸長させた状態のものに熱を加えると、元の長さまで収縮することができます。加熱による収縮動作と放熱による伸長動作を繰り返すことで、人工筋肉としての動作を再現しています。

ナイロン製人工筋肉の加熱には、炭素繊維を通電させた際に起こる発熱現象を利用しています。また、ナイロン製人工筋肉の実用化に向けて、マイコンを用いた伸縮動作における耐久性試験装置システムを製作し、作製したサンプルの耐久性試験を行っています。



図1 自作したナイロン人工筋肉

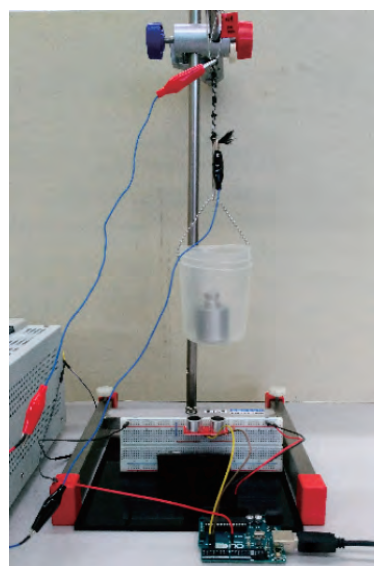


図2 伸縮動作における耐久性試験装置


## 産官学連携や地域貢献の実績と提案

### ▷教育研究支援センター公開講座

「ロボットを動かすプログラミング体験」

### ▷電気電子工学科公開講座・出前授業

「電気のでパンを作ろう」, 「手作りスピーカー」

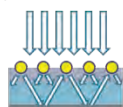
所属部門	素材・加工	
研究分野	電子・電気材料工学	専門分野
	西城 理志 助教 博士（工学） 電気電子工学科 satsaijo@fukui-nct.ac.jp	電子工学，物性物理学
		キーワード
		太陽電池，ナノ粒子
		所属学協会・研究会
		応用物理学会，日本シミュレーション&ゲーミング学会

研究テーマ

【金属ナノ粒子の太陽電池応用】

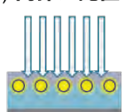
金属ナノ粒子を導入することで，太陽電池の効率効率を目指している。

(a) 表面に配置\*



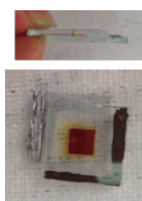
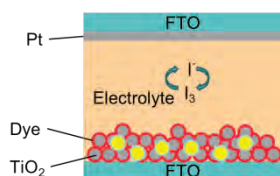
◆ 光散乱  
⇒ ナノ構造による光散乱で、光路長が伸び吸光度向上

(b) 内部に配置\*



◆ プラズモン吸収  
⇒ キャリア発生源近傍で、増強電場を利用したキャリア励起の促進

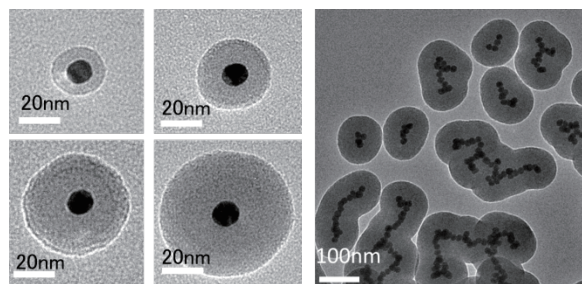
効率向上のメカニズム



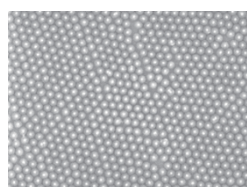
色素増感太陽電池の構造 色素増感太陽電池の外観

【金属ナノ粒子】

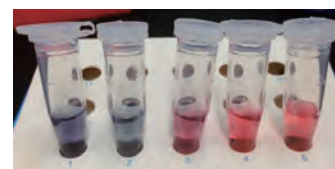
デバイス応用を目指し，下図のような種々の金属ナノ粒子の作製を行っている。



SiO<sub>2</sub>被膜金ナノ粒子 チェイン状の金ナノ粒子



基板上に配置した金ナノ粒子



金ナノ粒子溶液

主要設備・得意とする技術

マルチチャンネル分光器

液体及び基板などに対して，様々な波長の光の透過吸収測定が可能

ソーラーシミュレータ


人工太陽灯により，太陽電池の I-V 特性の測定が可能

遠心分離機

産官学連携や地域貢献の実績と提案

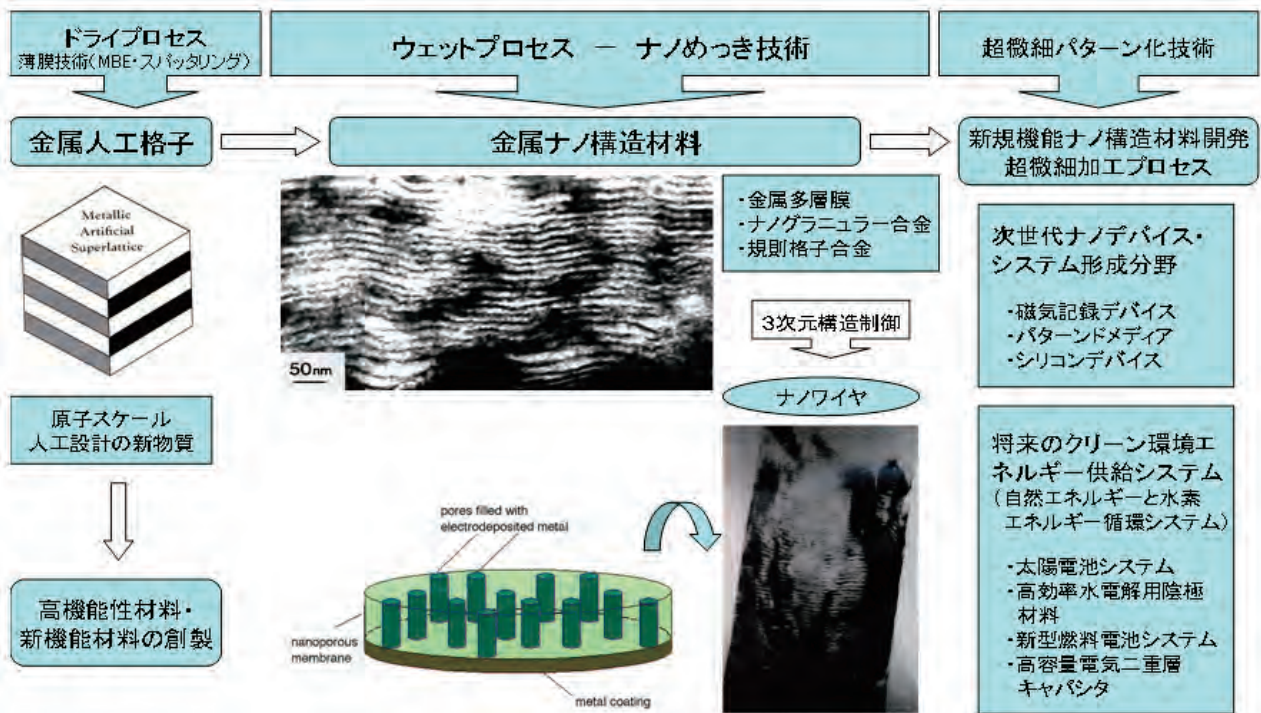
電気パンの作製

色素増感太陽電池の作製講習会

所属部門	素材・加工	<b>専門分野</b> 材料化学, 金属表面化学
研究分野	構造・機能材料	
	常光 幸美 教授 工学博士 物質工学科 jyoko@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> ウェットプロセス, 電気化学プロセス
		<b>所属学協会・研究会</b> The Electrochemical Society Active Member, (公社) 日本金属学会, (公社) 電気化学会, (一社) 表面技術協会

研究テーマ


【ウェットプロセスによるナノ構造材料の創製と機能】



産官学連携や地域貢献の実績と提案

【産官学連携共同研究】

- ・新規めっきプロセスによる垂直磁気記録媒体用軟磁性裏打層の開発  
 (信越化学工業(株) 磁性材料研究所・福井工業技術センター)
- ・ウェットプロセスによるシリコンインターポーザ形成技術の開発  
 ((国研) 産業技術総合研究所・(公財) 若狭湾エネルギー研究センター)

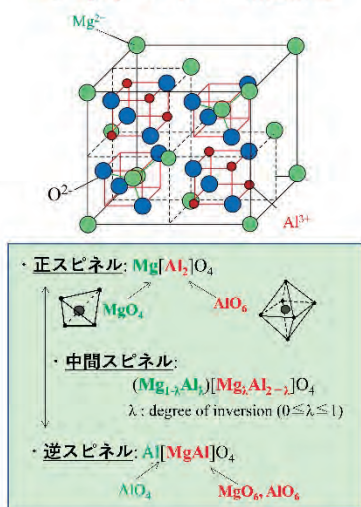
所属部門	素材・加工	
研究分野	無機材料・物性	専門分野
	高橋 奨 助教 博士（工学） 機械工学科 takahashi@fukui-nct.ac.jp	材料工学，誘電体材料，複合材料
		キーワード
		所属学協会・研究会
		日本セラミックス協会

研究テーマ

【結晶構造制御による物性改善】

セラミックスの結晶構造を設計・制御することで、誘電特性、電気特性などセラミックス物性の最適化、新規セラミックスの材料開発を行っています。また、それらの物性と結晶構造との相関性について研究を行っています。

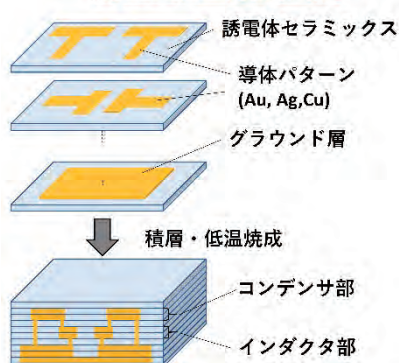
**MgAl<sub>2</sub>O<sub>4</sub>スピネルの結晶構造**



【LTCCセラミックス】

高周波モジュールや IC パッケージ用基板は、配線導体とセラミックス基板を 900°C 以下の低温で同時に焼成して作られる「低温同時焼成セラミックス (LTCC)」が用いられます。本研究では、高 Q (低い誘電損失) を有する LTCC 基板材料の作製に向けた焼結助剤の適用検討とその高周波誘電特性評価を行っています。

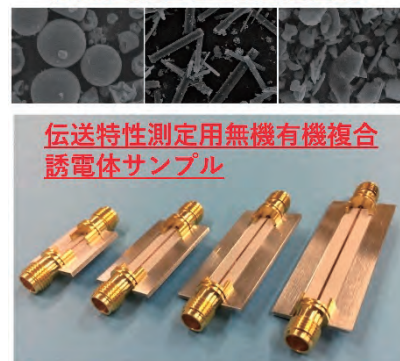
**LTCC工法 (模式図)**



【無機有機複合誘電体材料】

ミリ波帯領域の高周波通信デバイスにおいて、無機材料（セラミックス）と有機材料（ポリマー）との複合基板材料が注目されています。形態や結晶性を制御したセラミックス粒子を合成することで、ミリ波帯領域で利用可能な誘電・熱的特性を兼ね備えた新規高周波用複合誘電体材料の開発を行っています。

**合成したセラミックス粒子**




主要設備・得意とする技術

1. 高周波誘電特性評価：空洞共振器法，Hakki-Coleman 法
2. セラミックス材料評価：電気伝導率，熱伝導率，表面観察，組成分析，X線回折
3. セラミックス粉体合成：異方性粒子，高結晶性粒子，中空粒子

産官学連携や地域貢献の実績と提案

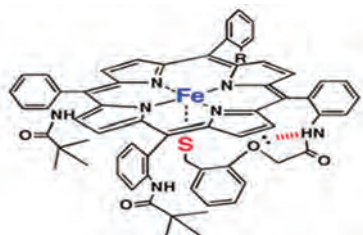
- ・ミリ波帯への活用に向けた無機有機複合誘電体材料の開発とデバイス実装。

所属部門	素材・加工	
研究分野	有機化学、合成化学	<b>専門分野</b> 触媒化学
	津田 良弘 教授 博士（工学） 物質工学科 tsuda@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 金属ポルフィリン錯体, 金属サレン錯体, 酸化触媒
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本化学会, 触媒学会, 電気化学会

## 研究テーマ

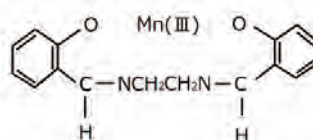
## 【金属ポルフィリン錯体によるシトクロムP-450モデル反応に関する研究】

動物の肝臓中に存在する一酸素原子添加酵素(シトクロムP-450)の酵素活性を解明する目的で, Mnポルフィリン錯体を用いたモデル系により電子伝達系, 酸素分子の酸素原子への開裂, 軸配位子の役割など詳細に検討している。



## 【金属サレン錯体を触媒に用いた酸化反応の基礎研究】

有機配位子の設計が容易である金属サレン錯体を触媒に用いた有機化合物の酸化反応に関する基礎研究を行っている。




## 主要設備・得意とする技術

ガスクロマトグラフ, 高速液体クロマトグラフ, ポテンシオスタット, ファンクションジェネレータ。  
有機化合物の簡易分析及び電気化学的測定。

## 産官学連携や地域貢献の実績と提案

出前授業 (液体窒素を用いた超低温の世界、スライム時計の作成)

所属部門	素材・加工	
研究分野	無機材料・物性	<b>専門分野</b> 無機化学, 電気化学, 無機材料科学
	西野 純一 准教授 博士 (工学) 物質工学科 物質科学研究室 nishino@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 薄膜, 化学気相析出 (CVD) 法, ナノ材料, 構造規制
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本セラミックス協会, 電気化学会, 表面技術協会

**研究テーマ**

**【近接気化型CVD法による薄膜の合成】**

キャリアガスを用いない近接気化型化学気相析出 (CVD) 法の研究をしています。図1にビス2,4-ペンタンジオナト亜鉛を原料としてこの合成法によりSi単結晶基板上に150°Cの低温で合成した酸化亜鉛膜を示します。

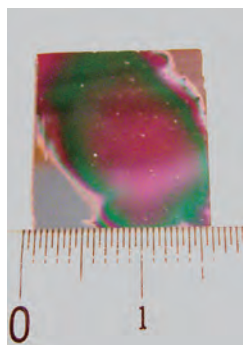


Fig.1 基板温度150°Cで合成したZnO膜

**【構造規制材料の合成】**

構造を規制したナノ銀の合成をしています。条件を選ぶことによって高校の化学の教科書に載っているデンドライト (樹枝) 状の銀樹でない銀が合成できます。図2にアクリル基板上に合成したひも状の銀, 図3にアクリル基板上に合成した部分的に配列した銀ロッドをそれぞれ示します。

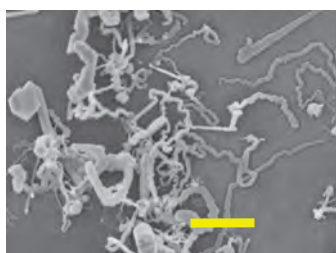


Fig.2 ひも状の銀

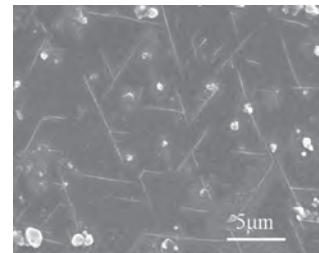


Fig.3 部分的に配列した銀ロッド


**主要設備・得意とする技術**

XRRによる薄膜の膜厚, 密度および粗さ測定

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・公開講座2008「化学はじめの一步」(福井高専)
- ・公開講座2010-2013「オリジナル葉を作ろう」(福井高専)
- ・サイエンススクエア2010「オリジナルの「しおり」を作ろう」(国立科学博物館)

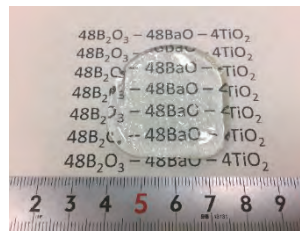


所属部門	素材・加工／地域・文化	
研究分野	機能物性化学関連	専門分野 ガラス材料・光物性
	長谷川 智晴 准教授 博士（理学） 一般科目教室（自然科学系） hasegawa@fukui-nct.ac.jp	キーワード ガラス・セラミックス・光吸収・屈折率・光ファイバー
		所属学協会・研究会 Optical Society of America, 日本物理学会, 応用物理学会

### 研究テーマ

多成分系ガラス材料の組成設計から物性測定まで一貫して幅広く行っています。ガラスは成分の調整で、様々な物性をコントロールすることができます。また、ガラスは板、球、ファイバーなど様々な形状に加工できることから、幅広い分野で応用されています。ガラスを熱処理すると、微小な結晶が数多く生成したセラミックスになります。成長した結晶の性質を上手に用いると、ガラスの物性を飛躍的に向上させることも可能になります。

私の研究では、ガラス中にどのように結晶が成長するかを詳細に調べ、その過程で物性値がどのように変化するかを観察しています。具体的には、ホウ酸塩系ガラスの結晶化過程で、誘電率がどのように変化するかを調べています。そのほかに、可視域での光学特性の変化も調査しています。光の波長より十分小さい結晶を数多く生成することができれば、「安価で作りやすい」「高屈折率・高誘電率」のガラスが実現できるものと期待しています。（図は、当研究室で作製した融液状態のガラスとガラス試料の写真。）



### 主要設備・得意とする技術

#### 【主要設備】


ガラス溶解用電気炉(1100℃), 熱処理用小型電気炉, 誘電分散測定用 LCR メーター, ガラス研磨機。

#### 【得意とする技術】

各種分光測定, XRD 測定。

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

公開講座や展示会でのデモ実験等を毎年行っています。

所属部門	素材・加工	
研究分野	加工学	専門分野
	藤田 祐介 技術専門職員 教育研究支援センター yusuke_f@fukui-nct.ac.jp	加工学, 機械設計
		キーワード
		所属学協会・研究会

専門分野

加工学, 機械設計

キーワード

機械加工, 機械設計, 安全

所属学協会・研究会

日本機械学会

研究テーマ

【機械加工における安全】

職業訓練指導員（機械系）の免許を保有し、また、民間企業の加工現場での経験を活かし、工作機械を使用した加工をより良く学生に伝える研究を重点的に行っています。その中には、加工の様子を直接見ることができない状況における観察装置の開発や、観察手法の検討なども含まれています。



●日頃の活動内容

ものづくりを行う際に起こりうる事故を調査し、それらの原因及び対策をまとめ、安全にものづくりを行う環境作りを考案しています。それらを元に機械加工について素人である学生に対し、工作機械を扱う際の危険なポイントを、実例を取り上げて指導しています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案


【公開講座・出前授業】

親子を対象とした公開講座や出前授業などに参画し、簡単な実験やおもちゃ作りを通して参加者の科学への興味関心を育む活動を行っています。

- ・令和2年度 4件
- ・令和元年度 4件

【地域貢献】

丹南地域の熱中症予防の指標として、本校HPで公開されているWGBTの測定機器の製作を行いました。製作を行う際には、气象台に準ずる測定ができるように留意しています。

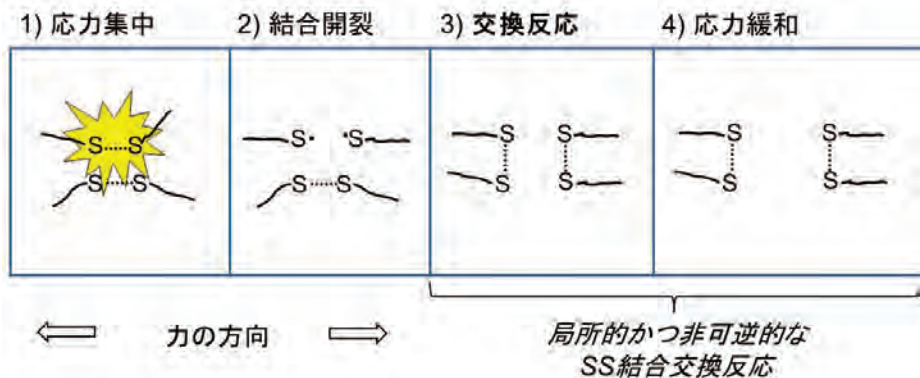
所属部門	素材・加工	
研究分野	機能物性化学, 高分子化学	<b>専門分野</b> 有機材料化学, 高分子化学
	古谷 昌大 准教授 博士（工学） 物質工学科 有機・高分子材料研究室 furutani@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> ジスルフィド結合, 接着, 光（UV）硬化
		<b>所属学協会・研究会</b> 高分子学会, 日本化学会, 日本接着学会, 材料技術研究協会, アメリカ化学会

研究テーマ

【ジスルフィド結合が組み込まれた機能性ポリマー材料の開発】

ジスルフィド結合（S-S結合）は、150℃以下という比較的温和な温度条件下で、結合交換反応を起こすことが知られています。そこで、ポリマー材料中にS-S結合を組み込み、**易解体性接着材料**や**硬化収縮低減材料**、**吸着材料**等の開発を進めています。これまでに、S-S結合を分子内に持つジアミン、ビスエポキシ樹脂、ジアクリレート等を設計・合成し、アニオンUV硬化系やラジカルUV硬化系に応用してきました。

右図のように、加熱下S-S結合に応力が加わると、応力集中したS-S結合がラジカル的に開裂します。このとき、**局所的かつ非可逆的なS-S結合交換反応**が起こることで、材料の応力緩和が進行すると考えられます。本研究における易解体性接着材料や硬化収縮低減材料では、このことを根本原理としています。



主要設備・得意とする技術

- ・卓上引張り試験機（ロードセル：500 N, 引張速度：10 mm/min）所持  
粘接着試料のせん断応力等を測定するための装置です。
- ・光量計（i線（波長 365 nm）用）所持  
特定の波長のUV光照度を計測する計器です。簡易的な365 nm光照射用ランプも併せて所持しています。
- ・ゲル浸透クロマトグラフ（GPC, キャリア溶媒：ジメチルホルムアミド（DMF））運用管理  
高溶解性溶媒 DMF を用いて、分子量 10 万までの高分子の分子量（分布）を測定するための装置です。


産官学連携や地域貢献の実績と提案

2020（令和2）年度

出前授業（小学生高学年対象）2件。JOINTフォーラムにてポスター発表2件。

2021（令和3）年度（予定）

出前授業、公開講座、JOINTフォーラム、北陸技術交流テクノフェア等に参加予定。

所属部門	素材・加工	<b>専門分野</b> 非晶質材料, 科学教育, サイエンスリテラシー <b>キーワード</b> シリカガラス, 石英, 失透, 結晶化, ガラス, 失透抑制 <b>所属学協会・研究会</b> 応用物理学会, 日本セラミックス協会, 照明学会, 応用物理教育分科会
研究分野	無機材料・物性, 科学教育	
	堀井 直宏 技術専門員 博士（工学） 教育研究支援センター naop@fukui-nct.ac.jp	

## 研究テーマ

### 【ガラスの失透現象に関する基礎研究】

ガラスと不純物の接触, 特にアルカリ金属などを含んだ塩との接触によって, 温度上昇時 (700°C~) に失透というガラスの劣化現象が発生します。これは, ガラス内に結晶核が生成し, 非晶質のガラスが結晶に変化することで生じる現象です。窓ガラスなどの素材には, ガラスの加工性を上げるためにNaやCaが含まれており, 既に不純物が含まれた状態であるため, 容易に失透が起こります。陶芸における釉薬や粘土にもガラスが含まれるものが多く, 焼成の段階で失透に起因した割れや模様が生じる場合があります。

私達が目にするガラスの中でも, シリカガラス (石英ガラス) は, 高純度なSiO<sub>2</sub>によって形成されたガラス材料です。シリカガラスは, ガラスの王様と呼ばれるように, 電気絶縁性, 耐薬品性, 耐熱性, 優れた光透過性等, 産業用材料の優等生として広い応用範囲を持っています。しかし, 不純物が存在する環境では失透による性能の劣化が問題となります。

筆者らは, 純粋なSiO<sub>2</sub>で出来たシリカガラスと不純物を接触させて, シリカガラスが失透するメカニズムの解明を目指しています。また, シリカガラスの失透抑制方法についての研究も行っています。

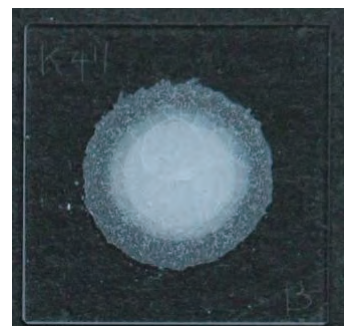


図1 NaClによって同心円状に失透したシリカガラス

## 主要設備・得意とする技術

失透によるガラスの劣化機構についての技術相談が可能です。

走査型電子顕微鏡 (SEM), エネルギー分散型X線分光分析 (EDS・EDX), X線回折 (XRD), 自記分光光度計などを用いた材料分析を行いながら, 失透メカニズムについての研究を行っています。失透抑制技術<sup>1</sup>として, シリカガラスにハロゲン添加を行うことで, 失透の内部への進行を抑制できることを見出しています。


1. 【特許第4929457号 シリカガラス材料】

## 産官学連携や地域貢献の実績と提案

H23~25: 公開講座 “親子科学教室「科学は身近にあふれてる。さあ科学のとびらをあげましょう！」”

H24, 25: 公開講座 “「親子で作るはじめてのオリジナル写真年賀状」”

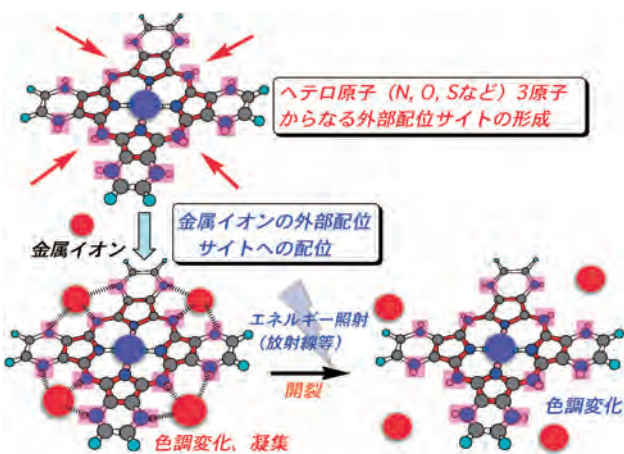
他: 共同研究, 自転車人力発電機の製作, 理科工作教室等の科学啓発活動について随時相談可能です。

所属部門	素材・加工	
研究分野	有機合成化学、機器分析	<b>専門分野</b> 生物有機化学, 機能材料化学, 合成化学
	松井 栄樹 教授 博士(薬学) 物質工学科 分子機能化学研究室 eiki@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 機能性色素, 天然高分子材料, 金属錯体, 生体分子
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本化学会, 日本薬学会, 高分子学会

研究テーマ

【修飾Pc色素を用いた金属センサー, 回収剤の開発】

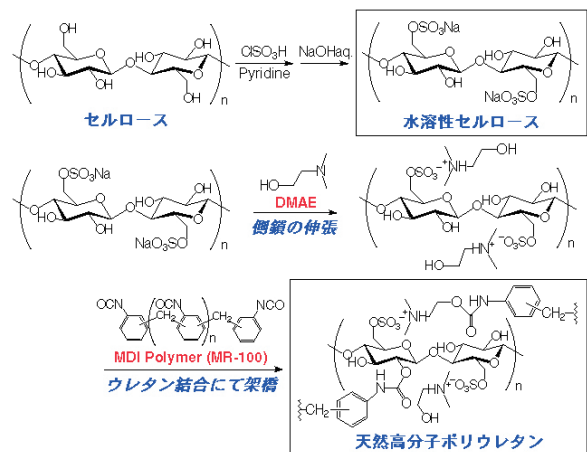
通常のパタロシヤニン(Pc)とは異なり, 外部金属配位サイトを有するPcを設計し合成を行っている。各種金属イオンを添加した場合, 色調変化や凝集沈殿が起こり, センサー, 凝集剤として利用可能である。



【水溶性セルロース基材のポリウレタン樹脂合成】

天然高分子であり溶剤に不溶のセルロースから水溶性セルロース誘導体へと変換後, 極性基と相互作用する側鎖を導入し MDI ポリマーと反応させる。

水発泡による天然高分子を基材とした, 環境負荷の少ないポリウレタン樹脂の合成を行っている。




主要設備・得意とする技術

- ・超伝導核磁気共鳴装置 NMR (400MHz), 顕微赤外吸収スペクトル装置 IR の測定, 解析
- ・大気圧イオン化質量分析装置 (ESI, APCI, APPI-MS), 及び MALDI-TOF-MS の測定, 解析
- ・蛍光スペクトル装置 FL, 紫外可視吸収スペクトル装置 UV, 円偏光二色性スペクトル装置 CD の測定, 解析
- ・上記の装置により, 有機分子, 色素, 金属錯体, 天然高分子, 生体分子の合成と機器分析, 分子が有する機能性の評価を行っています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・レンズの UV, IR, FL, CD等を用いた光学特性評価
- ・天然資源材料の有効活用, 溶解, 樹脂化, 及び質量分析
- ・各種有機化合物の合成, 構造決定, 及び色素分子の特性, 機能性評価

所属部門	素材・加工	<b>専門分野</b> 凝縮系物理学, 電子物性 <b>キーワード</b> 電気輸送計測, MEMS/NEMS, 低温実験, 超伝導・密度波 <b>所属学協会・研究会</b> 日本物理学会, 応用物理学会
研究分野	物性 II, ナノマイクロシステム	
 松浦 徹 准教授 博士(工学) 電気電子工学科 t-matsuura@fukui-nct.ac.jp		

**研究テーマ**

**【電子結晶を用いた微小機械振動子素子の研究】**

これまで, “電荷密度波(CDW)”状態をしめす TaS<sub>3</sub>, NbS<sub>3</sub>などを  
 用いて微小な電気-機械振動素子 (MEMS または NEMS と呼ばれる)  
 の研究を行ってきました。

CDW は, 異方的な電気伝導体特有のフェルミ面の不安定性(パイ  
 エルス不安定性)に起因して, 電子密度とフォノンがフェルミ波数の  
 2 倍の波数で周波数 0 の疎密波を作る巨視的量子状態です。CDW  
 状態では, 電子密度が超格子構造を組んだ電子結晶を作ります。電  
 子結晶は, 通常の固体結晶と同じく弾性や剛性が生じるため, 電子  
 物性と機械特性の間に強い相互作用を持っていると期待されます。

相互作用がより強い物質系を見つけることができれば,  
 MEMS/NEMS を単純にかつ小型化・集積化でき, 量子力学・熱力  
 学などの基礎物理の実験や, 生体・医療への応用が考えられます。  
 これまでに, 図に示すような CDW ナノ振動子を作成し, 電子物性  
 -機械特性間の相互作用の測定を行っています。

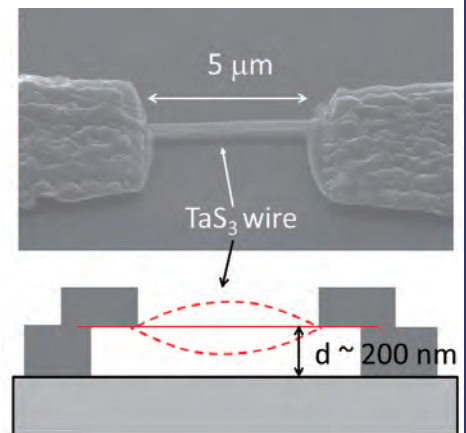



図. 作成した両端支持梁型 CDW ナノ共振子の走査電子顕微鏡像と模式図

**主要設備・得意とする技術**

- ・ネットワークアナライザ
- ・高周波プリアンプ
- ・微小電流測定
- ・低温技術

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・市民講座
- ・企業の依頼研究 (電子素子の温度特性測定・評価)

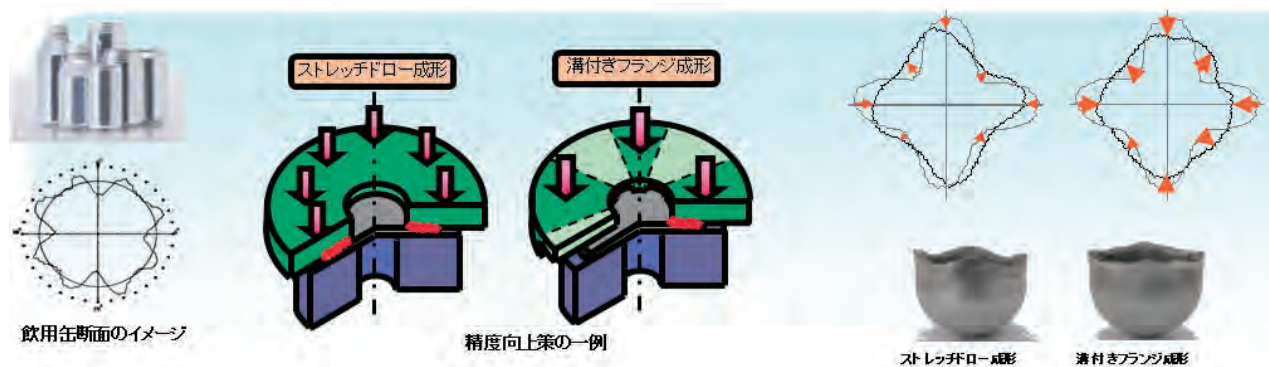
所属部門	素材・加工	
研究分野	生産工学・加工学	<b>専門分野</b> 塑性加工学, 材料力学
	村中 貴幸 教授 博士（工学） 機械工学科 塑性加工研究室 muranaka@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 板成形, 焼付き, チタン
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本機械学会, 日本塑性加工学会

## 研究テーマ

### 【塑性加工製品の高付加価値化】

#### ● 容器製品の精度向上策の開発

密閉性, 耐圧性の向上を目指したより真円に近い容器の成形  
⇒金型の精度に依存しない変形時の材料流動を活用



#### ● Ti成形の焼付き防止策の開発


工業用チタンの画期的プレス成形技術  
⇒酸化皮膜を用いない新しい焼付き防止策の開発

### 主要設備・得意とする技術

機械工学科棟 1F に設置された 500kN 油圧式万能試験機を管理しています。本年度 300kN ギア式の精密万能試験機が導入される予定です。板, 丸棒など試験片の形状を問わず引張, 圧縮, 曲げの評価試験が実施可能です。

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・チタン製眼鏡枠のプレス成型法の開発
- ・均一肉厚容器の成型法開発
- ・先端マテリアル創成・加工技術研究会メンバー
- ・中小企業産業大学校「機械工学の基礎」講師

所属部門	素材・加工	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">専門分野</div> 機械設計, 加工学
研究分野	生産工学・加工学	
	山田 健太郎 技術専門職員 教育研究支援センター k-yamada@fukui-nct.ac.jp	

**研究テーマ**

**【機械工作実習における機械加工】**

初めて機械を使用する学生が多いため、初心者に分かりやすく機械操作の説明や機械の構造などを説明しています。世の中にはNC機械のように自動で加工する機械も多くありますが、やはり機械を手動で操作してみて、実際に「もの」を加工する感触を体験したり感じたりすることは、非常に大事だと思います。このような体験が多くできるような実習方法を模索、検討しています。


また、より直感的に分かりやすくするため、視覚に訴えるように写真、図などを多く利用した資料等を作成しています。初心者でも理解できるように、工作機械の構造や操作方法などの資料を工作機械メーカーの取扱説明書などを参考に作成しています。



**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- H28年度 公開講座 7月 「小中学生夏休み科学教室」
- H27年度 公開講座 7月 「小中学生夏休み科学教室」
- H27年度 公開講座 11月 「親子で作るオリジナル写真年賀状」




所属部門	素材・加工	
研究分野	ナノ材料化学	専門分野
	山本 裕之 嘱託教授 博士（工学） 一般科目教室（自然科学系） hiruyoki@fukui-nct.ac.jp	セルロース科学
		キーワード
		セルロース、紙、構造、ナノファイバー
		所属学協会・研究会
		セルロース学会、繊維学会

## 研究テーマ

### 【研究テーマ】

セルロース繊維は市販されている高性能繊維であるケブラーやベクトラン繊維と同じように極めて高い弾性率と強度を有しており、複合材料の繊維や環境調和型材料として十分期待できる素材である。しかし、セルロースはその分子鎖の凝集性が極めて強く、特殊な溶媒、あるいは特殊な条件下でしか溶解しないことや、水を吸収しやすい分子特性を持つため、応用範囲が制限されてきた。この問題を解決する一つの手段として、セルロースのナノファイバー化がある。そこで、安価で実用的なセルロース材料であるパルプ、綿などを、効率的にナノファイバー化する技術を確立し、このセルロースナノファイバーを用い、バイオマス由来の高機能性複合材料（グリーンコップジット）や、疎水性セルロースフィルムなどを開発することが研究テーマである。

所属部門	素材・加工	
研究分野	有機化学, グリーン・環境科学	専門分野
	山脇 夢彦 助教 博士(工学) 物質工学科 有機光化学研究室 yamawaki@fukui-nct.ac.jp	有機化学, 光化学, 医薬品合成 キーワード 反応有機化学, 有機合成化学, 有機光化学, ファインケミカル 所属学協会・研究会 日本化学会

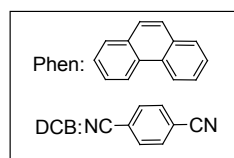
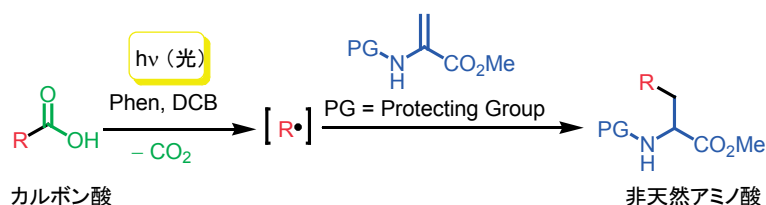
### 研究テーマ

#### 【光誘起電子移動を利用した非天然アミノ酸の合成】

非天然アミノ酸はタンパク質を構成する以外のアミノ酸で、創薬研究での重要性が高まっています。最近では、ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) というがん治療の薬として、非天然アミノ酸の使用報告があります。

しかし、そのような非天然アミノ酸の合成は、熱や強い酸、塩基を必要とするため、それらに耐性を持たない官能基を含む、複雑な骨格を有する非天然アミノ酸合成は容易ではありません。一方で、Ir や Ru、福住触媒を用いた光反応での合成も報告されていますが、これらの触媒は高価で、廃棄が困難である問題があります。

我々の研究室では、カルボン酸を基質とし、フェナントレン (Phen) やジシアノベンゼン (DCB) のような安価な有機光触媒を用いて、光誘起電子移動による脱炭酸反応を経由して非天然アミノ酸の合成に成功しました。この反応は金属を用いないためクリーンであり、この方法を用いることで非天然アミノ酸のライブラリーを増やすことが可能であると考えています。



### 主要設備・得意とする技術


#### 【得意とする技術】

- ・有機化合物の合成
- ・光反応
- ・医薬品合成に関すること

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

#### 【公開講座・出前授業】

- ・ご希望があれば、有機化学, 光反応, 医薬品合成についてお話しさせていただきます。

所属部門	計測・制御	
研究分野	身体教育学	<b>専門分野</b> 測定評価, 発育発達, 体育科教育
	青木 宏樹 准教授 博士（学術） 一般科目教室（自然科学系） aoki@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 体力測定, 子ども, 運動遊び <b>所属学協会・研究会</b> 日本体育学会, 日本体力医学会, 日本教育医学会, 日本教科教育学会

### 研究テーマ

<p>1. 測定と評価</p> <p>敏捷性, 平衡性を評価する新規テストの開発を行っています。</p> <p>また, 野球選手のパフォーマンスと筋パワーの関係について研究を行っています。</p>	<p>発育発達</p> <p>主に, 幼児期, 児童期及び青年期の体力(敏捷性やパワー)の発達について研究を行っています。</p>	<p>体育科教育</p> <p>小学校の体育授業づくりに関する研究を行っています。</p> <p>また, 中学生や高校生の考える体育授業について研究を行っています。</p>
--	---	--

### 主要設備・得意とする技術

投球速度やバットスイング速度等を測定することが可能です。  
 疾走能力と関連が高い最大無酸素パワーの測定が可能です。


### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

#### 【公開講座・出前授業】

- ・ 野球選手を対象とした体力測定を公開講座で行っています。

#### 【野球教室】

- ・ 幼稚園や保育園等でご希望があれば野球教室を行います。

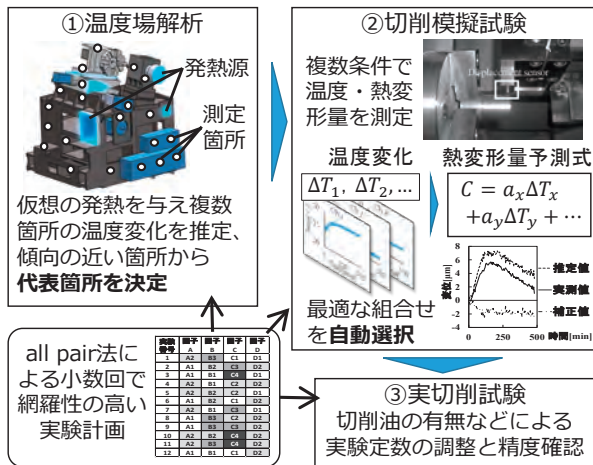
所属部門	計測・制御	
研究分野	知能機械学・機械システム	<b>専門分野</b> センサ工学, 品質工学
	伊勢 大成 講師 博士 (工学) 機械工学科 t-ise@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> インテリジェントタイヤ, パラメータ設計, 機能性評価
		<b>所属学協会・研究会</b> 日本機械学会, 品質工学会, 北陸品質工学研究会

研究テーマ

【NC旋盤の熱変形補正システムの開発】

工作機械の熱変形対策のため、少数箇所の温度測定値から熱変形を予測し、熱変形誤差を補正する方法について研究しています。

様々な条件に対応可能な熱変形補正システムを、経験によらず、低コストで迅速に構築可能とするために、熱変形解析、実験計画を利用した少数回の試験によって熱変形予測式を導出する手法の開発を目指しています。



【自律移動ロボットの品質工学による評価】

ロボット掃除機に代表される自律移動ロボットが普及しつつありますが、その性能について定量的な指標がなく、購入時に適切に比較・判断ができません。また、人がいない状態で想定外の動作をして事故につながる危険もあります。

本テーマでは、品質工学を活用し、実際の使用条件を実験条件に取り入れた機能性評価を行い、自律移動ロボットのロバスト性を定量化するための評価方法を検討します。



主要設備・得意とする技術

●得意とする技術：

品質工学を活用した効率的な実験計画の立案および統計的処理による結果分析


産官学連携や地域貢献の実績と提案

●実績：

北陸品質工学研究会において、北陸3県の企業・研究機関と技術開発の議論を行っています。

●提案：

品質工学に関する技術相談、生産工程の分析・改善

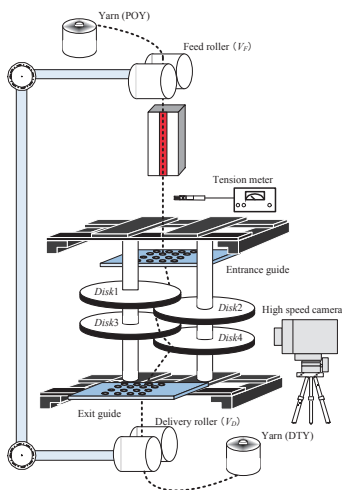
所属部門	計測・制御	
研究分野	機械力学・制御	<b>専門分野</b> 機械設計法, 機構学
	金田 直人 准教授 博士（工学） 機械工学科 機構設計研究室 kaneda@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 繊維, 機構設計, 画像処理, 数値計算, シーケンス制御 <b>所属学協会・研究会</b> 日本機械学会, 日本繊維機械学会

研究テーマ

【糸の加工メカニズムの研究】

～実験・シミュレーション～

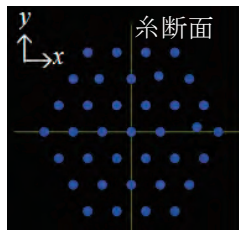
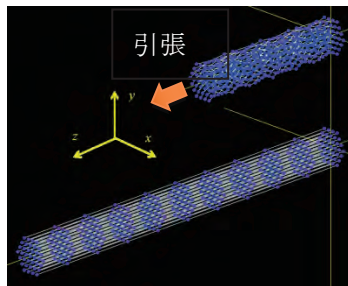
- 糸の接触状態・糸張力の観察
- 糸経路・糸張力のモデリング  
(例) ディスクフリクション



【フィラメント糸のモデリング】

～シミュレーション～

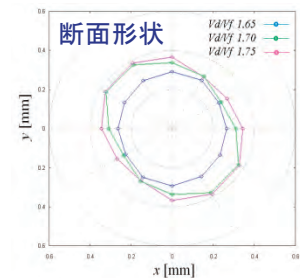
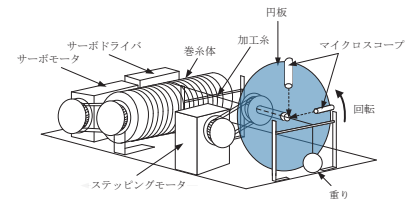
- 引張, 圧縮, 曲げ等を考慮
- 粘弾性を考慮
- フィラメント糸の挙動確認



【糸形状の評価システムの開発】

～実験～

- 見かけ糸太さを観察
- 糸の断面形状を把握
- 加工糸の捲縮特性の評価



主要設備・得意とする技術

【主要設備：機械工学科棟2階 機械工学実験室7】

- 仮燃加工機, 丸編機, 万能試験機, 高速度カメラ, 熱画像カメラ, FFTアナライザ, PLC
  - 衣服等に用いられている仮燃加工糸を生産し, 糸形状の評価や丸編機による試料を作成可能。
  - シーケンス制御, 画像処理等を用いて様々な評価に必要なインターフェースを開発。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

【地域貢献】

公開授業：さわって学ぶ！簡単な制御教室（R元年度～）


出前授業：H27年度～R元年度 5件（過去5年実績）

【学会活動等】

日本繊維機械学会：ジャーナル編集委員, 北陸支部評議委員

【共同研究等】

繊維機械における加工中の糸状態を把握する評価システムの構築（H25年度～継続中）

所属部門	計測・制御	<b>専門分野</b> 制御工学, ロボット工学
研究分野	制御・ロボティクス	
	亀山 建太郎 准教授 博士（工学） 機械工学科 人間機械システム研究室 k_kame@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 制御, モデリング, システム同定, 信号処理, 移動ロボット, 農工連携
		<b>所属学協会・研究会</b> システム制御情報学会, 計測自動制御学会, 日本ロボット学会, 日本機械学会

**研究テーマ**

**【水田用小型ロボットの研究開発】**



本テーマでは、水田を自律走行する小型ロボットの研究開発を行っています。

ロボットは、チェーンのけん引による除草を主目的としていますが、その他にも、水田環境の計測や、施肥への利用についても視野に入れた、水田用移動プラットフォームとしての開発を目指しています。

**【移動体の衝突・座礁検出アルゴリズムに関する研究】**

本テーマでは、除草ロボットなどの小型移動体の移動履歴や加速度データを計測することにより、衝突・座礁の兆しを検出し、回避行動をとらせることを目的として、カルマンフィルターを応用した座礁検出アルゴリズムを開発しています。

本テーマで開発しているアルゴリズムは、座礁検出だけでなく、移動体の位置推定や、機器の故障検出などにも応用可能なものです。

**【部分空間法に基づく未知システムのモデル構築・制御】**

本テーマでは、動特性が未知なシステムのモデルを、入出力データに基づいて決定する方法について研究をしています。

具体的には、化学プラントや機械システムに振動などの入力を与え、出力を計測して処理することにより、数学モデルを導出します。


本手法で得たモデルは、制御、故障検出、動特性解析などに利用することができます。

**主要設備・得意とする技術**

- 計測データに基づく故障検出や、移動体の位置推定・衝突検出に関する研究、および、制御・信号処理技術のロボティクスへの応用について研究しています。
- 小型機器の製作に利用可能な、3Dプリンタ (KEYENCE AGILISTA-3100), カラーハンディ 3Dスキャナ (Artec EVA), 3Dスキャナ (Roland LPX-600RE), 基板加工機 ((株) ミッツ Auto Lab W), レーザー加工機 (Epilog Mini 24) を管理しています。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- 越前市中学ロボコンの開催協力
- 「工業技術を利用した次世代農業研究会 (福井県)」に参加し、水田用除草ロボットの研究開発を行っています。また、鯖江市のメーカーとの共同開発、営農企業の協力による実地試験等を行っており、農業などへの計測制御技術・ロボット技術の応用に関する研究を推進したいと考えています。

所属部門	計測・制御／素材・加工	
研究分野	機械工学	
	北川 浩和 技術長 教育研究支援センター 機械実習工場 kitagawa@fukui-nct.ac.jp	<b>専門分野</b> 加工学, 知能機械学 <b>キーワード</b> 機械加工, 汎用工作機械, 電子工作, 電気工事 組込み型マイコン

### 研究テーマ

#### 【機械加工, 実技指導】

機械実習初心者にも安全で分かりやすい, 座学やテキストでは学習できない経験的知識(暗黙知)の習得に重点を置いた実技指導を行っています。

同時に機械切削加工での各種測定工具等の実用使用法, 取扱法の指導も行っています。

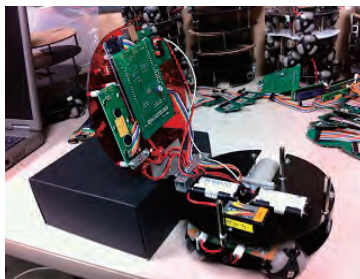
また, 各種工作機械を利用し実験装置, 実習補助具等の製作も行っています。



#### 【知能機械, ロボット】

機械を動かすための電気複合技術や組込み型マイコン, プログラミングを含む電子工作的な弱电分野から, 軽微な低圧電気工事までの電気・電子制御技術の習得に努めて参りました。

プログラム学習用ロボットの開発では, 機械部品加工, 電子回路設計, プリント基板設計, 組み立てまで電気, 機械総合的な製作を行いました。



#### 【3Dプリンターを使った造形】

3Dプリンターによる積層造形を利用した, 各種試作を行っています。その中で, 最小限のモデリング材, サポート材による造形工夫や, 設計段階で強度を考慮した部品分割による, 造形時間の短縮から, コスト低減工夫した造形を行っています。

また, 造形物と金属部品を組み合わせた, ハイブリッド的な部品製作も予定しています。



### 主要設備・得意とする技術

機械実習工場に設置されている汎用, NC旋盤, 工作機械を利用した各種機械加工, 実験装置製作。


実用電子回路設計, プリント基板製作, 電子工作から軽微な低圧電気工事までの実用作業。

次世代加工機(3Dプリンター等)を活用した, 各種設計, 造形製作。

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

メカトロで遊んでロボットに強くなろう。(2005年 機械工学科公開講座)

3Dプリンターでレスキュー笛を造形する夏季科学教室(2015年 教育研究支援センター公開講座)

所属部門	計測・制御	
研究分野	機械工学	専門分野
	北野 公崇 技術職員 修士（工学） 教育研究支援センター kitano@fukui-nct.ac.jp	精密計測・幾何光学
		キーワード
		所属学協会・研究会
		精密工学会

研究テーマ

【光ファイバを応用した等方的3次元特性をもつ変位計】

光ファイバ変位計3組を応用し、球に対するXYZ方向(3次元)感度が等方的な変位センサを開発します。現在、幾何光学に基づくシミュレーションにより、光学変位センサの特性を研究しています(図1)。高感度かつ等方的3次元特性をもつ光学変位センサの実現により、方向依存の測定誤差をナノメートルオーダーまで小さくできる可能性があります。応用例として、三次元座標測定機のタッチプローブの研究を行ってきました(図2)。

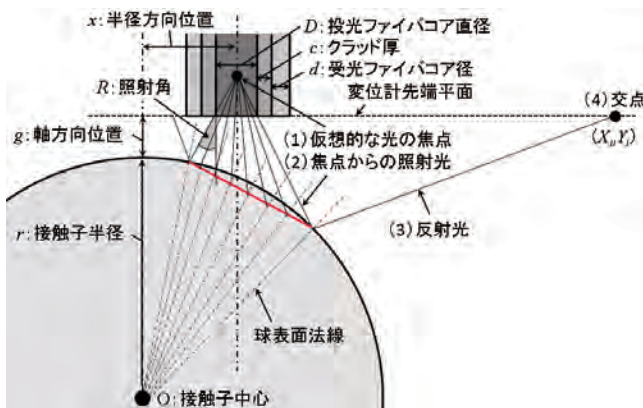


図1. 反射光線の幾何光学的な導出

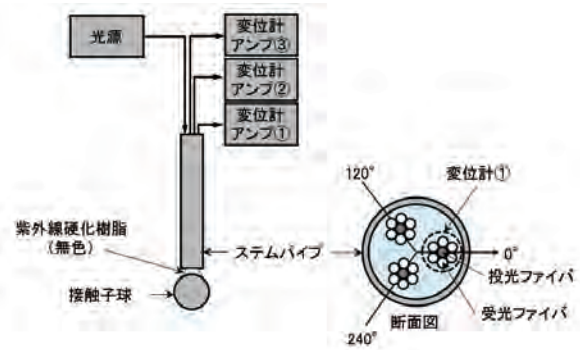


図2. 3Dタッチプローブ(応用例)

主要設備・得意とする技術

【得意とする技術】


- ・光ファイバ変位計の高感度化・設計・試作
- ・各測定対象形状に対する光ファイバ変位計の特性シミュレーション
- ・三次元座標測定機用タッチプローブの寸法測定誤差低減方法の提案

産官学連携や地域貢献の実績と提案

【研究提案】

- ・6自由度変位ベクトルが計測可能な光学変位センサの提案
- ・等方的3次元特性を応用した計測機器の提案

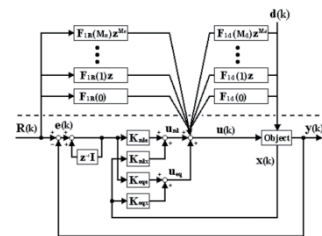


所属部門	計測・制御	
研究分野	自動制御	<b>専門分野</b> 自動制御, 自動計測
	佐藤 匡 教授 博士（工学） 電気電子工学科 制御工学研究室 tsato@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 予見制御, スライディングモード制御, 入力制限問題
		<b>所属学協会・研究会</b> システム制御情報学会, 信号処理学会, 日本工学教育協会

**研究テーマ**

**【デジタル予見スライディングモード制御系構成法】**

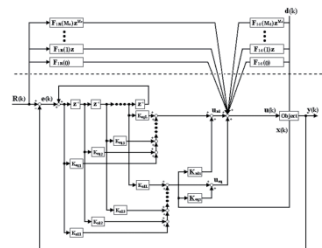
- 目標値の未来情報を利用しシステムの応答改善を図る予見制御と、外乱やパラメータ変動に強い可変構造制御の一種であるスライディングモード制御の特徴を併せ持つ制御系構成法です。  
全系を一括で設計する手法と、基本となる系に補償器を付加する手法があります。(図1)



(図1)

**【繰り返し予見スライディングモード制御系構成法】**

- 周期性のある目標値に対応できる予見スライディングモード制御系構成法。外乱に強く位相遅れ改善効果があります。(図2)



(図2)

**【離散有限個の入力による制御器設計法】**


- 線形アンプを必要としない、離散値制御の一種。システムの構造を簡単にし、効率改善効果が期待できます。

**主要設備・得意とする技術**

倒立振子実験装置を管理しています。制御 CAD ソフト Matlab および Simulink を用いた制御器設計設計から実装までをシームレスに行えます。

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

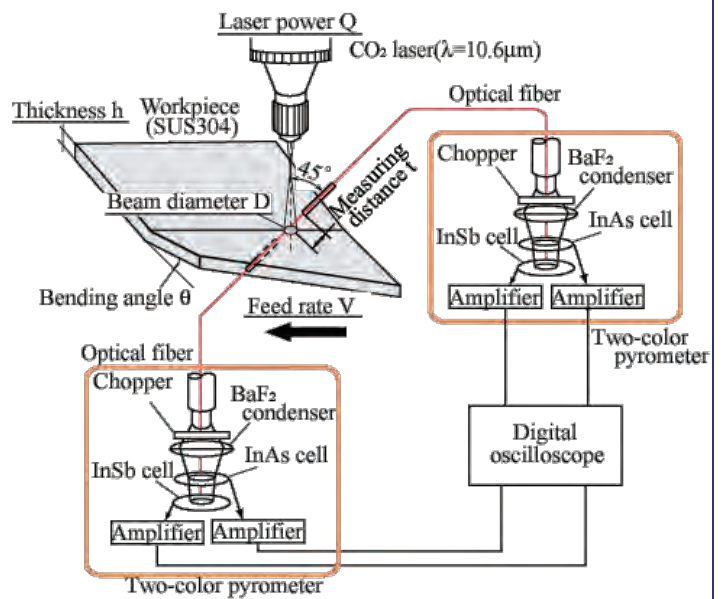
- ・ 公開講座「自律ロボット製作入門」
- ・ 各種装置の自動計測および自動制御

所属部門	計測・制御	
研究分野	機械工学	<b>専門分野</b> 生産工学・加工学
	千徳 英介 准教授 博士（工学） 機械工学科 生産加工システム研究室 sentoku@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 温度計測，切削抵抗，工具摩耗，レーザフォーミング
		<b>所属学協会・研究会</b> 精密工学会，砥粒加工学会，レーザ加工学会，トライボロジー学会

**研究テーマ**

**【切削およびレーザ加工の加工温度モニタリング】**

- 目的：熱電対などでは難しい切削やレーザの加工点の温度を高応答，高精度に測定します。
- 特徴：加工点から放出される赤外線を検出し，温度に変換するため非接触で温度場を乱さずに温度測定が可能です。
- 成果例：レーザによる塑性加工法であるレーザフォーミング加工に適用し，左図のような温度モニタリングシステムを構築して，変形メカニズムの解明と加工量の制御パラメータとしての加工温度の可能性を示しています。
- 社会との関わり：加工温度の観点から加工プロセスを検証し，加工技術や工具の開発に貢献しています。




**主要設備・得意とする技術**

- 主要設備：マシニングセンタ（森精機，NV4000）
- 得意とする技術：
  - ・ドリル加工，エンドミル加工時の切削抵抗と切削温度の測定
  - ・レーザ加工時の加工温度測定

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

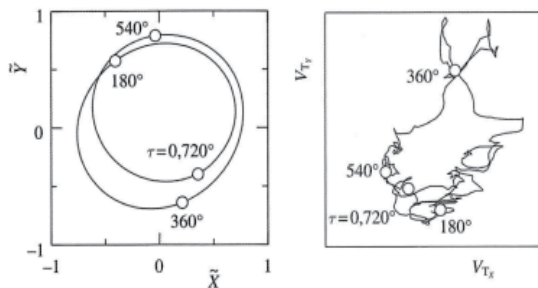
- 実績：
  - ・地元メーカーと外部助成金を獲得し，切削工具の高度化に関する研究を行いました。
  - ・簡単な工作を行う小学校向けの出前授業や中学生向けの公開講座などものづくりに関する活動を行ないました。
- 提案：
  - ・切削加工，レーザ加工の高度化や課題解決に関する技術相談，共同研究を行います。

所属部門	計測・制御	
研究分野	流体工学	専門分野
	田中 嘉津彦 教授 博士（工学） 機械工学科 液圧研究室 katanaka@fukui-nct.ac.jp	液圧工学, トライボロジー キーワード 液圧機器, トライボロジー, 最適設計 所属学協会・研究会 日本機械学会, 日本フルードパワーシステム学会

研究テーマ

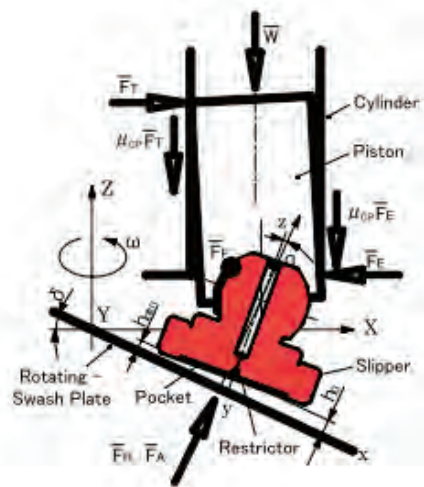
【液圧機器における基本しゅう動要素の最適設計法の提案】

トライボロジー（摩擦・摩耗・潤滑の総称）の観点から液圧機器の基本しゅう動要素の一つであるピストンの運動特性を検討し、機器の効率と信頼性の向上が図れるしゅう動部形状に関する設計法の確立を目指しています。下図は、数値計算と実験により明らかとなったシリンダ内のピストンの運動軌跡の例です。



【液圧機器におけるハイブリッド軸受の基本特性】

液圧機器には、静圧と動圧の二つの効果を有した軸受が多用されており、一般的な軸受とは異なり、シールと軸受の相反する機能が要求されています。両機能は、同要素の運動特性と密接に関係しており、下図のようなモデルを提案し、混合潤滑解析を踏まえた基本的な運動特性を解析しています。このような解析結果を通して、ハイブリッド軸受の特性評価を行い、基本的な設計指針の提示を目指します。




主要設備・得意とする技術

- ・液圧機器で用いられているピストンの摩擦特性や運動特性を実験的に調査するためのモデル機を保有しています。同モデル機では、スリッパ軸受の運動特性を調査することも可能です。
- ・機械システムにおけるしゅう動部のトライボロジー問題に、実験と理論の両面からアプローチしています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

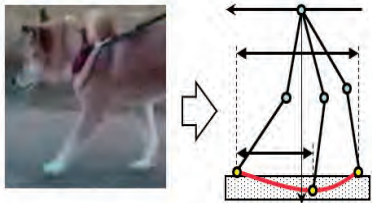
- ・しゅう動部の摩擦特性に関する実験および数値計算
- ・しゅう動要素の運動挙動
- ・なじみ運転条件の検討

所属部門	計測・制御	
研究分野	知覚情報処理	<b>専門分野</b> シミュレーション, 信号解析, 工学教育
	西 仁司 准教授 博士 (工学) 電子情報工学科 nishi@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> 歩行ロボット, 画像解析, ものづくり
		<b>所属学協会・研究会</b> 電子情報通信学会, レーザー学会, 工学教育協会


**研究テーマ**

**【歩行ロボットの歩容生成】**

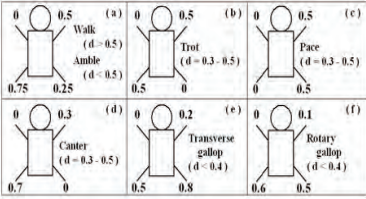
- 歩くロボットは人間社会との整合性が高く, さまざまな利用形態に期待  
→ロボットセラピー分野への応用を目的に, ロボットの歩容生成手法を提案
- 動物らしい歩き方を実現するために, 遺伝的アルゴリズム, 動物学, 人間の感性など複数の手法を利用した歩き方の評価を実施



動物の歩容からのパラメータ抽出



単脚の歩容生成



動物学を利用し4足歩行へ拡張

人間の感性を取り入れた総合的な評価

**動物らしい歩容**

**【FM一括変換方式における特性シミュレーション】**


- 周波数分割多重された信号を一括してFM変調して光ファイバ伝送  
→伝送帯域の効率的な利用, E/O変換時の非線形特性に対する耐性
- システムの伝送特性を決めるパラメータの特定に向けた研究

**主要設備・得意とする技術**

・4足歩行ロボット「AIBO」, 2足歩行ロボット「PALRO」等を利用した, ロボット体験出前授業の実施

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・公開講座「FMラジオを作ろう」「簡単!マイコンでプログラミング」(実績)
- ・出前授業「越前市中学ロボットコンテスト製作教室」(実績)
- ・出前授業「AIBOと遊ぼう」(実績)
- ・出前授業「LEGOでロボットを作ろう」(実績)
- ・メガネ枠製造業者様とさばえメガネwakuコンテスト優秀作品の試作(実績)
- ・共同研究「生産技術の向上に関する研究」(実績)

所属部門	計測・制御	<b>専門分野</b> 機械設計, 繊維 <b>キーワード</b> 仮撚加工, 機械設計, シーケンス制御, 空圧機器
研究分野	機械力学・制御	
 林田 剛一 技術職員 教育研究支援センター hayashida@fukui-nct.ac.jp		

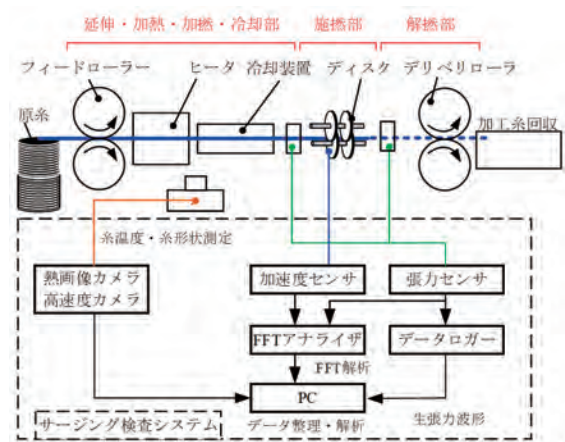
**研究テーマ**

**【仮撚加工機におけるサージングに関する研究】**

衣服などに用いられている伸縮性を有する糸を生産できる、仮撚加工機の研究を行ってきました。

仮撚加工の問題として、加工速度を上昇させることで糸が不安定に挙動する現象「サージング」が発生することが挙げられます。同現象は糸切れ・未解撚糸を誘発し、加工後の糸品質を低下させます。

そこで筆者らはサージングを解明し同現象の抑制に寄与するため、サージングによる糸の挙動変化等を、画像解析を始めとした様々な方法で観察しています。



**主要設備・得意とする技術**


**【得意とする技術】**

- ・シーケンス制御を用いた簡単な装置製作が可能です。  
PLC等を用いた制御やラダー回路の構築も可能です。
- ・空圧機器を用いたシステム構築が可能です。  
空気圧回路図の作成・説明が可能です。



**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・ H29年度：出前授業「熱風車」に参加
- ・ R2年度：科学教室「Ooho!入りハーバリウムを作ろう」に参加
- ・ その他出前授業等を通し、科学・工学の面白さを伝える活動を行っていきたく考えています。

所属部門	計測・制御	
研究分野	知覚情報処理・知能ロボティクス	<b>専門分野</b> 制御工学, 画像処理, パターン認識, ゲーム学
	村田 知也 講師 博士(工学) 電子情報工学科 知覚情報処理演習室 murata@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> ロボット経路計画, 画像認識, ゲームアプリ <b>所属学協会・研究会</b> 情報処理学会, ロボット学会, 次世代ロボット研究会・北陸

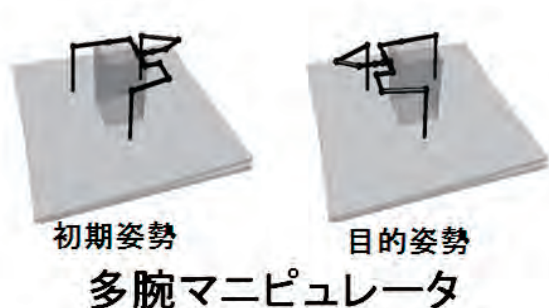
### 研究テーマ

#### 【マニピュレータの経路計画】

● マニピュレータとはロボットアームのことです。そのマニピュレータを初期姿勢から、障害物と干渉しない目的姿勢までの経路を計算する問題は経路計画と呼ばれています。従来の方法では膨大な計算量が必要になるので、高速化のできる手法を提案します。また画像認識を利用してトマトの収穫ロボットの開発をしています。

#### 【メガネをバーチャルに試着する研究】

● 映像やセンサーを使って顔や体を認識することで、メガネをバーチャルに試着することができ、リアルタイムにデザインが可能になるアプリケーションの開発を行います。




### 主要設備・得意とする技術

- ロボットマニピュレータの経路計画シミュレーション。
- i-OS, Android 端末を使ったアプリケーションの作成。
- 画像処理による物体検出と認識。

### 産官学連携や地域貢献の実績と提案

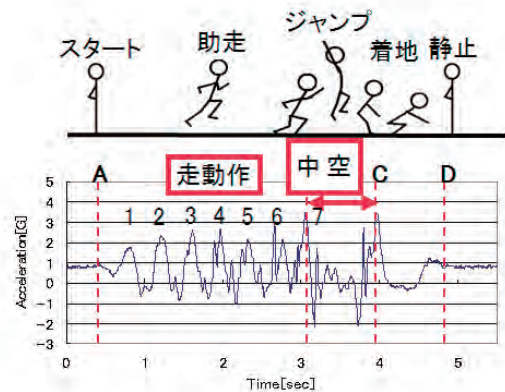
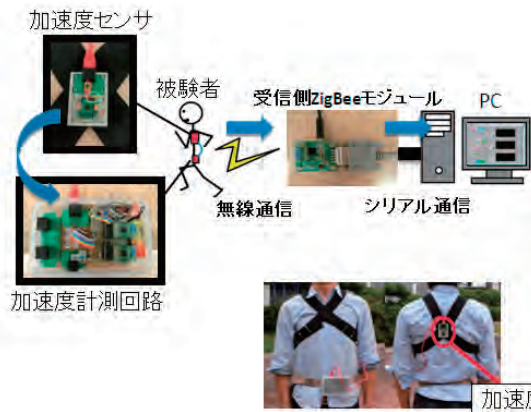
- トマト収穫ロボットの開発
- 眼鏡企業との研究開発
- ご当地におけるゲームアプリの開発

所属部門	計測・制御	
研究分野	計測工学	<b>専門分野</b> イオンビーム工学, センサ工学, 計測工学
	米田 知晃 教授 博士（理学） 電気電子工学科 計測工学研究室 yoneda@fukui-nct.ac.jp	<b>キーワード</b> イオンビーム, 放射線, センサ, 回路設計
		<b>所属学協会・研究会</b> 応用物理学会, 米国物理学会, 日本工学教育協会

**研究テーマ**

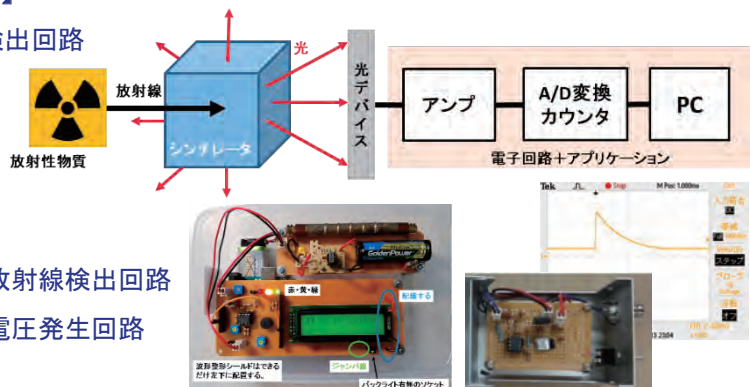
**【慣性センサ（加速度センサ, ジャイロセンサ）を利用した運動動作計測】**

- 加速度センサを用いたバスケットボール競技におけるワン・ハンドシュート動作分析
- 加速度センサと無線モジュールを利用したランニングおよびジャンプ動作分析。



**【教育用放射線検出用電子回路に関する研究】**

- PIN フォトダイオードを用いた放射線検出回路
- GM 管を用いた簡単な放射線検出回路
- 波形整形回路とカウンタ回路
- 展示用ガスフロー計数管の作成
- PHA (Pulse Height Analysis) 回路
- CsI (TI) シンチレータと MPPC を用いた放射線検出回路
- 放射線検出回路用のトランス昇圧型高電圧発生回路



**主要設備・得意とする技術**

- ・ 3D プロッタ, プリント基板加工機を管理しており, 樹脂加工や回路基板設計などに利用しています。
- ・ GM サーベイメータ, シンチレーションサーベイメータ, 環境放射線モニタ
- ・ イオン注入やイオン散乱分光のコンピュータシミュレーション技術

**産官学連携や地域貢献の実績と提案**

- ・ イオンビームを用いた薄膜表面分析
- ・ 防災対策のための河川における水位計測システムの開発
- ・ 原子力防災に関する講演会

Advanced Research Center for Regional Cooperation of

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), FUKUI COLLEGE

独立行政法人国立高等専門学校機構

福井工業高等専門学校 地域連携テクノセンター

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

TEL (0778) 62-1881 (総務・地域連携係)

FAX (0778) 62-2597

E-mail [techno@fukui-nct.ac.jp](mailto:techno@fukui-nct.ac.jp)